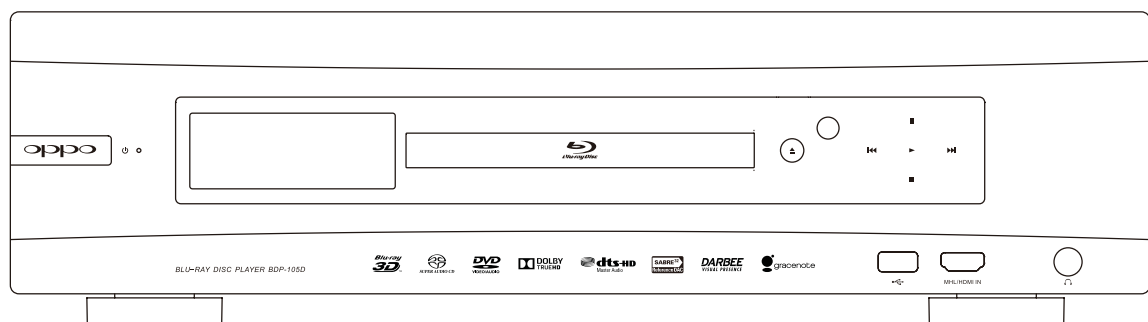


oppo®

# ユーザーマニュアル

ご使用前にお読みください

## Blu-ray Disc Player BDP-105D(JP)





# 目次

重要なお知らせ .....	1
安全上の重要なお願い .....	1
注意 .....	2
FCC Statement .....	2
商標 .....	3
互換ディスク種類 .....	3
再生できないディスク .....	4
ディスクのお手入れと取り扱い .....	4
BD-ROMの互換性に関して .....	4
著作権保護 .....	4
Cinaviaに関して .....	4
Gracenoteに関して .....	4
リージョン管理情報 .....	5
付属品 .....	5
設置 .....	6
本体前面 .....	6
前面表示窓 .....	6
背面のコネクター .....	7
リモートコントロール .....	8
リモコンのボタン .....	8
背面 .....	9
電池の取り付け .....	9
リモコンの使用 .....	9
リモートコードの変更 .....	10
バックライト照明の変更 .....	10
一般的な接続方法 .....	11
HDMIケーブルを使ったA/Vレシーバーへの接続 .....	11
デュアルHDMIを使ったテレビとA/Vレシーバーへの接続 .....	12
HDMIを使ったテレビへの接続 .....	13
HDMIによる2台のテレビへの接続 .....	14
DVIによるテレビへの接続 .....	15
オーディオの代替接続法 .....	16
RCAケーブルによるステレオオーディオシステムへの接続 .....	16
XLRバランスケーブルによるステレオオーディオシステムへの接続 .....	17
アナログ出力によるA/Vレシーバー、アンプへの接続 .....	18
S/PDIF (同軸 / 光) によるA/Vレシーバー、アンプへの接続 .....	19
BDP-105DJPへのHDMI / MHL入力 .....	20
BDP-105DJPへのデジタルオーディオ入力 (光、同軸、USB) .....	21
インターネットへの接続 .....	22
イーサネットケーブルを使用したインターネット接続 .....	22
無線LANアダプタを使用したインターネット接続 .....	23
カスタムな設置 .....	24
外部IR (赤外線リモート) 取り付け .....	24
RS232制御 .....	24
クイックスタートガイド .....	25

電源の投入と再生.....	25
最適な出力解像度の選択.....	25
表示の横縦比決定.....	26
<b>基本操作.....</b>	<b>27</b>
ディスクの再生.....	27
オプションメニュー.....	27
早送り再生.....	28
一時停止とコマ送り/戻し.....	28
スロー再生.....	29
ブルーレイディスクメニュー再生.....	29
DVDメニュー再生.....	29
オンスクリーン表示.....	30
音量調節.....	30
消音.....	31
オーディオ言語/トラックの選択.....	31
字幕選択.....	32
HDMI / MHL INPUTの選択.....	32
デジタルオーディオ入力選択.....	32
オーディオリターンチャンネル (ARC) 選択.....	32
BD-Live.....	33
<b>高度な操作.....</b>	<b>34</b>
出力解像度.....	34
拡大/縮小、横縦比の制御.....	35
HDMI出力の拡大率.....	35
字幕の上下移動.....	37
繰り返し再生.....	37
指定箇所の繰り返し再生.....	38
シャッフル、ランダム再生.....	38
チャプター、トラック番号を指定して再生.....	38
特定箇所からの再生.....	39
DVD、ブルーレイディスク.....	39
CD、SACDディスク.....	40
メモリー、自動続き再生.....	41
DVDオーディオディスクの画像表示.....	41
ピュアオーディオモード.....	41
<b>メディアファイルの再生.....</b>	<b>43</b>
USBフラッシュドライブからの再生.....	43
家庭内ネットワークのメディア共有.....	44
HOMEメニューのインターネットストリーミング.....	45
音楽ファイルの再生.....	46
ムービーファイルの再生.....	47
写真ファイルの再生.....	48
バックグラウンドミュージックの再生.....	49
<b>セットアップメニューのオプション.....</b>	<b>50</b>
セットアップメニューシステムの使用.....	50
再生設定.....	53

ビデオ設定 .....	55
画質調整 .....	58
HDMIオプション.....	62
オーディオ形式設定 .....	63
オーディオ信号参照表 .....	66
推奨のオーディオ形式オプション .....	67
オーディオ出力設定 .....	69
スピーカー設定 .....	69
その他のオーディオ出力設定 .....	73
機器設定 .....	75
ネットワーク設定.....	79
参考情報 .....	83
ご注意 .....	83
困ったときには .....	83
仕様 .....	85
言語コード一覧 .....	86
Gracenote Terms of Use .....	87
DARBEEVISION, INC.LICENSE AGREEMENT.....	88
OPPO Digital Japan 製品保証書 .....	90

# 重要なお知らせ

**CAUTION**  
**RISK OF ELECTRIC SHOCK.**  
**DO NOT OPEN.**

**CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.**



正三角形の中の矢印の付いた稲妻は、製品の筐体に人体に危険なレベルの感電を及ぼす可能性がある、絶縁されていない「危険な電圧」が存在することをユーザーに警告するためのものです。



正三角形の中の感嘆符は、この電気器具に付属の説明書に操作や管理に関する重要な指示があることをユーザーに知らせるためのものです。

## 警告:

火災や感電の危険を避けるために、この電気器具を雨や水分にさらさないでください。筐体内には危険な高電圧部分が存在します。キャビネットを開けないでください。修理は資格のある専門家に依頼してください。

本機に水がかかったり濡れたりしないようにしてください。また、上に花瓶などの水が入ったものを置かないでください。

## 安全上の重要なお願い

- 1) 以下の説明を読んでください。
- 2) 説明書を保管しておいてください。
- 3) すべての警告に留意してください。
- 4) すべての指示に従ってください。
- 5) 本機を水のそばで使用しないでください
- 6) 拭き取りは乾いた布で行ってください
- 7) 通風口をふさがないでください。メーカーの指示に従って設置してください。
- 8) ヒーター、ストーブその他の (アンプを含む) 熱を発生する機器等、熱源のそばに設置しないでください。
- 9) 極性や接地があるプラグの安全性を無効にしないでください。極性のあるプラグは端子の1つの幅が他の端子より広がっているものです。接地があるプラグは2つの平たい端子と1つの接地端子があるものです。これらの幅広の端子や3番目の接地端子は、安全のために使われています。付属のプラグがコンセント形状に合わない場合には、資格のある電気工事士に旧型コンセントの交換を相談してください。
- 10) 電源コード、特にプラグ、コンセント、機器との接続の部分が踏まれたりつぶされたりしないように 保護してください。

## 注意:

電池を間違えて取り付けると爆発する危険性があります。電池は同一または同等のものと交換してください。

この製品はレーザーを使用しています。本文章中で説明されている以外の調整、調節、手順を実行すると、有害な光線照射を受けるおそれがあります。カバーを開けたり、自分で修理しようとしていたりしないでください。修理はお買い求めの販売店にお問い合わせください。

## CLASS I LASER PRODUCT

**CAUTION** CLASS 3R VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID DIRECT EYE EXPOSURE.

**VORSICHT** KLASSE 3R SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG WENN GEÖFFNET. UNMITTELBAREN AUGENKONTAKT VERMEIDEN.

**ADVARSEL** SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING AF KLASSE 3R VED ÅBNING. UNDGÅ AT SE DIREKTE PÅ STRÅLEN.

**ADVARSEL** SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING I KLASSE 3R NÅR DEKSEL ÅPNES. UNINGÅ DIREKTE EKSPONERING AV ØYNE.

**VARNING** KLASS 3R SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. UNDVIK ATT DIREKT EXPONERA ÖGONEN FÖR STRÅLNINGEN.

**VARO!** AVATTUNA LUOKAN 3R NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖNTÄ LASERSÄTEILYÄ. VÄLTÄ KATSEEN SUORAA ALTISTAMISTA.

**警告** 打开时有3R类可见和不可见激光辐射, 避免眼睛受到直射的照射

このラベルは製品内部のレーザーの保護カバーに貼られています。

- 11) メーカーの指定した付属品、アクセサリのみを使用するようにしてください。
- 12) 製品と一緒に販売されているか、メーカーの指定したカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルとのみ使用するよう にしてください。カートを使用する際には、カートと機器を組み合わせて動かす際に躓いて怪我をしないように注意してください。
- 13) 雷嵐のときや長期間使用しない場合は、機器をコンセントから外してください。
- 14) 修理はすべて資格のある専門家に任せてください。電源コードやプラグの破損等、機器が破損した場合や、液体がかかった場合、上に物を落とした場合、雨や水分にさらされた場合、正常動作しない場合、落としてしまった場合等には修理が必要です。
- 15) 電池 (電池パックや取り付けられた電池) は、太陽光や火のような異常な高温にさらさないでください



### 注意

- AC電源コードを電気器具に接続する前に、器具の電圧指定が供給電圧に一致していることを確認してください。電源が対応しているか不明の場合には、電力会社に問い合わせるようにしてください。対応電源入力範囲はAC ~ 100V/~230V、50/60Hzです。
- CLASS I構造の機器は保護接地接続がある商用電力コンセントに接続してください。
- プレーヤーがコンセントに接続されている間は、電源が切られていてもAC電源から電力が供給されています。
- 長期間製品を使わない場合にはコンセントから電源コードを外しておいてください。プラグを抜くときはコードを引っ張らずにプラグを持って外してください。
- 主プラグは電源を切るための手段として使用されますので、簡単にプラグが抜けるようにしておいてください。
- 製品に適切な換気を確保するため、製品をソファーやベッド、絨毯の上に置かないでください。壁や本棚に設置する場合には、周りに十分なスペースを確保してください。製品の上、両横、後ろには約10cmの空間を確保することをお勧めします。
- 高温になると装置が異常な動作をするようになります。この装置や電池を直射日光やその他の発熱する物体のそばに放置しないでください。
- プレーヤーを冷えた場所から暖かい場所に移動したり、暖かい場所から冷えた場所に移動したりすると、プレーヤー内のレーザーのピックアップ部分に結露することがあり、その時にはプレーヤーが正常動作しなくなることがあります。このような場合には、装置の電源を入れたままディスクはセットしないで1、2時間放置して湿気を蒸発させてください。

### FCC Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.

- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.












Any unauthorized changes or modifications to this equipment would void the user's authority to operate this device.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

## 商標

- 「Blu-ray Disc(ブルーレイディスク)」、「Blu-ray(ブルーレイ) 3D」、「BONUSVIEW」、「BD- Live」はBlu-ray Disc Associationの商標です。
- Javaおよび全てのJavaに基づく商標は、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- DVDロゴはDVDフォーマット/ロゴライセンスの商標で、米国、日本およびその他の国において登録されています。
- スーパーオーディオCD、SACD、SACDロゴは、SonyとPhilips Electronics N.V.の共有商標です。ダイレクトストリームデジタル(DSD)はSonyの商標です。
- 「AVCHD」と「AVCHD」ロゴは、PanasonicとSonyの商標です。
- Designed for Windows Media、Microsoft、HDCD、HDCDロゴはMicrosoftの米国とその他の国の商標および登録商標です。
- 「480i/480p/720p/1080i/1080p」のアップコンバート矢印ロゴ、「Source Direct」と「True 24p」ロゴはOPPO Digital, Inc.の商標です。
- 「Netflix」はNetflix, Inc.の登録商標です。
- 「Darbee」、「Darbee Visual Presence」はDarbee Vision, Inc.の商標です。
- 「VRS ClearView」、「Video Reference Series」はSilicon Image, Inc.の商標です。米国特許5,956,674号、5,974,380号、6,226,616号、6,487,535号、7,392,195号、7,272,567号、7,333,929号、7,212,872号、または米国およびその他の国での登録済み特許、または特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、記号、およびDTS-HDと記号の組み合わせはDTS社の登録商標であり、また、DTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。製品はソフトウェアを含んでいます。© DTS社不許複製。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビーおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing社の商標または登録商標です。
- 「DivX」および「DivX Plus」はDivX社の商標です。
- 「Pandora」はPandora社の商標です。
- 「Gracenote」はGracenote社の商標です。
- 「Cinavia」はVerance社の商標です。
- その他の商標については当該各社が所有権を有します。

## 互換ディスク種類

ロゴ	機能	マニュアル中のシンボル
	<b>BD:</b> ブルーレイ3Dディスクを含むボーナスビューおよびBD-Liveコンテンツ付きブルーレイ。3Dの再生には3D対応のディスプレイと3D互換メガネが必要です。シングルおよびデュアルレイヤーのBD-R/REにも対応します。	
	<b>DVD:</b> 市販のDVDとファイナライズされたDVD±R/RW。	
	<b>DVD-A:</b> 高解像度ステレオまたはマルチチャンネルオーディオ。DVDオーディオディスクの中にはDVDビデオ部分を含むものもあります。	
	<b>SACD:</b> 高解像度ステレオまたはマルチチャンネルオーディオ。SACDの中にはハイブリッドフォーマットでCDと高解像度DSDの両方のレイヤーを使ったものがあります。	
	<b>CD:</b> 標準のRed Book準拠CDと高解像度HDCDとCD-R/RW。	
	<b>AVCHD:</b> 主にDVD±Rやフラッシュメモリーに記録されたハイビジョンデジタルビデオカメラのフォーマット。	

### 再生できないディスク

- カートリッジに入ったブルーレイディスク
- DVD-RAM
- HD-DVD
- CDエクストラのデータ部分
- リージョンコード以外のDVDとA以外のブルーレイ
- 一部の両面ディスク: 両面ディスクは片面にDVDビデオ、もう片面にデジタルオーディオが記録されたディスクは、デジタルオーディオ面がCDフォーマットのレッドブック仕様を満たしていないため、再生を保証しません。
- コピープロテクトのかかったオーディオディスクは再生できない場合があります。

### ディスクのお手入れと取り扱い

- ディスクに傷や指紋をつけずにきれいな状態を維持するため、ディスクは縁の部分を持って取り扱い、記録面には手を触れないでください。
- ブルーレイの記録データは非常に高密度で、記録レイヤーはディスク表面のすぐ下にあります。このため、ブルーレイディスクは、DVDより埃や指紋の影響を受けやすくなっています。再生で問題が発生したディスクの表面に汚れがある場合には、クリーニングクロスで拭き取るようにしてください。ディスクを拭く場合には、中央から外側に向けて放射方向に汚れを拭き取ります。回転方向には拭かないでください。
- レコード用の清掃スプレーやベンゼン、シンナー、帯電防止スプレーのような溶剤は使用しないでください。
- ディスクにラベルやステッカーを貼らないでください。ディスクが反ったり厚くなりすぎて、再生に問題が発生したりドライブから取り出せなくなる可能性があります。
- 直射日光や熱源は避けてください。
- 次のようなディスクは使わないでください:
  - ステッカーやラベルをはがして粘着物が付着しているディスク。ディスクが取り出せなくなる可能性があります。
  - 反ったりヒビが入ったりしているディスク。
  - ハート型や名刺型のような不規則な形状のディスク。

### BD-ROMの互換性に関して

コピープロテクトのかかったオーディオディスクは再生できないことがあります。

ブルーレイディスクの仕様は新しく発展中であるため、ディスクの種類、バージョン、エンコーディングによっては正常に再生できないものがあるかも知れません。また、プレーヤーの製造後に策定されたブルーレイディスク仕様の新機能が使われる可能性があります。最善の視聴環境を保証するためにはプレーヤーのファームウェアを適宜アップデートする必要があります。OPPO Digitalのウェブサイト [www.oppodigital.jp](http://www.oppodigital.jp) でアップデートを確認してください。

### 著作権保護

この製品は、米国の特許およびその他の知的財産権により保護される著作権保護技術を使用しています。この著作権保護技術の使用はRovi社により許諾されなければならず、Rovi社の許諾がない場合には家庭およびその他の限定的な視聴専用です。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

### Cinaviaに関して

商用フィルムやビデオ、そのサウンドトラックの不正な複製の使用を制限するために、本製品にはCinavia社の技術が使われています。不正な複製の禁止使用行為が検出されると、メッセージが表示されて再生や複製は中断されます。

Cinavia技術の追加情報はCinavia社のオンライン消費者情報センター (<http://www.cinavia.com>) でご覧ください。文書によるCinaviaに関する追加情報の要求は、返信住所を記載したはがきを次の住所まで送付してください: Cinavia Consumer Information Center, P.O. Box 86851, San Diego, CA, 92138, USA

### Gracenoteに関して

音楽およびビデオ認識技術とそれに関連するデータはGracenote®により提供されます。Gracenoteは、音楽とビデオ認識と関連するコンテンツ配信の業界標準です。追加情報は [www.gracenote.com](http://www.gracenote.com) でご覧ください。

Gracenote, Inc. 提供の CD、DVD、Blu-ray Disc および音楽・映像関連データ: copyright © 2000 to present Gracenote. Gracenote Software, copyright © 2000 to present Gracenote. 本製品およびサービスには、Gracenote が所有する1つまたは複数の特許が適用されます。適用可能な一部の Gracenote 特許の一覧については、Gracenote ウェブサイトををご覧ください。Gracenote、CDDB、MusicID、MediaVOCS、Gracenote のロゴとロゴタイプ、および “Powered by Gracenote” ロゴは、米国およびその他の国における Gracenote の登録商標または商標です。



## リージョン管理情報

このプレーヤーはリージョン管理情報に対応するように設計、製造されています。BDビデオやDVDディスクのリージョン番号がプレーヤーのリージョン番号に対応していない場合には、このプレーヤーでそのディスクを再生することはできません。

BDビデオ: このプレーヤーではリージョンコードAのマークがついているディスクが再生できます。



DVDビデオ: このプレーヤーはリージョンコードが2のDVDを再生できます。



## 付属品

お買い上げのBDP-105DJPパッケージに以下のパーツが付属していることを確認してください:



ユーザーマニュアル



USB延長ケーブル (約4.5フィート)



電源ケーブル (約4.5フィート)



リモコン (単3電池付き)



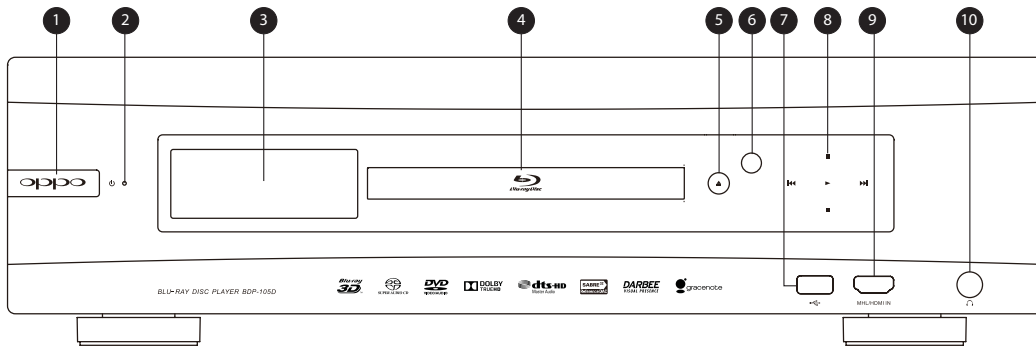
HDMI 1.4ケーブル (約6フィート)



USB 無線LANアダプタ (802.11b/g/n 対応, 2.4GHz)

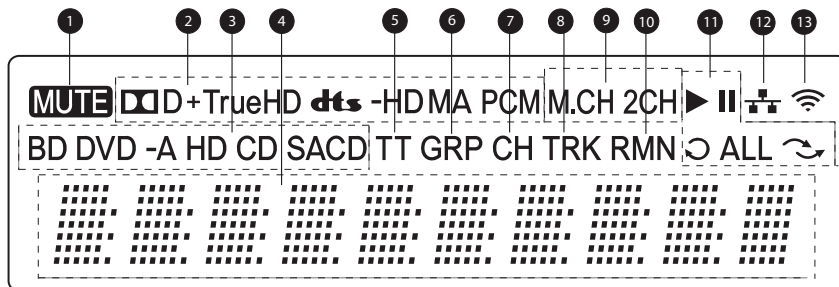
# 設置

## 本体前面



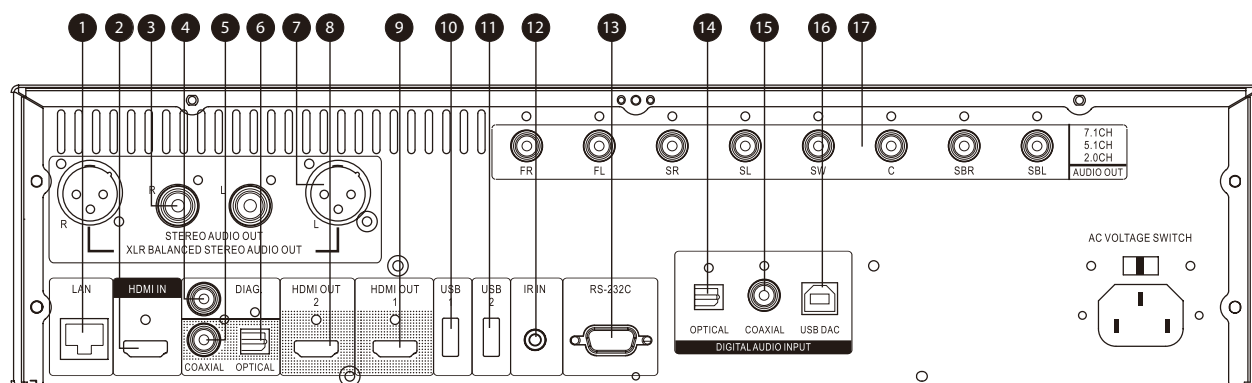
- |              |                |                 |                  |
|--------------|----------------|-----------------|------------------|
| 1. 電源ボタン     | 5. バックライト付きトレイ | 8. 再生コントロール、ナビボ | 10. ¼インチステレオヘッドホ |
| 2. 電源ステータス表示 | 開/閉ボタン         | タン              | ンジャック (6.3mm)    |
| 3. 前面表示窓     | 6. IRセンサー受光窓   | 9. MHL対応HDMI入力  |                  |
| 4. ディスクトレイ   | 7. USB 2.0入力   |                 |                  |

## 前面表示窓



- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. 消音アイコン — オーディオの消音時に表示されます   | 8. トラック — 点灯中の表示時間はトラックに関するもので  |
| 2. オーディオ種類表示 — 再生中のオーディオトラックの種 | す                               |
| 類が表示されます                       | 9. オーディオチャンネル表示 — 再生中のオーディオが2チ  |
| 3. ディスク種類表示 — 再生中のディスクの種類が表示され | ャネルのステレオかマルチチャンネルのサラウンドかが       |
| ます                             | 表示されます                          |
| 4. メイン表示 — テキストや数字が表示されます      | 10. 残り時間 — 点灯中の表示は再生の残り時間です     |
| 5. タイトル — 点灯中の表示時間はタイトルに関するもので | 11. 再生状態 — 再生、一時停止、繰り返し、すべて繰り返し |
| です                             | といった再生の状態を示します                  |
| 6. グループ — 点灯中の表示時間はグループに関するもので | 12. イーサネット — イーサネットケーブルが接続されて動作 |
| す                              | 状態の時に表示されます                     |
| 7. チャプター — 点灯中の表示時間はチャプターに関するも | 13. ワイヤレス — プレーヤーが無線ネットワークに接続状態 |
| のです                            | の時に表示されます                       |

## 背面のコネクター

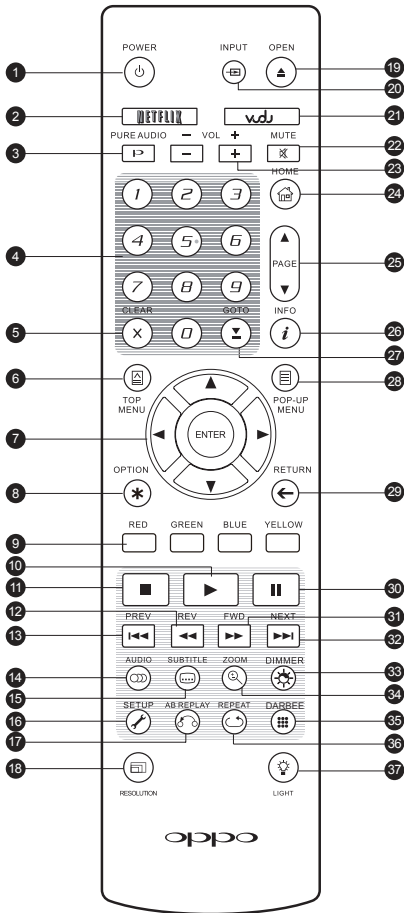


- |                  |                    |                                     |
|------------------|--------------------|-------------------------------------|
| 1. イーサネットLANポート  | 7. バランスステレオオーディオ出力 | 13. RS-232Cシリアル制御ポート                |
| 2. 背面HDMI入力      | 8. HDMI 2出力 (3D対応) | 14. 光デジタルオーディオ入力                    |
| 3. ステレオオーディオ出力   | 9. HDMI 1出力 (3D対応) | 15. 同軸デジタルオーディオ入力                   |
| 4. 診断用ビデオ出力      | 10. USB 2.0入力      | 16. USB (Bタイプ) オーディオ入力              |
| 5. 同軸デジタルオーディオ出力 | 11. USB 2.0入力      | 17. 7.1CH / 5.1CH / ステレオアナログオーディオ出力 |
| 6. 光デジタルオーディオ出力  | 12. IR (赤外線) 信号入力  |                                     |

上記のコネクター以外にも、背面にはAC電源入力コネクターがあります。このコネクターはIEC60-320 C14という種類のもので、付属の電源コードあるいはIEC60-320 C14のプラグを持つ定格を満たしたコード以外は使用しないでください。

## リモートコントロール

### リモコンのボタン



1. **POWER:** 電源のオンとスタンバイを切り替えます
2. **NETFLIX:** Netflixにアクセスするためのボタンです

3. **PURE AUDIO:** ビデオをオン / オフします
4. **数字ボタン:** 数字の入力に使用します
5. **CLEAR:** 数字入力をクリアします
6. **TOP MENU:** BDのトップメニューやDVDのタイトルメニューを表示します
7. **矢印、ENTERボタン:** メニューの選択に使用します
8. **OPTION:** 表示画面の状況に応じたメニューを表示します
9. **カラーボタン:** 状況に応じて割り当て機能が変化します
10. **再生:** 再生を開始します
11. **停止:** 再生を中止します
12. **REV:** 早戻し再生します
13. **PREV:** 前のチャプター / トラックに戻ります
14. **AUDIO:** オーディオの言語、チャンネルを切り替えます
15. **SUBTITLE:** 字幕の言語を切り替えます
16. **SETUP:** プレーヤーの設定メニューを表示します
17. **A-B REPLAY:** 選択した部分を繰り返し再生します
18. **RESOLUTION:** 出力解像度を切り替えます
19. **OPEN:** ディスクトレイを開閉します
20. **INPUT:** 入力ソースを選択します

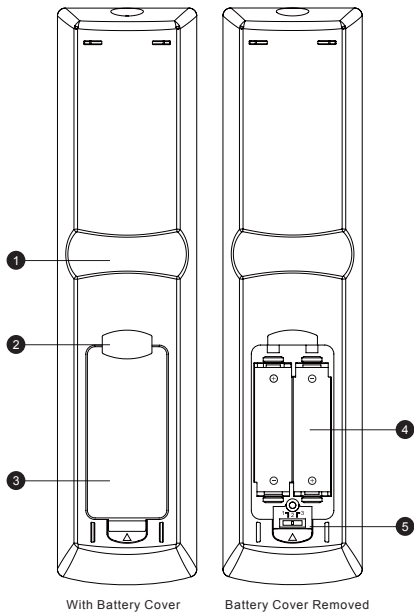
21. **VUDU:** VUDUにアクセスするためのボタンです
22. **MUTE:** オーディオを消音します
23. **VOLUME +/-:** 音量を調節します
24. **HOME:** ホームメニューを表示して再生メディアのソースを選択します
25. **PAGE UP/DOWN:** ページを前後に移動します
26. **INFO:** オンスクリーン表示、非表示を切り替えます
27. **GOTO:** 指定した場所から再生します
28. **POP-UP MENU:** BDポップアップメニュー、DVDメニューを表示します
29. **RETURN:** 一つ前のメニューやモードに戻ります
30. **一時停止:** 再生を一時停止します
31. **FWD:** 早送り再生します
32. **NEXT:** 次のチャプター / トラックに進みます
33. **DIMMER:** 前面表示の照度を落とします
34. **ZOOM:** 拡大/縮小やアスペクト比の調節を行います
35. **DARBBEE:** Darbee調節メニューを表示します(詳細は60ページ)
36. **REPEAT:** 繰り返し再生します
37. **LIGHT:** リモコンのバックライトを点灯します

### 注

ボタンが押されたときに、機能が無効あるいは使用できないような場合には、下図のような円に斜め線の入ったシンボルが TV 画面に表示されます:

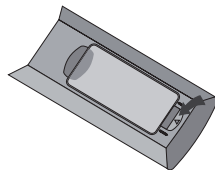


背面

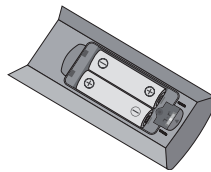


1. **人差し指用くぼみ1:** このくぼみに人差し指をかけてリモコンを持つと、親指での (矢印、ENTER、TOP MENU、POP-UPの) ナビボタンの操作がしやすくなります。
2. **人差し指用くぼみ2:** このくぼみに人差し指をかけてリモコンを持つと、親指での (STOP、PLAY、PAUSE、PREV、NEXT、REV、FWDの) 再生制御ボタンの操作がしやすくなります。
3. **電池カバー:** 電池交換やリモートコードの設定をする時に外します。
4. **電池:** 単3電池を使用します。
5. **リモートコードスイッチ:** リモコンが指定したリモートコードを使用するようにスイッチの設定位置を調節します (10ページ)。

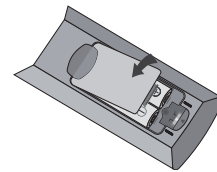
電池の取り付け



1. 電池収納部のふたを開けます



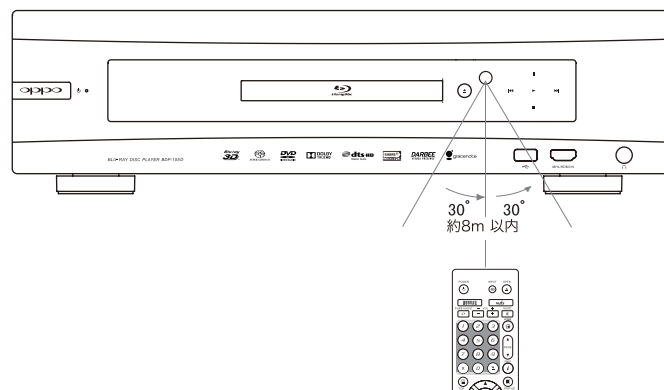
2. 電池を入れます



3. 電池収納部のふたを閉めます

リモコンの使用

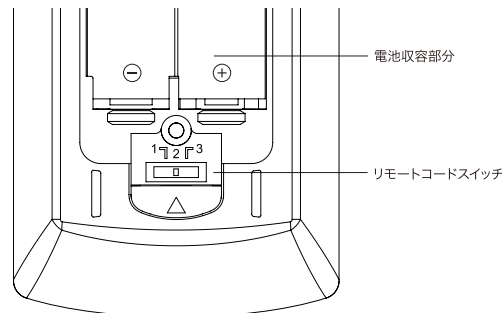
リモコンは、プレーヤーから8m以内の位置かつリモコン先頭の窓部分をプレーヤー前面の赤外センサーから±30度以内の角度に向けて使用するようにします。



### リモートコードの変更

リモコンには3種類のOPPOリモートコードが搭載されており、デフォルトの設定は「Code 1」になっています。BDP-105DJPのそばで別のOPPO製品を使う場合には、BDP-105DJPのリモコンで誤動作することがないようにリモートコードを変更することができます。

別のリモートコードを選択するには、リモコン電池収納部分のふたを開けて、ボールペン等の先を使って「1」、「2」、「3」と印の付いたスイッチを変更してから、電池収納部分のふたを閉めます。BDP-105DJPプレーヤーの電源がオンでディスクが挿入されていないことを確認し、リモコンをプレーヤーに向けたまま**ENTER**ボタンを5秒間押し続けます。この操作でプレーヤーの使用するリモートコードが変更されます。



### バックライト照明の変更

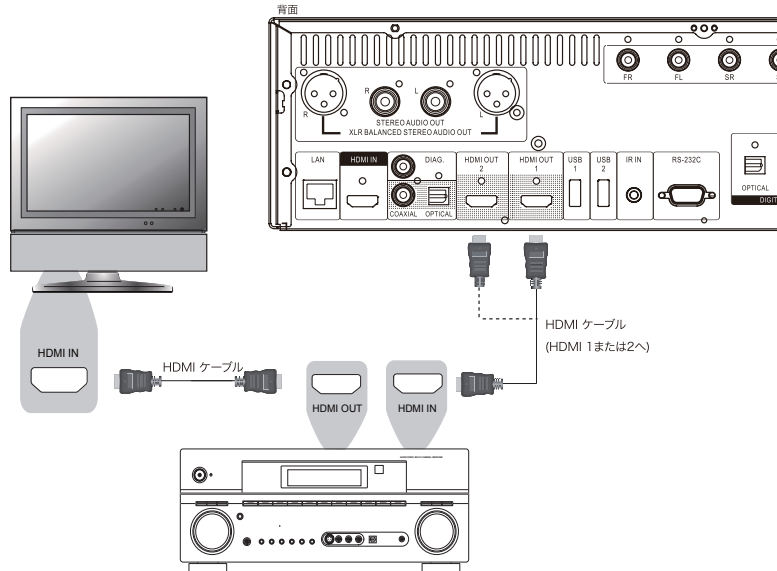
リモコンには2種類のバックライト照明方法があります。デフォルト設定では、**LIGHT**ボタンを押すとバックライトが点灯し、10秒以内に別のボタンを押すと点灯したままとなります。もう一つのモードでは、任意のボタンを押すとバックライトが10秒間点灯し、その間に別のボタンを押すと点灯したままとなります。**LIGHT**ボタンを5秒間押したままにすると、この2つのモードを切り替えることができます。

#### 注意

- リモコンを落としたり濡らしたりしないでください。
- 前面の赤外センサーを直射日光やその他の強い光にあてないでください。
- 電池が弱くなるとリモコンの動作が不安定になることがあります。操作がうまくいかなかったら電池を交換してください。
- リモコンを長期間使用しない場合には、電池を取り外してください。
- 液漏れや腐食を防ぐため電池は正しく使用してください。電池を直射日光や高温の環境に長時間放置しないでください。また、電池を加熱したり火の中に入れてたりしないでください。異なる種類の電池は混ぜて使用しないでください。乾電池は充電しないでください。
- 電池が液漏れをおこしたら、液に直接手を触れないでください。電池収納部分の液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

## 一般的な接続方法

### HDMIケーブルを使ったA/Vレシーバーへの接続



- HDMIオーディオがサポートされたレシーバーをお持ちの場合は、プレーヤーとレシーバーをHDMIケーブルで接続して、レシーバーのオーディオをHDMIモードに設定してください（詳しくはレシーバーの取扱説明書をご覧ください）。通常はレシーバーのHDMI出力をTVに接続してビデオ信号を送ることができます。
- 本製品背面のHDMI出力端子（HDMI 1 OUT、HDMI 2 OUT）のいずれからでもレシーバーに接続することができます。ビデオの出力には高品質のDarbee Visual PresenceおよびSilicon Image VRS ClearViewビデオプロセッサの恩恵を受けることのできるHDMI 1出力を優先して使うようにしてください。

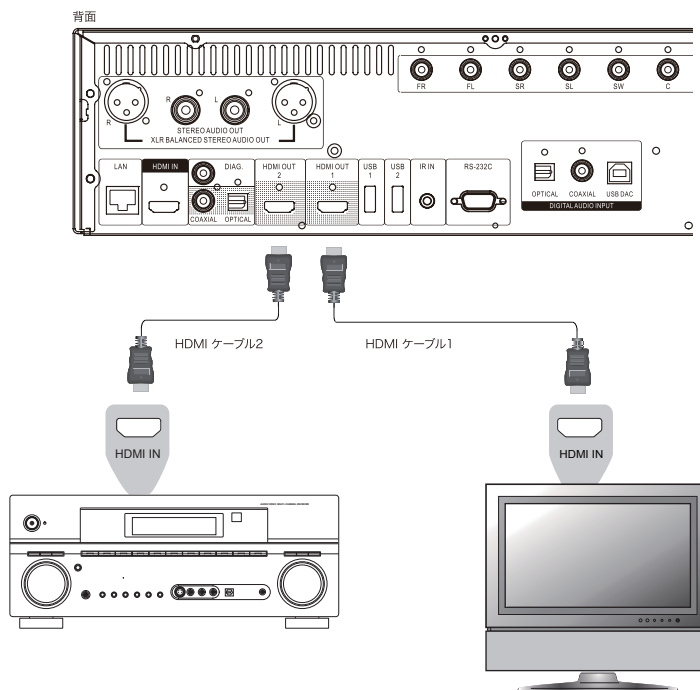
#### 注

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) では、プレーヤーからディスプレイにケーブル 1 本でオーディオとビデオ信号を送ることができます。ただし、HDMI は発展中の規格であるため、互換性の問題が発生することがあります。上記の接続では HDMI 経由のオーディオ入力をサポートするレシーバーを使用する必要がありますが、レシーバーの中にはビデオ切り替え専用の HDMI ポートしか持たないものがあります。このようなオーディオ入力機能を持たないレシーバーを使用して接続する場合には、これ以降の説明をご覧ください。

すべての規格のマルチチャンネルオーディオを再生するには、レシーバーが HDMI v1.1 以降に対応している必要があります。また、ブルーレイディスクの再生には、Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio のデコード機能を持つ HDMI v1.4 対応のレシーバーをお勧めします。お持ちのレシーバーの仕様をご覧になって、これらの条件を満たしているかどうか確認してください。

BDP-105DJPの HDMI 出力は HDMI v1.4 で、HDMI v1.3 以前のバージョンと互換性を持ちます。

## デュアルHDMIを使ったテレビとA/Vレシーバーへの接続



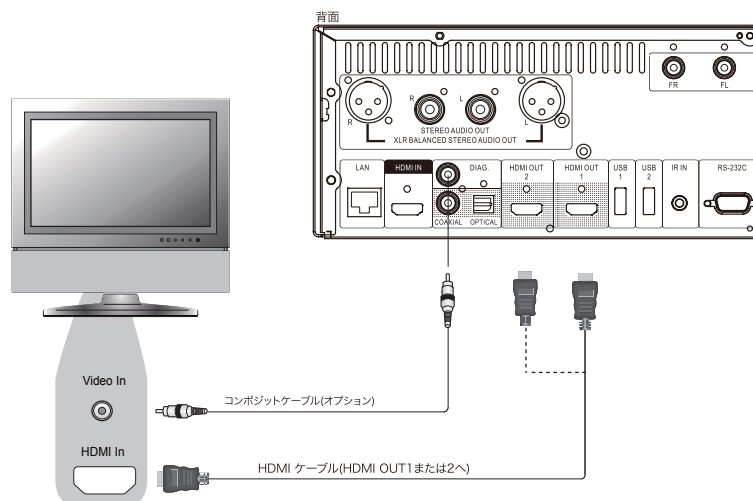
- BDP-105DJPではハイビットレートのオーディオコンテンツに加えて最高の品質をお楽しみいただけるよう、「デュアルHDMI」の接続に対応しています。**セットアップメニューのデュアルHDMI出力オプションをA/V分離** (55ページ)に設定して、添付のケーブルでHDMI 1出力をお使いのHDTVと接続し、別のHDMIケーブル (同梱されていません) でHDMI 2出力とお使いのレシーバーを接続することができます。この方法では、HDMI 1出力で利用可能な専用ビデオプロセッサを活用し、HDMI 1.4入力を持たないレシーバーでもデジタルオーディオ信号の損失なしで再生することができます。
- お使いのディスプレイが3D対応で、レシーバーが3Dに対応していないときに、この構成をお勧めします。この構成によって、ビデオ信号 (この場合は3D) を直接テレビに伝送し、オーディオ信号は通常通りレシーバーからスピーカーに分配させることができます。

### 注

- 11 ページの HDMI の接続に関する説明を参照してください。
- お使いのレシーバーが HDMI オーディオ入力に対応していない場合には、16 - 19 ページに説明がある代替接続方法を試してみてください。



## HDMIを使ったテレビへの接続

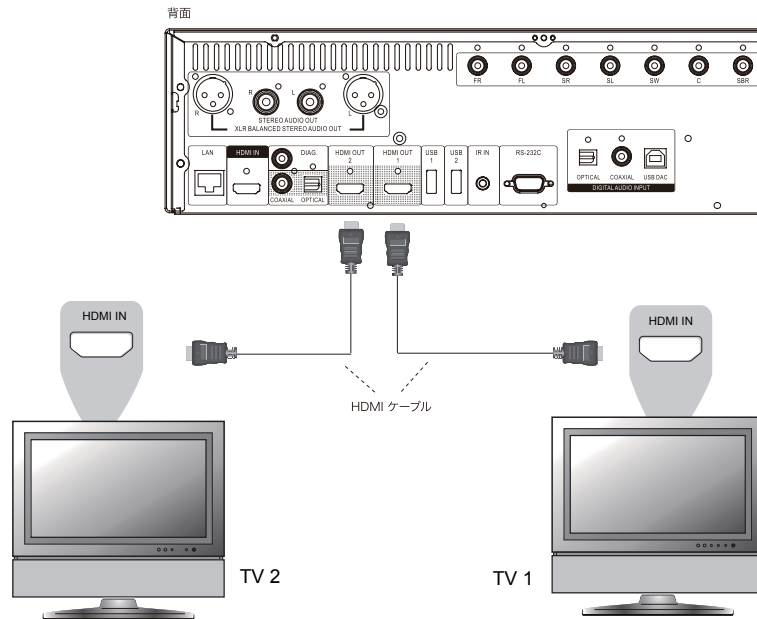


- お使いのテレビにHDMI入力がある場合には、同梱のHDMIケーブルでプレーヤーとテレビを直接接続することができます。この接続方法では、1本のケーブルでビデオとオーディオの両方がデジタルで伝送されます。プレーヤーのHDMI出力は最高のビデオ品質とオーディオ解像度を提供します。
- 本製品背面には2つのHDMI出力 (HDMI 1 OUTとHDMI 2 OUT) があり、お使いのテレビと接続することができます。専用Darbee Visual PresenceおよびSilicon Image VRS ClearViewビデオプロセッサのメリットを享受できるHDMI 1 OUTの使用をお勧めします。
- HDMIビデオに問題が発生したら、HDMIケーブルを外して、DIAG (診断) 出力を通常のコンポジットビデオケーブル (同梱されていません) で、テレビにつなげることができます。この接続を使用すると、テレビには**セットアップメニュー**しか表示されなくなります。DIAG接続は問題解決専用です。

### 注

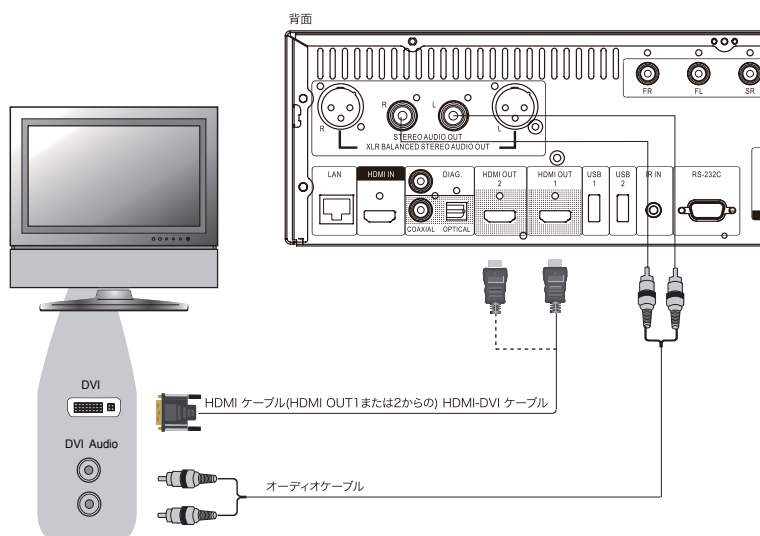
- この接続では、音声テレビのスピーカーから出力されます。最適な音声品質を得るには、BDP-105DJPからスピーカーの接続されたA/V レシーバーにオーディオを伝送することをお勧めします。
- お使いのレシーバーがHDMIオーディオ入力に対応していない場合や、HDMI入力がまったくない場合には、16 - 19 ページに説明がある代替接続によるレシーバーへのオーディオ出力方法をお試しください。

## HDMIによる2台のテレビへの接続



- 本製品背面には2つのHDMI出力 (HDMI 1 OUTとHDMI 2 OUT) があり、2台のテレビを同時に接続してそれぞれにデジタルビデオとオーディオ信号の両方を伝送することができます。
- 専用のビデオプロセッサが利用できるHDMI 1出力にメインのテレビを接続することをお勧めします。また、**セットアップメニューのデュアルHDMI出力オプションを2画面表示**に設定して、HDMI 2 OUTからもオーディオとビデオの両方の信号が送信されるようにします (55ページ)。
- 問題解決のために、DIAG (診断) 出力をどちらかのテレビに接続することができます。詳細は13ページを参照してください。

## DVIによるテレビへの接続



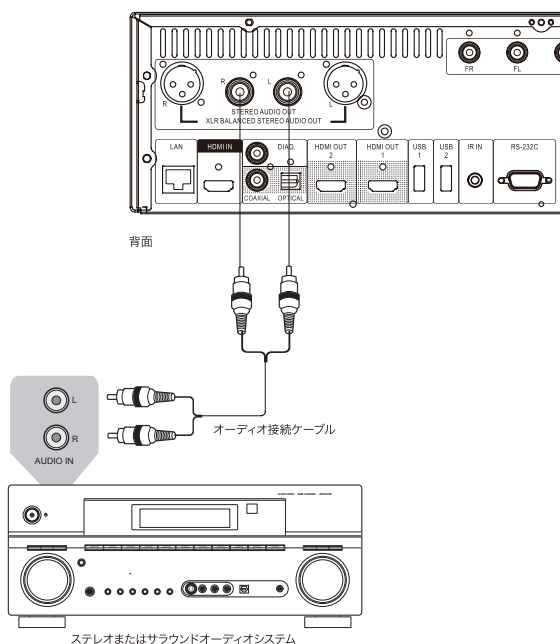
- お使いのテレビにHDCP対応のDVI入力がある場合、HDMI-DVIケーブルを購入してプレーヤーとテレビを接続することができます。この接続方法では、信号劣化なしでデジタルビデオがテレビに伝送されます。専用ビデオプロセッサはHDMI 1 OUTに搭載されているため、HDMI 1 OUTの使用をお勧めします。
- 赤白のオーディオケーブル (同梱されていません) を使用して、プレーヤーのFL(フロント左) とFR(フロント右) の端子をテレビに接続してください。その際に、オーディオケーブルはテレビのDVI入力と同じ入力端子グループに接続してください。入力端子は通常「DVIオーディオ」や「PCオーディオ」と記されています。テレビによってはオーディオ接続にRCA 3.5mm ミニジャックアダプターケーブルが必要になることもあります。
- 問題解決のために、DIAG (診断) 出力をテレビに接続することができます。詳細は13ページを参照してください。

### 注

HDCP は High-bandwidth Digital Content Protection の略です。BDP-105DJPのHDMI出力は、HDCPを使用してデジタルオーディオとビデオのコンテンツを暗号化しています。復号してコンテンツを正常に表示するためには、テレビがHDCPに対応している必要があります。

## オーディオの代替接続法

### RCAケーブルによるステレオオーディオシステムへの接続

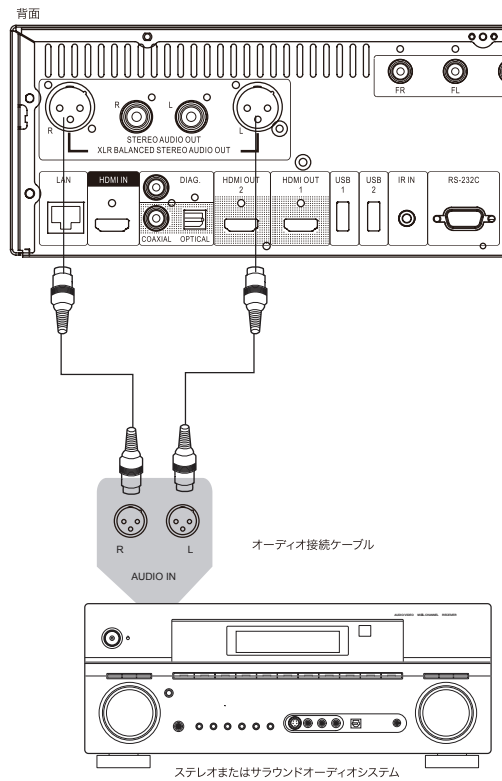


- お使いのオーディオシステムがステレオ入力しかサポートしていない場合や、すでにHDMI、同軸、あるいは光出力と接続されているサラウンドオーディオシステムに加えて、専用のステレオオーディオシステムに接続したい場合には、専用のオーディオシステムにプレーヤーのステレオオーディオ出力端子を接続することができます。
- BDP-105DJPには、**RCA形式**のコネクターと（次ページに説明のある）**XLR バランス**コネクターの2種類の専用ステレオオーディオ出力が準備されています。可能な限り、ノイズリジエクションとシグナルインテグリティに勝るXLRコネクターを優先して使用することをお勧めします。

#### 注

- STEREO AUDIO OUT 端末は、自動的にマルチチャンネルのオーディオをステレオ信号へとダウンミックスします。ただし、ステレオオーディオ出力は、**セットアップメニューのオーディオ出力設定**にあるダウンミックスモード（70 ページ）やその他のスピーカー設定には影響されません。

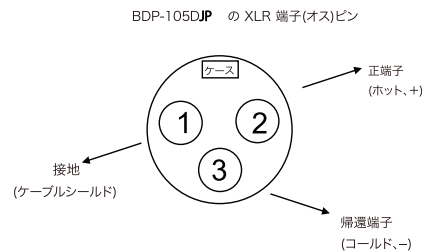
## XLRバランスケーブルによるステレオオーディオシステムへの接続



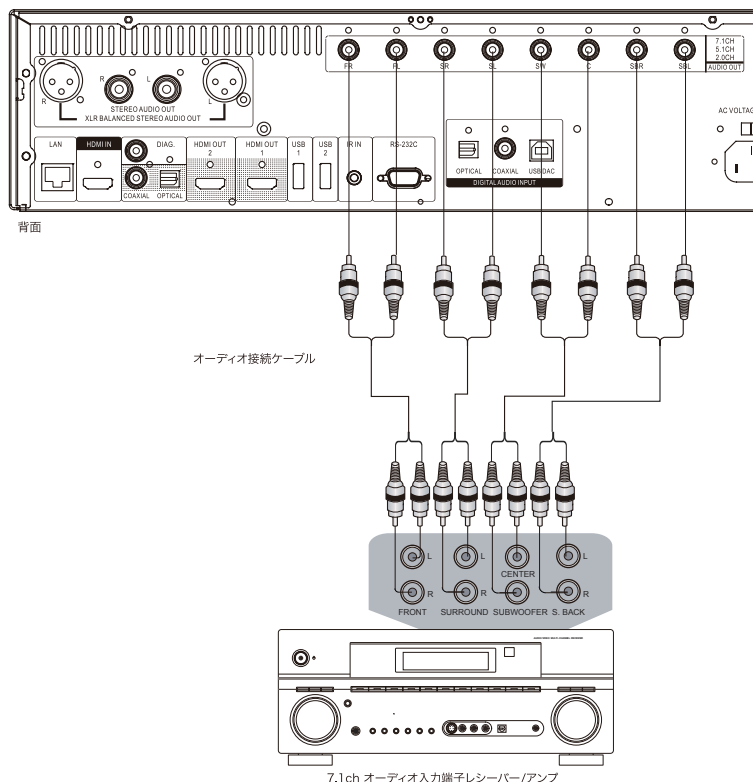
- BALANCED STEREO AUDIO OUTとお使いのオーディオシステムを接続することもできます。接続には3ピンの (XLR3) ケーブルが必要でプレーヤーのXLR端子はオスとなっています。

### 注

- バランス型のオーディオコネクタは、高品質マイクや機材間の接続といった、主に業務用のオーディオ電子機器で使用されます。BDP-105DJPは (下図の) 3 ピン XLR コネクタを使用して (正負の) 差動信号対を伝送します。アンプで差動信号間の電圧差を抽出することによって、コモンモードノイズが除去されてシグナルインテグリティが改善されます。
- 一部のオーディオシステムでは、「ホット」(正) と「コールド」(負) のピン位置が反転しています。このような場合、**セットアップメニューのオーディオ出力設定**にある「**XLR端子極性**」を「**反転**」に設定してください。

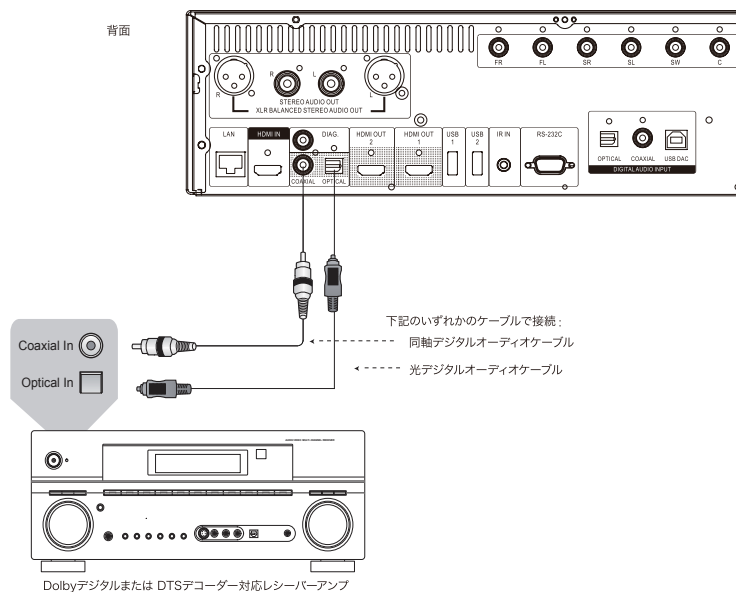


## アナログ出力によるAVレシーバー、アンプへの接続



- 8本までのRCAタイプのオーディオ接続ケーブル (同梱されていません) を使って、BDP-105DJPのアナログ出力端子のFL (フロント左)、FR (フロント右)、SL (サラウンド左)、SR (サラウンド右)、C (センター)、SW (サブウーファー)、SBL (サラウンド リア左)、SBR (サラウンド リア右) を、AVレシーバー、アンプの対応するマルチチャンネルアナログオーディオ入力ジャックに接続します。
- AVレシーバー、アンプに5.1ch オーディオ入力しかない場合には、SBL (サラウンド リア左) とSBR (サラウンド リア右) 端子は接続せず、**セットアップメニューのダウンミックスオプション**を5.1に設定して7.1チャンネルの信号がすべて5.1チャンネルに変換されるようにします (70ページの**ダウンミックスモード**)。
- お使いのオーディオシステムがステレオのオーディオ入力にしか対応していない場合や、すでにHDMIやS/PDIF出力と接続されているサラウンドのオーディオシステムとは別にステレオ専用システムと接続したい場合には、プレーヤーのFL (フロント左) とFR (フロント右) 端子に接続します。
- ステレオ出力で、接続するオーディオシステムにサラウンドスピーカーがない場合、**セットアップメニューのダウンミックスオプション**を**ステレオ**に設定します。オーディオシステムにサラウンドスピーカーがあり、Dolby Pro Logicその他のサラウンドオーディオのデコード機能がある場合、ダウンミックスモードは「LT/RT」に設定します (70ページの**ダウンミックスモード**)。

## S/PDIF (同軸 / 光) によるA/Vレシーバー、アンプへの接続

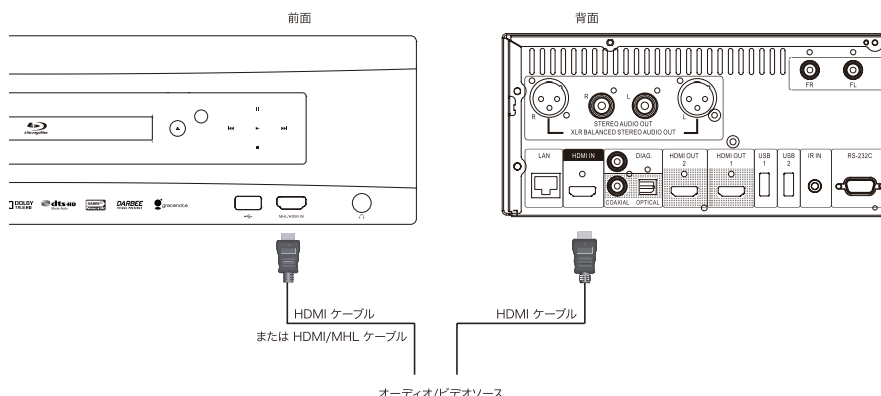


- RCA型の75オーム同軸デジタルオーディオケーブルまたはS/PDIF光デジタルオーディオケーブルで、デジタルオーディオ出力をお使いのA/Vレシーバーの対応する端子に接続します。同軸/光信号の詳細な設定方法は、64ページを参照してください。

### 注

- バンド幅の制限により、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD High Resolution、DTS-HD Master Audio のような高解像度オーディオフォーマットは、同軸や光デジタルオーディオ出力で送信することができません。同じオーディオトラックの低解像度版が代わりに出力されます。高解像度オーディオフォーマットを最高の音質で楽しむには、お使いのレシーバーが HDMI オーディオ (11 ページ) 対応の場合には HDMI 接続を使うようにしてください。HDMI に対応していない場合には、マルチチャンネルアナログ出力を使用します (18 ページ)。
- 著作権の制約により、SACD オーディオは同軸や光デジタルオーディオ出力で送信できません。SACD を聴くためには、HDMI かアナログ接続を使用してください。
- 著作権の制約とバンド幅の制限により、DVD オーディオディスクからのフル解像度オーディオは同軸や光デジタルオーディオ出力で送信できません。フル解像度で DVD オーディオを聴くためには、HDMI かアナログ接続を使用してください。

## BDP-105DJPへのHDMI / MHL入力



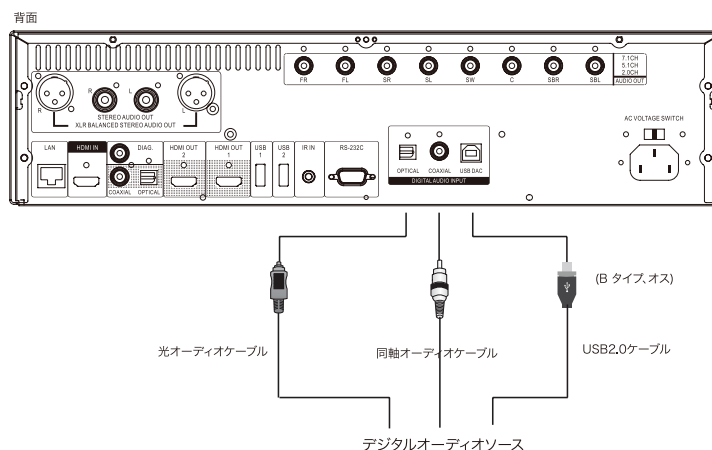
- BDP-105DJPには、前面と背面に1つずつ1080pまでのハイビジョンとデジタルオーディオに対応したHDMI入力ポートがあります。添付のHDMIケーブルで、テレビボックス、携帯電話、カムコーダーのようなソース機器をHDMI INポートに接続することができます。OPPOリモコンのINPUTボタンで**入力ソースメニュー**を立ち上げて、対応するHDMI INを選んでください。
- 前面のHDMI INポートはMHL (Mobile High-definition Link) 対応ですので、MHLケーブルやアダプター (いずれもプレーヤーには付属していません) で (スマートフォンのような) MHL対応機器に接続されると、高解像度のデジタル信号を受け取ることができるだけでなく、接続した機器を同時に充電することができます。

### 注

- HDMI入力ポートは両方とも HDMI v1.4 互換1080pまでのハイビジョンビデオ信号を受け付けることができますが、内部バンド幅の制限によってオーディオ信号は 6ch/192kHz または 8ch/96kHz までの PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS、AAC 対応となっています。



## BDP-105DJPへのデジタルオーディオ入力 (光、同軸、USB)



- BDP-105DJPを専用のデジタル-アナログコンバーター (DAC) として使い、外部デジタルオーディオ信号を内蔵のSABRE32リファレンスオーディオDACで処理することができます。背面にOPTICAL、COAXIAL、USB DACの3種類のデジタルオーディオ入力ポートがあります。処理されたアナログオーディオは、専用のステレオ端子 (RCA、XLR) やマルチチャンネル端子から出力されます。
- (DVD/CDプレーヤー、デジタルTVボックス、PC、Macのような) デジタルオーディオソース機器は、光、同軸、USBケーブル (いずれも付属していません) を介して、入力ポートに直接接続することができます。オーディオ信号が適切なポートから送信されるように、ソース機器を構成する必要がある場合があります。準備が完了したら、OPPOリモコンの**INPUT**ボタンを使って**入力ソースメニュー**を開き、希望の入力ポートを選択します。

### 注

- BDP-105DJPでは、USBオーディオ入力からの2ch/192kHzまでのPCM信号、光、同軸オーディオ入力からの2ch/96kHzまでのPCM、Dolby Digital、DTS、AAC信号に対応しています。
- Windows PC(XP、Vista、Windows 7)からの入力にUSB DACを使用するには、ソフトウェアドライバーをインストールする必要があります。ドライバーは、OPPO Digitalのウェブサイト ([www.oppodigital.jp](http://www.oppodigital.jp)) のBDP-105DJPサポートページからダウンロードが可能です。
- Macではソフトウェアドライバーは不要です。
- 最適なバス性能と正確なインターフェイス動作を保証するために、13フィート (4m) 以下のデジタルオーディオケーブルを使用してください。

## インターネットへの接続

BDP-105DJPでは、前のモデルに比較してインターネットのストリーミング機能が大きく改善されています。DLNAとSMB/CIFSクライアントの接続機能を持つローカルネットワークによる家庭内のメディア共有に加え、現時点でNetflixとVUDUの両方に対応しています(日本では未対応)。ファームウェアアップデートでこれ以外のオンラインストリーミングアプリケーションに対応する可能性があります。

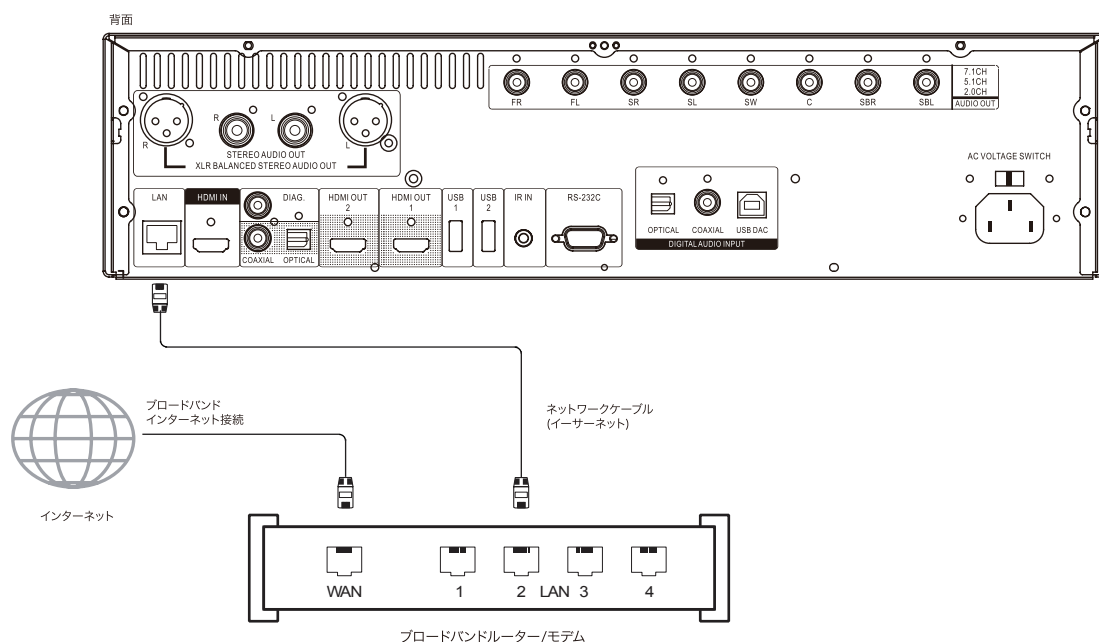
BDP-105DJPは、一部のブルーレイディスクタイトルで提供されているBD-Live機能にも対応しています。BD-Liveでは、追加のコンテンツをダウンロードしたり、オンラインのプログラムで楽しんだりすることができます。BD-Liveのコンテンツはディスクや発売元により異なりますが、追加の字幕、同時解説、予告編、ゲーム、オンラインチャット等が含まれます。

プレーヤーをインターネットに接続すると、ファームウェアのアップデートを受けることができるようになります(エラー! ブックマークが定義されていません。4ページ、75ページ)。

BD-Liveの機能を使ったりインターネット経由でファームウェアをアップデートしたりするには、プレーヤーがブロードバンドでインターネットに接続されている必要があります。ネットワークストリーミングやBD-Liveの機能を使ったりオンラインでのファームウェアアップデートをしたりする予定がなければ、インターネットに接続する必要はありません。

BDP-105DJPでは、イーサネットケーブル経由と、プレーヤーに付属の無線アダプター経由による2種類のネットワーク接続方法に対応しています。接続の速度と安定性のために、できるだけイーサネットケーブルを使用した接続を使うことをお勧めします。

### イーサネットケーブルを使用したインターネット接続

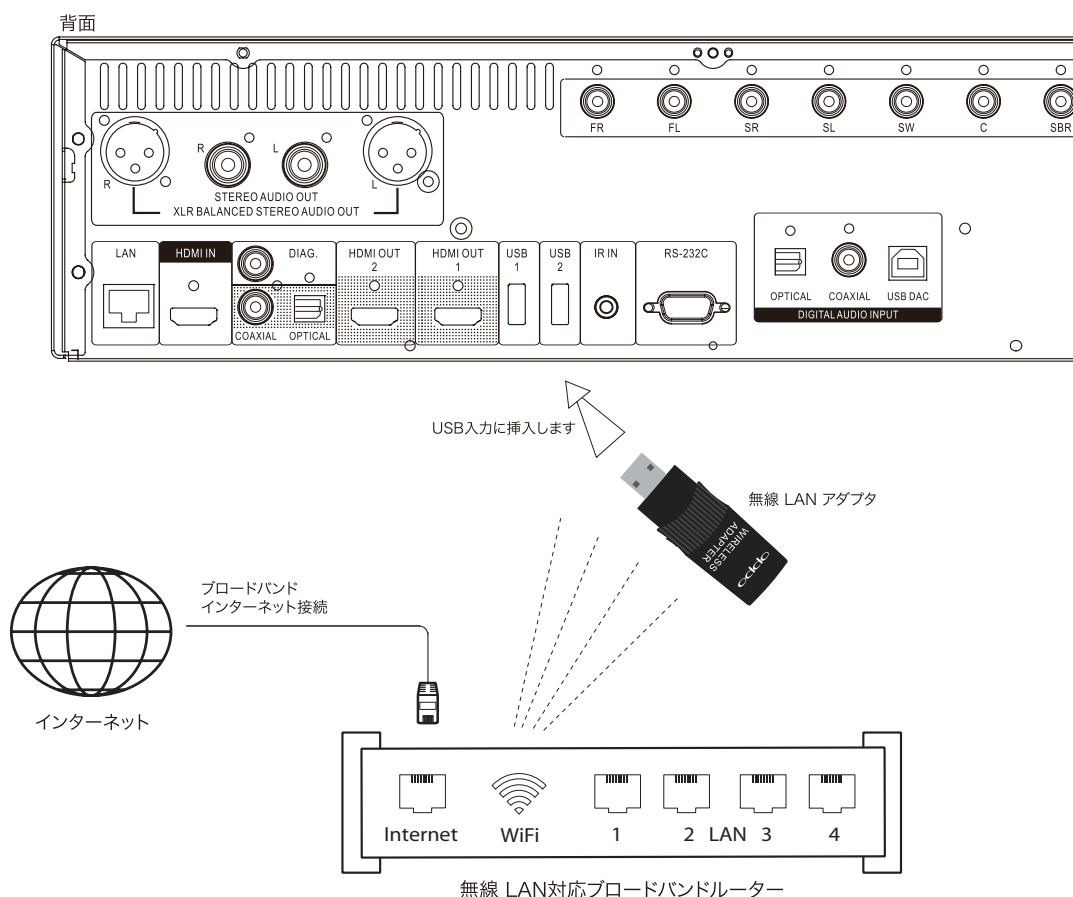


- ネットワークケーブル (カテゴリー5/5Eのストレートイーサネットケーブル) の片方の端を本製品背面にあるLANポートに接続してください。
- もう一方の端はブロードバンドルーターまたはモデムのLANポートに接続します。
- プレーヤーとブロードバンドインターネットとの物理的な接続が終わったら、ネットワークの構成が必要になります。 詳細は79ページの**ネットワーク設定**の部分を参照してください。
- ルーターやモデムの設定に関する疑問や質問は、ブロードバンドルーターやモデムの操作説明書を参照するか、インターネットサービスプロバイダーに問い合わせてください。

注

- 10BASE-T または 100BASE-TX をサポートしているイーサネットのポートのみプレーヤーの LAN ポートと接続するようにしてください。電話のジャックのような他のポートやジャックに接続すると、プレーヤーを破損してしまうことがあります。
- Netflix や VUDU のようなストリーミングのサービスを受けるには、メンバーとなる必要がある場合があります。またサービスは米国のみ限定されている場合があります。

無線LANアダプタを使用したインターネット接続

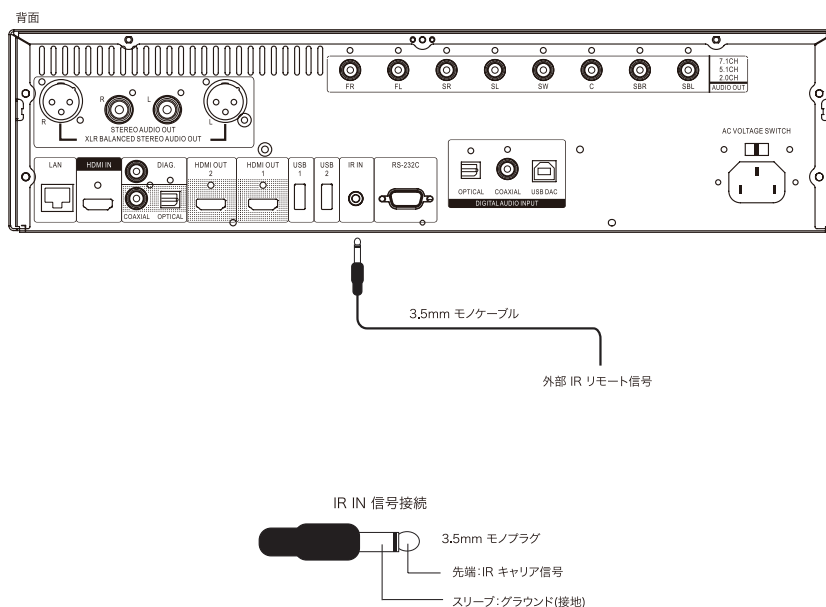


- 製品に同梱されている無線LANアダプタはあらかじめ、本製品にて正常に動作するように設定が行われています。また、本アダプタは無線LANの規格である802.11B,G,N(2.4GHz)のいずれかに対応しています。
- ご利用になる環境において本製品を除く無線LANでのインターネット接続が可能であることを確認し、製品に同梱されている無線LANアダプタを本製品背面のUSBポートに挿入してください。
- プレーヤーとブロードバンドインターネットとの物理的な接続が終わったら、ネットワークの構成が必要になります。詳細は79ページの**ネットワーク設定**の部分を参照してください。
- USB延長ケーブルが本製品には同梱されています。必要に応じて、無線LANアダプタと本製品のUSBポートの間に使用してください。

## カスタムな設置

### 外部IR (赤外線リモート) 取り付け

BDP-105DJPには背面にIR IN (赤外線リモート入力) ポートがあります。プレーヤーが装置キャビネットに設置されてリモコンの視界外にある場合には、別売のIRリモートセンサーを購入して このIR INポートに接続します。センサーが問題なく動作するように、リモコンから直接見える場所に設置してください。



#### 注

- 外部 IR センサーが接続されると、前面の IR センサーは無効に設定されます。
- BDP-105DJPの IR ポートは旧モデルの BDP-83 で使われる IR リモートセンサー (IR-ES1)との互換性はありません。
- この IR IN ポートと OPPO 以外のメーカー製機器との互換性は保証されません。互換性のない機器を IR IN ポートに接続すると、接続された機器やプレーヤー本体が破損することがあります。
- IR リピーターシステムへのプレーヤー組み込みを検討されている場合には、OPPO のカスタマーサポートまでご連絡ください。制御信号の適切な接続方法を提案させていただきます。

### RS232制御

BDP-105DJPのRS232制御ポートは、ほとんどのカスタムホームシアター制御システムに組み込むことができます。RS-232プロトコルの最新資料が必要な場合には、設置業者にRS232制御プロトコルに関してOPPOに連絡するよう依頼するか、OPPO Digitalウェブサイト ([www.oppodigital.jp](http://www.oppodigital.jp)) をご覧ください。

## クイックスタートガイド

### 電源の投入と再生

BDP-105DJPは、ほとんどのホームシアターで最適な再生ができるようにあらかじめ設定されており、以下の手順に従えば、追加調整をしなくてもお持ちのオーディオ/ビデオシステムで使い始めることができます。

1. OPPOプレーヤーをお持ちのシステムに接続してください。
2. お使いのテレビやレシーバー/アンプの電源を投入した後でプレーヤーの電源を投入します。
3. テレビやレシーバーの入力を切り替えて、プレーヤーからの信号が表示されるようにします。

数秒後に、プレーヤーは工場出荷時のデフォルト設定を読み込んで、OPPOロゴのHomeメニューを表示します。これでプレーヤーは使用可能になります。OPPOブルーレイディスクプレーヤーで存分にお楽しみください。

ユーザーマニュアルのこれから先の部分は、基本操作および高度な設定についての説明となります。

### 最適な出力解像度の選択

BDP-105DJPの最大の特長の一つに、ハイビジョン画質のブルーレイビデオ再生機能とDVDディスクの標準画質のハイビジョンへのアップコンバート機能があります。内蔵の高性能ビデオプロセッサは、最高レベルの色再現性、精細画像、なめらかな動きを保証します。プレーヤーは何種類かの標準画質とハイビジョンの出力解像度に対応しています。最良の画質を得るには、テレビやディスプレイに一番適合する出力解像度を選択することが重要となります。

出力解像度を選択する際の大きな指針は、お使いのテレビやディスプレイの「ネイティブな解像度」にできるだけ適合させるということです。「ネイティブな解像度」は、プラズマパネル、LCDパネル、DLP™チップのような実際のディスプレイ部品の解像度のことです。テレビはネイティブな解像度より低い解像度も高い解像度の入力信号にも対応している場合があります。しかし、このような場合にはテレビの電子回路がビデオをアップスケールあるいはダウンスケールして表示部品に合わせているだけです。残念ながら、市販のテレビのほとんどはビデオの拡大縮小で平均レベルの処理しか行っていません。その一方で、BDP-105DJPの出力解像度をテレビのネイティブな解像度に適合するように設定すると、ほとんどの場合すばらしい画像を得ることができます。

市販のディスプレイのほとんどで最適な出力解像度は1080pとなります。初期の「1080p」ディスプレイの中には1080p信号非対応のものがいくつかあります。このようなディスプレイの最適解像度は1080iとなります。小さな画面のデジタルテレビでは720pが最適となる場合が多く、さらにそれ以前のブラウン管やリアプロジェクションテレビでは1080i、EDTVディスプレイ（HDMIやDVI対応は非常にまれです）では480p（NTSC）か576p（PAL）となります。以上はほとんどの場合に当てはまる一般的な推奨ですが、例外もあります。

BDP-105DJPは、HDMI出力で特殊なSource Directモードに対応しています。この解像度設定は、外部ビデオプロセッサかハイエンドのテレビとの使用向けです。Source Directモードではプレーヤーは「トランスポート」として動作し、ディスクからのビデオをデコードして、追加処理なしでネイティブな解像度とフォーマットのロービデオを、外部ビデオプロセッサあるいはテレビに送信します。実際の出力解像度はコンテンツに依存します。

コンテンツ	ソースダイレクト出力解像度
NTSC DVD	480i
PAL DVD	576i
ブルーレイムービーのほとんど（フィルムソース）	1080p 23.976Hzまたは1080p 24Hz
ブルーレイテレビショー、コンサート（ビデオソース）	1080i
SACD、DVDオーディオ	1080p

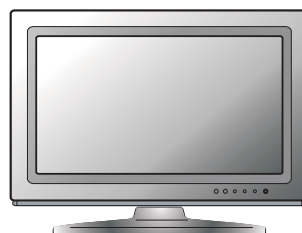
HDMI出力の両方とも次の解像度に対応しています：**4Kx2K、Auto、1080p、1080i、720p、480p/576p、480i/576i、ソースダイレクト**。オートが選択されると、プレーヤーはテレビが表示可能な最善信号解像度に基づいて出力解像度を決定します。

出力解像度を変更するには、リモコンの**RESOLUTION**ボタンを押して**解像度メニュー**を立ち上げ、**上下矢印**ボタンで希望の解像度をハイライト表示し、**ENTER**ボタンで確定して戻ります。選択した解像度にテレビが対応していない場合には、画面に何も表示されなくなったりエラーメッセージが表示されたりします。そのような場合にはテレビが対応可能な別の解像度に設定してください。

## 表示の横縦比決定









標準画質(4:3)テレビ



ワイドスクリーン(16:9)テレビ

**TVアスペクト比**はテレビ画面の幅と高さの比率です。古いタイプのテレビの横縦比は一般的には4:3で、幅が高さの4/3 (1.33) 倍になります。新しいワイドスクリーンのテレビは16:9の横縦比を持ち、幅は高さの16/9 (1.78) 倍となります。最適な表示を得るにはプレーヤーのビデオ出力はお使いのテレビ画面の横縦比と同じになる必要があります。ほとんどのブルーレイディスクと、多くのDVDディスクはワイドスクリーンのフォーマットで発売されていますので、BDP-105DJPもワイドスクリーンのテレビとお使いになることを薦めます。

アスペクト比の選択は**16:9ワイド**と**16:9ワイド/オート**で、その設定とディスクに記録されたビデオのフォーマットによって、テレビ画面に表示される画像は次のいずれかとなります:

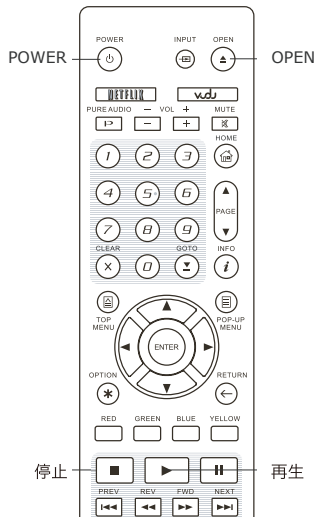
元のコンテンツ	テレビの表示	
	16:9	
	ワイド	ワイド/オート
4:3 		
16:9 		

ワイドスクリーン (16:9) ディスプレイをお使いの場合には、次の中から選択します:

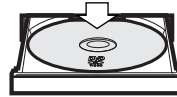
- **16:9ワイド** – 16:9 (ワイドスクリーン) のソースはネイティブ横縦比で表示され、4:3のソースは水平方向に拡大されたようになります。
- **16:9ワイド/オート** – 16:9 (ワイドスクリーン) も4:3のソースと同様ネイティブな横縦比で表示されます。このモードでは、4:3のソースは4:3の横縦比を維持するために、左右に黒いブロックを使用して表示されます

# 基本操作

## ディスクの再生

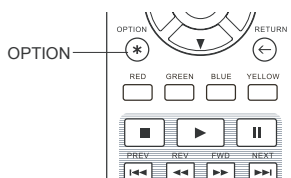


1. **POWER**ボタンを押してプレーヤーの電源を入れます。
2. **OPEN**ボタンを押してディスクトレイを開けます。
3. ラベルが上側、記録面が下側になるようにディスクをトレイに置きます。



4. 再度**OPEN**ボタンを押してトレイを閉めます。
5. プレーヤーがディスク情報を読み込んで、再生を開始します。
6. ディスクの内容によっては、メニューや案内スクリーンが表示されることがあります。移動用の**矢印**や**ENTER**ボタンを使用して、再生する内容を選びます。
7. 再生を中止するには**停止**ボタンを押します。
8. プレーヤーの電源を切るには**POWER**ボタンを押します。

## OPTIONメニュー



1. メディアファイルの選択時や再生中にリモコンの**OPTION**ボタンを押すと**OPTION**メニューが表示されて、各種設定や再生機能の選択を簡単に行うことができます。
2. **OPTION**メニューが表示されたら、**左右矢印**ボタンで設定したい項目に移動し、**ENTER**ボタンを押して確定します。

コンテンツの種類によって**OPTION**メニューに表示される選択肢は異なります。選択肢の概要と機能は以下の説明の通りです。

### ディスク (CD、DVD、BD) の再生中:

- **ディスク情報:** Gracenoteのオンラインデータベースを検索して、ディスク情報を表示します (プレーヤーがインターネットに接続している必要があります)。

### 音楽ファイルの再生中:

- **音楽情報:** 「ディスク情報」同様 Gracenoteのオンラインデータベースを検索して、音楽の情報を表示します。
- **シャッフル/ランダム:** シャッフル、ランダムモードに切り替えます。詳細は38ページ。
- **リピートなし:** 再生中の曲またはすべての曲を繰り返し再生します。詳細は37ページ。
- **プレイリストに加える:** ハイライト表示された音楽ファイルをプレイリストに追加します。この機能は外部USBストレージを使用している場合のみ有効となります。
- **プレイリストへ移動:** プレイリストに追加された音楽ファイルにアクセスします。
- **曲の場所:** MUSICインターフェイスに戻り、再生中の音楽ファイルをハイライト表示します。
- **プログラム再生:** オーディオのトラックを好みの順序で再生します (CD再生時のみ有効)。
- **ギャップレス再生:** ギャップレス再生モードを有効に設定します。試験的な機能で、外部USBストレージのAPEとWAVファイルにのみ対応しています。

## 基本操作

### ビデオディスク (DVD, BD) やビデオファイルの再生中:

- 字幕調整: 字幕表示オプションが調節できます。
  - 色: 字幕テキストの表示色を設定します(外部字幕ファイル使用時のみ有効)。
  - アウトライン色: 字幕テキストの輪郭表示色を設定します(外部字幕ファイル使用時のみ有効)。
  - サイズ: 字幕テキストのサイズを設定します(外部字幕ファイル使用時のみ有効)。
  - 位置: 字幕の表示位置を設定します。
  - デフォルト: 字幕のオプションを出荷時設定に戻します。
- 3D: 2D->3D変換を有効にするか、3D調節メニューを起動します。詳細は55ページ。
- ズーム: イメージのズーム倍率メニューを開きます (35ページ)。
- アングル: 表示アングルを切り替えます。この機能は、DVD/BDに複数アングルからの映像が記録されている時のみ有効です。

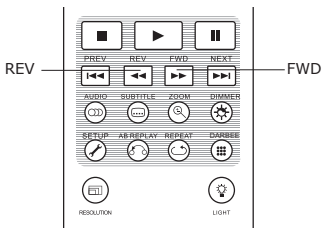
### 写真ファイルの再生中:

- ズーム: 異なる拡大率でイメージを表示します。
- 回転 - 左/右/反転/上下: スクリーン上のイメージを回転します。
- 2D->3D変換を有効にするか、3D調節メニューをオープンします。詳細は55ページ参照。

### HDMI INPUT入力の再生中:

- 3D: 2D->3D変換を有効にするか、3D調節メニューを起動します。詳細は55ページ。

## 早送り再生



再生中には早送りや早戻しができます。

- リモコンの**FWD**ボタンを押すと早送り再生を開始します。**FWD**ボタンを押すたびに次の順序で再生速度が変わります:



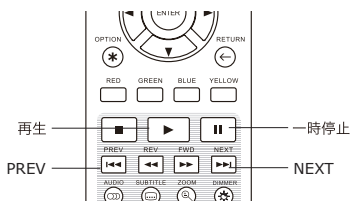
- リモコンの**REV**ボタンを押すと早戻し再生を開始します。**REV**ボタンを押すたびに、次の順序で再生速度が変わります:



**注**

- BD-Java 技術を使ったブルーレイディスクには独自の早送り・早戻しをするものがあり、実際の再生速度がディスクにより異なったり、独自の再生位置表示を行ったりすることがあります。

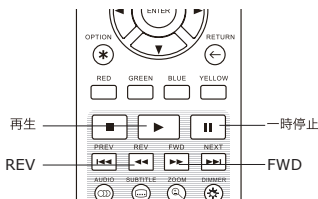
## 一時停止とコマ送り/戻し



- 再生中に**一時停止**ボタンを押すとプログラムが一時停止して、一時停止のアイコンがテレビに表示されます。
- DVDやブルーレイの一時停止中に**PREV**や**NEXT**ボタンを押すと、ビデオのコマ戻しやコマ送りをすることができます。
- 再生**ボタンを押すと通常の再生が再開されます。



## スロー再生



以下の手順でビデオをスロー再生することができます:

1. リモコンの**一時停止**ボタンを押して再生を一時停止します。
2. **FWD**ボタンを押すとスロー再生の早さを切り替えることができます。**FWD**ボタンを押すたびに以下の順序で再生速度が切り替わります:



3. **REV**ボタンを押すと逆方向スロー再生の早さを切り替えることができます。**REV**ボタンを押すたびに以下の順序で再生速度が切り替わります:

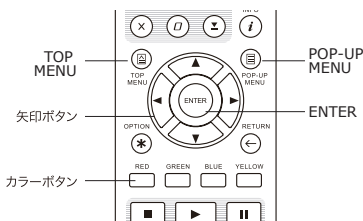


4. **再生**ボタンを押すと、スロー再生モードから通常の再生に戻ります。

### 注

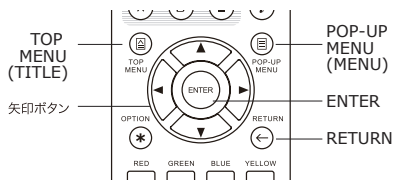
- BD-Java 技術を使ったブルーレイディスクにはスロー再生に対応していないものがあります。

## ブルーレイディスクメニュー再生



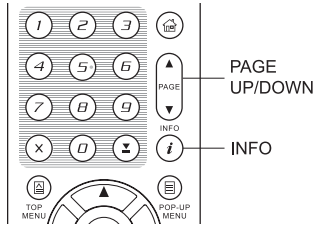
1. 通常のブルーレイディスクは、**トップメニュー**や**ポップアップメニュー**に対応しています。**トップメニュー**は再生開始時に、予告編や著作権のメッセージに引き続いて表示されます。また、**ポップアップメニュー**は映画の途中で再生を中断することなく表示されます。
2. 再生中に**POP-UP MENU**ボタンを押すと**ポップアップメニュー**が表示され、**TOP MENU**ボタンを押すと**トップメニュー**が表示されます。
3. **矢印ボタン**を使ってメニューを移動し、**ENTER**ボタンで選択します。
4. メニューの中には**カラーボタン**を利用するものがあります。その時は、リモコンの対応する**カラーボタン**を押すことでメニュー機能の選択が行えます。

## DVDメニュー再生



1. DVDの中には**タイトルメニュー**や**チャプターメニュー**機能に対応したものがああります。
2. 再生中に**TOP MENU**ボタンを押すとディスクの**タイトルメニュー**が、**POP-UP MENU**ボタンを押すと**チャプターメニュー**が表示されます。また、ディスクによってはどちらか一方あるいは両方の機能にも対応していないものもああります。
3. **矢印ボタン**を使ってメニューを移動し、**ENTER**ボタンで選択します。
4. **RETURN**ボタンを押すと直前のメニューに戻りますが、戻り先のメニューはディスクにより異なります。

## オンスクリーン表示



1. DVDやブルーレイディスクの再生中にリモコンの**INFO**ボタンを押すと現在の再生状態が表示されます。CDやSACDでは再生情報は自動的に表示されます。
2. 再生情報が表示されているときに**PAGE上下**ボタンで表示フォーマットを変更することができます。プレーヤー前面に表示される再生時間情報とオンスクリーン表示の両方がとも変わります。
3. もう一度**INFO**ボタンを押すと、オンスクリーン表示を消すことができますが、プレーヤー前面の再生時間表示は選択されたフォーマットがそのまま使われます。

以下の表示フォーマットから選ぶことができます:

DVD、ブルーレイディスク:

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| - タイトルの経過時間    | - チャプターの経過時間    |
| -  - タイトルの残り時間 | -  - チャプターの残り時間 |

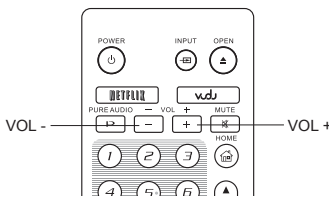
CD、SACD:

- |                |                |
|----------------|----------------|
| - トラックの経過時間    | - ディスクの経過時間    |
| -  - トラックの残り時間 | -  - ディスクの残り時間 |

オンスクリーン表示は、再生時間以外にも再生中のコンテンツに関する以下の情報を含むことがあります:

- 再生状態: 再生、一時停止、早送り/早戻しを表すアイコン。
- ビットレートのメーター: オーディオやビデオストリームのビットレート表示。
- 再生中のチャプターとチャプター数。(DVD、ブルーレイディスク)
- 再生中のタイトルとタイトル数。(DVD、ブルーレイディスク)
- 再生中のトラックとトラック数。(CD、SACD)
- オーディオ情報: 再生中のオーディオトラックとトラック数、言語、フォーマット、チャンネル数。
- 字幕情報: 再生中の字幕、字幕言語数と字幕言語。
- ビデオフォーマット情報: エンコードの種類、フレームレート、オリジナルの横縦比。
- HDMI出力情報: 接続状態、ビデオ解像度、フレームレート、色空間、オーディオフォーマットおよびチャンネル。

## 音量調節



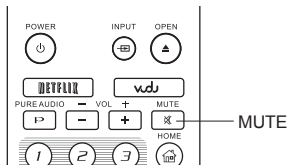
1. BDP-105DJPの音量調節はアナログオーディオおよびヘッドホン出力専用で、(HDMI、同軸、オプティカルの) デジタルオーディオ出力にはロービットストリーム、LPCMのいずれであっても何の影響もありません。
2. リモコンの**VOL +/-**ボタンは、テレビやテレビのリモコンによる音量調節の代用です。テレビ番組やVCRなどのプレーヤー以外の入力からの音量と同じになるように調節してください。
  - **VOL-** ボタンを押すと音が小さくなります。
  - **VOL+** ボタンを押すと音が大きくなります。

### 注

アナログ出力およびヘッドホン出力の音量レベルは、それぞれ個別に調整、保存されます。ヘッドホンが接続されているかどうかに応じて、BDP-105DJPは設定された音量コントロールをヘッドホン出力やアナログ出力に適用します。

ヘッドホン出力のデフォルトの音量レベルは、**セットアップ>オーディオ出力設定>ヘッドホン音量** で設定することができます。

## 消音

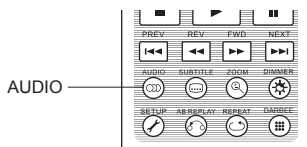


1. コンテンツの再生中にリモコンの**MUTE**ボタンを押すと、オーディオ出力が消音されてテレビ画面には消音のアイコンが表示されます。また、プレーヤー前面の消音インジケータも点灯します。
2. もう一度**MUTE**ボタンを押すと消音が解除されます。

### 注

オーディオが出力されない場合には前面の **MUTE** インジケータを確認してください。また、**MUTE** ボタンを押して消音の状態を確認してください。

## オーディオ言語/トラックの選択

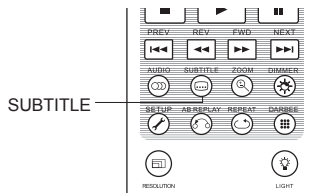


1. オーディオ言語、トラック言語、トラックを選択するには、再生中にリモコンの**AUDIO**ボタンを押します。
2. **AUDIO**ボタンを繰り返し押すか、**上下矢印**ボタンを使って、希望の言語やオーディオトラックを選択します。

### 注

収録されている言語やオーディオのチャンネルはディスクにより異なります。DVD オーディオディスクの中には **AUDIO** ボタンでオーディオのトラック選択ができるものもありますが、ディスクのオーディオ選択メニューを使わなければならないものもあります。SACD マルチチャンネルとステレオの両方のコンテンツを収録した SACD 再生中に **AUDIO** ボタンを押すとこの二つが交互に切り替わります。

## 字幕選択



1. DVD、ブルーレイディスク、その他の字幕が収録されたビデオプログラムの再生中には、リモコンの**SUBTITLE**ボタンで希望の字幕を選択することができます。
2. **SUBTITLE**ボタンを繰り返して押すか、**上下矢印**ボタンを使って、収録されている字幕の中から選択します。
3. 字幕表示を中止するには、リストで**オフ**を選択します。

## HDMI / MHL INPUTの選択

入力
BLU-RAY PLAYER
● HDMI/MHL IN-FRONT
HDMI IN-BACK
ARC: HDMI OUT 1
ARC: HDMI OUT 2

1. 本製品前面と背面にあるHDMI INポートから外部メディアのソースを入力する場合には、リモコンの**INPUT**ボタンを押して「入力」メニューを表示します。
2. **上下矢印**ボタンを使って必要なHDMIの入力ポートを選択します。
3. **BLU-RAY PLAYER**を選択すると、いつでもOPPOのホームメニューに戻ることができます。

### 注

前面の HDMI IN ポートは MHL (Mobile High-definition Link) 対応です。詳細は 20 ページを参照してください。

## デジタルオーディオ入力選択

入力
BLU-RAY PLAYER
HDMI/MHL IN-FRONT
HDMI IN-BACK
ARC: HDMI OUT 1
ARC: HDMI OUT 2
● OPTICAL IN
COAXIAL IN
USB AUDIO IN

1. OPTICAL、COAXIAL、USB DACポートを使って、外部デジタルオーディオソースをBDP-105DJPに伝送するには、リモコンの**INPUT**ボタンを押して「入力」メニューを起動します。
2. **上下矢印**ボタンを使って必要なHDMI入力ポートを選択します。
3. **BLU-RAY PLAYER**を選択すると、いつでもOPPOのホームメニューに戻ることができます。

## オーディオリターンチャンネル (ARC) 選択

入力
BLU-RAY PLAYER
HDMI/MHL IN-FRONT
HDMI IN-BACK
● ARC: HDMI OUT 1
ARC: HDMI OUT 2

1. HDMI接続を使ってテレビからのデジタルオーディオ信号をBDP-105DJPに戻すには、リモコンの**INPUT**ボタンを押して**入力**メニューを表示します。
2. **上下矢印**ボタンを使い必要なARCチャンネルを選択します。
3. **BLU-RAY PLAYER**を選択すると、いつでもOPPOのホームメニューに戻ることができます。

### 注

- オーディオリターンチャンネル (ARC) は、HDMI v1.4 で導入された、テレビのデジタルオーディオ信号をプレーヤーやレシーバーに戻すための機能です。ARC では、テレビのスピーカーではなく、ホームシアターのオーディオシステムでのオーディオ処理、再生が可能になります。
- 接続には HDMI 1.4 ケーブルが必要となります。また、テレビの HDMI 入力ポートが ARC 機能をサポートしていることを確認してください。通常はテレビ側で ARC を有効に設定する必要があります。

## BD-Live



ブルーレイディスクにはBD-Live機能を持つものがあります。BD-Liveでは、追加のコンテンツをダウンロードしたり、オンラインのプログラムで楽しんだりすることができます。BD-Liveのコンテンツはディスクや発売元により異なりますが、追加の字幕、同時解説、予告編、ゲーム、オンラインチャット等が含まれます。BD-Liveを楽しむにはブロードバンドのインターネット接続が必要となります(22ページ)。

ブルーレイディスクを再生する場合、発売元によってはBD-Liveのコンテンツをダウンロードし始めたり、メインメニューにBD-Liveの選択を表示したり、ダウンロードを開始するかどうかを確認したり、メンバー登録を求めたりするものがあります。BD-Liveのコンテンツを楽しむには表示される指示に従ってください。

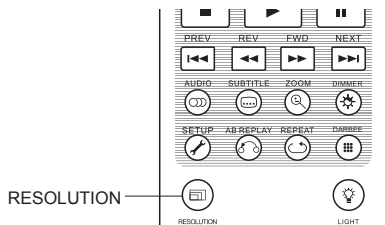
インターネットの接続スピードとBD-Liveコンテンツサーバーの容量により、BD-Liveのコンテンツのダウンロードにかかる時間は左右されます。ダウンロードが遅い、または再生が途切れ途切れになる場合には、BD-Live機能は使わずにディスクの内容を再生するか、しばらくたってからやり直すようにしてください。

BD-Live機能を使用すると、プレーヤーやディスクのID、IP (Internet Protocol) アドレスがコンテンツのプロバイダーに送信されることがあります。通常は個人を特定するような情報は送信されませんが、IPアドレスで地域やインターネットのプロバイダーを特定することが技術的に可能であるため、インターネットプロバイダーは誰がそのIPアドレスを使用しているかを把握しています。また、BD-Liveのコンテンツプロバイダーがメンバーアカウントでのログインを要求した場合、プロバイダーはメンバーやアカウント情報へのアクセスが可能となります。個人情報の取り扱いに関しては、インターネットのプロバイダーやBD-Liveのコンテンツプロバイダーに問い合わせてください。

**セットアップメニュー(79ページ) のBD-Liveネットワーク**でBD-Liveのネットワークへのアクセスを制限することもできます。

# 高度な操作

## 出力解像度



BDP-105DJPは複数の出力解像度に対応しています。最適な出力解像度の選択に関する説明は、**最適な出力解像度の選択** (25ページ) を参照してください。

出力解像度を変更するには、リモコンの**RESOLUTION**ボタンを押します。

1. HDMIケーブルがきちんと接続されているか確認してください。
2. テレビの電源を入れて、テレビがHDMI入力ポートを使用するように設定します。
3. プレーヤーの電源が入っていることを確認します。ディスクの再生中にも出力解像度の変更はできますが、念のために再生を中止してディスクを取り出してから変更することをお勧めします。**RESOLUTION**ボタンを押すとテレビに**解像度メニュー**が表示されます。現在設定されている解像度にテレビが対応してなくて**解像度メニュー**が表示されない場合には、プレーヤー前面の表示で解像度を確認してください。
4. **上下矢印**ボタンを使って出力解像度を選択します。**RESOLUTION**ボタンを繰り返し押すことによっても出力解像度を順番に切り替えることができます。
5. **ENTER**ボタンを押して選択した出力解像度を適用します。出力解像度を変更したくない場合には、**RETURN**ボタンで操作を終了して戻ります。

次の解像度が選択可能です:

NTSC出力:

4Kx2K → オート → 1080p(60Hz/24Hz) → 1080i 60Hz → 720p 60Hz → 480p → 480i → ソースダイレクト

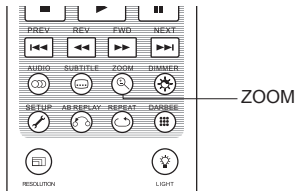
PAL出力:

4Kx2K → オート → 1080p(50Hz/24Hz) → 1080i 50Hz → 720p 50Hz → 576p → 576i → ソースダイレクト

### 注

- テレビによっては全ての出力解像度に対応していない場合があります。非対応の出力解像度が選択されると、テレビに何も映らなくなったりエラーメッセージが表示されたりします。このような場合には、テレビが対応している出力解像度を選択し直すようにしてください。
- HDMIを使うと何も表示されない場合には、HDMIケーブルを取り外し、コンポジットビデオケーブルを使ってプレーヤーのDIAG (診断) 出力をテレビに繋ぎ、**セットアップメニュー**でプレーヤーの設定を調節してください。
- 「アナログ放送終了」に伴い、2011年1月1日以降に製造、販売されるすべてのブルーレイディスクプレーヤーはハイビジョンビデオ (720p、1080i、1080p) をコンポーネントビデオ出力で送信することができなくなりました。このため、BDP-105DJPでは故障診断用の標準画質DIAGビデオ出力を除き、コンポーネント、コンポジットのビデオ出力が廃止されました。

## 拡大/縮小、横縦比の制御



この機能では表示されたコマの拡大や縮小、横縦比（イメージの幅と高さの比）の変更を行うことができます。

拡大/縮小倍率を変更するには、リモコンの**ZOOM**ボタンを押します。**ZOOM**ボタンを押すたびに倍率が順次切り替わります。

## HDMI出力の拡大率

セットアップメニューの**TVアスペクト比**設定やBD/DVDディスクがエンコードされた横縦比により選択可能な拡大率が変わります：

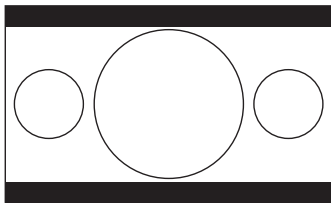
1:1 (ズームしない)、ストレッチ/圧縮、フル、Usan、1.2X、1.3X、1.5X、2X、1/2X

ディスクを取り出すかプレーヤーの電源を切ると拡大倍率は1:1に戻ります。

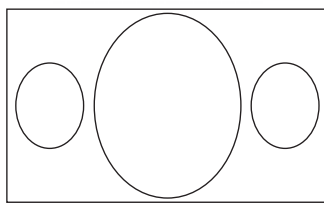
特定の状況で次の拡大倍率が便利な場合があります：

- 1) **TVアスペクト比が16:9ワイドか16:9ワイド/オート**に設定され、16:9のBDやDVDを再生する場合
  - **ストレッチ**—イメージが縦方向に1.33倍拡大されます。この倍率によって、横縦比が2.35:1の映画でイメージ上下の黒いブロック部分をなくすことができます。アナモルフィックレンズのプロジェクターで、このモードが有用な場合があります。

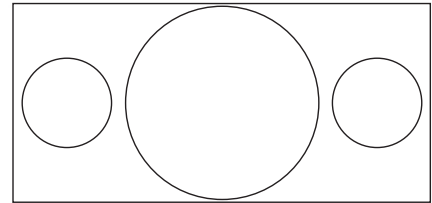
元の2.35:1ワイドスクリーン画像



「ストレッチ」拡大

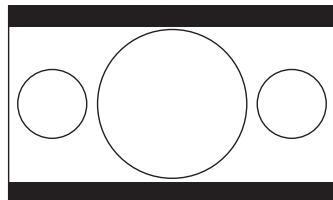


ワイドスクリーン画像の  
アナモルフィックレンズによる投射

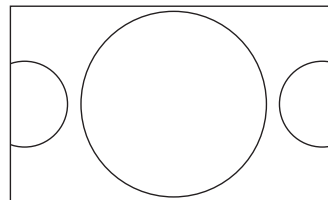


- **フル**—イメージは横縦方向ともに1.33倍に拡大されます。横縦比が2.35:1の映画で、横縦比を保ったままイメージ上下の黒いブロック部分をなくすことができます。ただし、イメージの左右が少し切り取られてしまいます。

元の2.35:1ワイドスクリーン画像



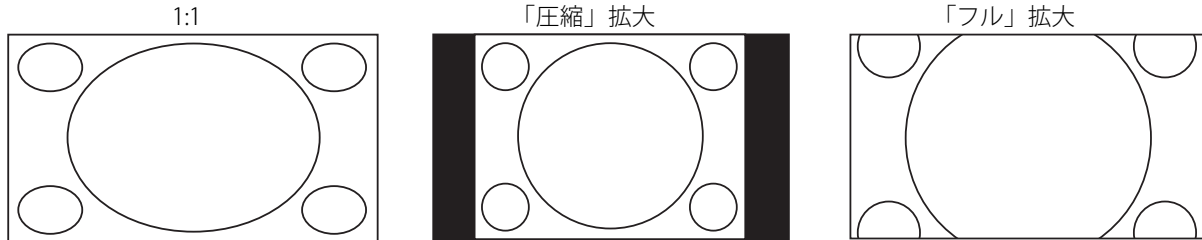
「フルスクリーン」拡大



## 高度な操作

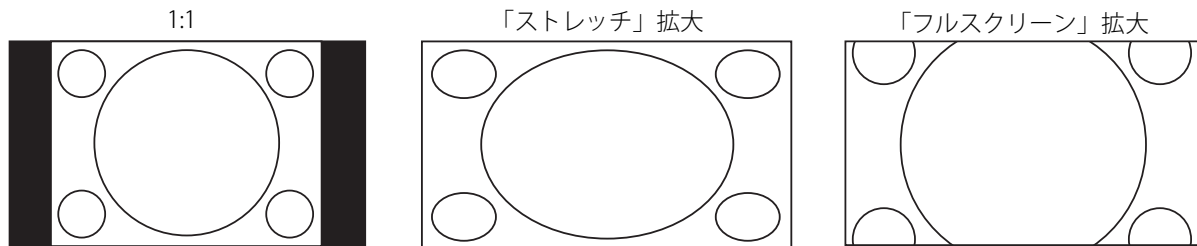
### 2) TVアスペクト比が16:9ワイドに設定され、4:3のBDやDVDを再生する場合

- **1:1** – イメージは16:9のスクリーン全体に表示されますが、横方向に伸張されます。このため、像は縦に短く横に広がって見えます。
- **圧縮** – 正確な4:3の横縦比を保ったまま、イメージの左右両側に黒いブロック部分を表示します。
- **フル** – この倍率では正しい横縦比が保たれますが、4:3のイメージを16:9のスクリーンに合わせるため、上下がわずかに切り取られます。



### 3) TVアスペクト比が16:9ワイド/オートに設定され、4:3のBDやDVDを再生する場合

- **1:1** – 正確な4:3の横縦比を保ったまま、イメージの左右両側に黒いブロック部分を表示します。
- **ストレッチ** – イメージは水平方向に1.33倍伸張されます。イメージは16:9のスクリーン全体に表示されますが、像は縦に短く横に広がって見えます。
- **フルスクリーン** – この拡大率では正しい横縦比が保たれますが、4:3のイメージを16:9のスクリーンに合わせるため、上下がわずかに切り取られます。



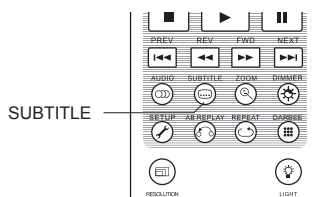
「Uscan」の倍率はイメージを5%縮小します。この倍率は、テレビのオーバースキャンを補正してイメージ領域全体を切り取らずに表示するために使われます。その他の倍率はそれぞれの値が示すとおりです。

## 注

- (1997年から2000年代初めまでに発売された) 初期のDVDタイトルの中には、4:3の非アナモルフィックワイドスクリーン横縦比を使用しているものがありますが、16:9のディスプレイでは上下左右を黒いブロックで囲まれた小さな領域でコンテンツが表示されます。上下のブロックはビデオにエンコードされたものですが、左右のブロックは正しい横縦比を保つためにプレーヤーが付け加えたものです。このような種類のディスクでは、フル拡大モードを使用してブロック部分を除去することができます。
- 制作者の意図によりDVDやブルーレイディスクの中にはZOOM機能を使えないものがあります。



## 字幕の上下移動



2.35:1の「Constant Image Height」ビデオ投射システムを使用している場合、アクティブなビデオ領域外に表示されるために字幕が欠けて見えることがあります。

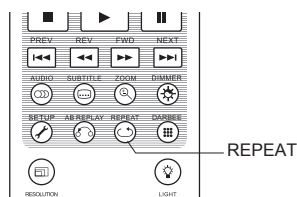
字幕の移動機能を使ってアクティブなビデオ領域で表示されるように字幕の位置を上下に移動させることができます。

以下の手順で字幕の位置を移動させることができます：

1. 字幕が記録されたDVD、ブルーレイディスク、その他のビデオプログラムの再生中に、ディスクメニューやリモコンを使って希望の字幕を選択します (32ページ)。
2. リモコンのSUBTITLEボタンを**字幕位置を移動**プロンプトが表示されるまで押し続けます。
3. スクリーンに字幕が表示されたら、**上下矢印**ボタンを使って字幕を希望の位置まで移動します。
4. **ENTER**ボタンを押して字幕の表示位置を確定します。

字幕の上下移動位置が設定されると、その位置はプレーヤーの**ビデオ設定 > ディスプレイオプション > 字幕移動**設定メニューオプションに記録され、それ以降に再生されるDVD、ブルーレイディスクのすべての字幕に適用されることになります。この設定メニューで直接値を変更することもできます。詳細は55ページ以降の**ビデオ設定**の部分を参照してください。

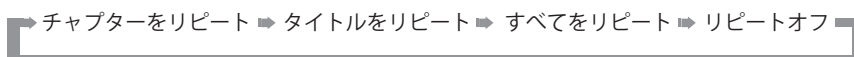
## 繰り返し再生



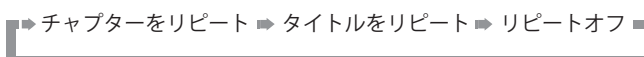
特定のチャプター、タイトル、トラック、ディスクを繰り返して再生するには、リモコンの**REPEAT**ボタンを押します。

**REPEAT**ボタンを押すたびに繰り返しモードは次の順序で切り替わります。

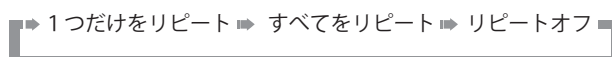
DVD、DVD オーディオ：



ブルーレイディスク：



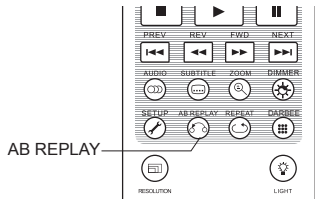
CD、SACD：



### 注

- ブルーレイディスクには繰り返し再生のできないものがあります。

## 指定箇所の繰り返し再生



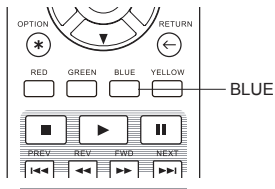
特定の箇所を繰り返し再生するには、以下の手順に従います：

1. 通常の再生中に、繰り返し再生を始める箇所（箇所A）でリモコンの**AB REPLAY**ボタンを押します。テレビ画面に「A-」と表示されます。
2. 繰り返し再生を終了する箇所（箇所B）で再び**AB REPLAY**ボタンを押します。プレーヤーが指定した箇所（A-B）の繰り返し再生を開始して、テレビ画面には「A-B」と表示されます。
3. もう一度**AB REPLAY**ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

### 注

ディスクフォーマットやコンテンツによっては対応していないものがあります。ブルーレイディスクの中には繰り返し再生ができないものがあります。

## シャッフル、ランダム再生



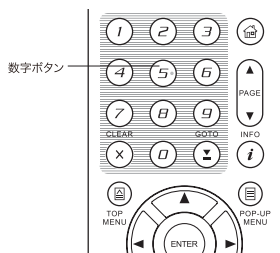
CDやSACDの再生中にリモコンの**BLUE**ボタンを押して、シャッフルとランダムモードを起動します。**BLUE**ボタンを押すたびに以下の順序で再生モードが切り替わります：



通常の再生モードでは、トラックは順番に従って再生されます。**ランダム**再生は、名前が表示するように再生トラックがランダムに選択されます。**シャッフル**モードもトラックの再生順序はランダムとなりますが、各トラックは一度しか再生されません。

繰り返しモードで再生中に**シャッフル**や**ランダム**モードを選択すると、繰り返しモードはキャンセルされてしまいます。同様に繰り返しモードを選択すると、**シャッフル**や**ランダム**モードが使われていてもキャンセルされます。

## チャプター、トラック番号を指定して再生

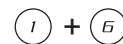


ディスクの再生中にリモコンの**数字**ボタンを押して、指定されたチャプターやトラックに直接ジャンプすることができます。たとえば：

- 7番目のトラックを選択するには**[7]**のボタンを押します。



- 16番目のトラックは**[1]**と**[6]**を続けて押します。



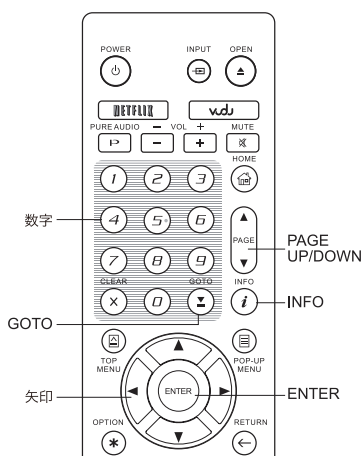
### 注

- DVD オーディオ・ブルーレイディスクの中にはチャプターを直接選べないものがあります。

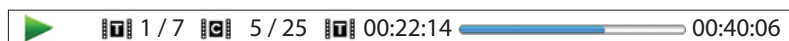
## 特定箇所からの再生



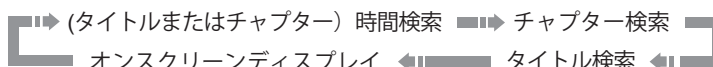
### DVD、ブルーレイディスク



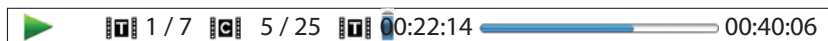
DVD、ブルーレイディスク再生中にタイトル、チャプターや時間を直接指定して再生を開始することができます。**GOTO**ボタンを押すと下のオンスクリーン表示が立ち上がります。



ビデオスクリーン上のオンスクリーン表示には、(左から順に) 次の情報が含まれます: 再生状態、タイトル、チャプター、時間表示、再生位置表示バー、タイトル全体の再生時間。最初に**GOTO**ボタンを押すと、カーソルが経過時間に移動し、**時間検索モード**になります。さらに**GOTO**ボタンを押すと、以下の順序で検索モードが切り替わります:



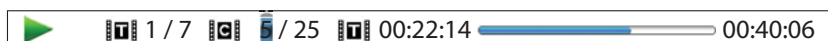
1. **タイトル時間検索:** 再生中のタイトルで指定した時間に移動します。
  - **GOTO**ボタンを押してオンスクリーン表示を立ち上げます。カーソルが時間表示に移動しますので、**数字**、または**矢印**ボタンを押して、希望の時間、分、秒を入力したら**ENTER**ボタンを押します。



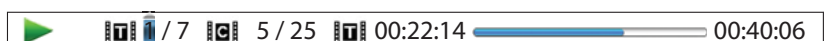
2. **チャプター時間検索:** 再生中のチャプターで指定した時間に移動します。
  - **INFO**ボタンを押してオンスクリーン表示を立ち上げます。**PAGE UP**や**PAGE DOWN**ボタンを使ってチャプター時間の表示モードに切り替えます (時間表示の左側にあるアイコンがタイトルからチャプターに変わります)。**GOTO**ボタンを押して時間表示にカーソルを移動し、**数字**または**矢印**ボタンを押して、希望の時間、分、秒を入力したら**ENTER**ボタンを押します。



3. **チャプター検索:** 指定したチャプターに移動します。
  - カーソルがチャプター表示に移動するまで**GOTO**ボタンを繰り返し押します。**数字**または**矢印**ボタンを押して、希望のチャプターを選択したら**ENTER**ボタンを押します。



4. **タイトル検索:** 指定したタイトルに移動します。
  - カーソルがタイトル表示に移動するまで**GOTO**ボタンを繰り返し押します。**数字**または**矢印**ボタンを押して、希望のタイトルを選択したら**ENTER**ボタンを押します。

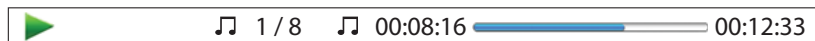


注

- ディスクによっては検索操作ができないものがあります。このような場合、検索箇所を選択できなかつたり、検索箇所を指定すると「無効な操作」のアイコンが表示されたりします。
- また、独自の検索機能を持つブルーレイディスクもあります。このようなディスクでは、オンスクリーン表示される指示に従って検索機能を使うようにしてください。

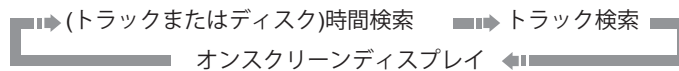
## CD、SACDディスク

ディスクやトラックの再生経過時間、あるいはトラック番号で再生開始箇所を直接指定したい場合があります。CDやSACDの再生中には、テレビ画面には以下のような情報が自動的にオンスクリーン表示されます：



オンスクリーン表示には、(左から順に) 次の情報が含まれます：再生状態、トラック番号、時間情報、再生位置表示バー、トラック全体の再生時間。

以下の検索モードを使用して指定した箇所から再生を開始するには、**GOTO**ボタンを押します。**GOTO**ボタンを押すたびに以下の順序で検索モードが切り替わります：



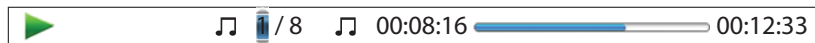
1. **トラック時間検索**：再生中のトラックで指定した時間に移動します。
  - **GOTO**ボタンを押してカーソルをトラックの時間表示に移動します。**数字**または**矢印**ボタンを押して、希望の時間、分、秒を入力したら**ENTER**ボタンを押します。



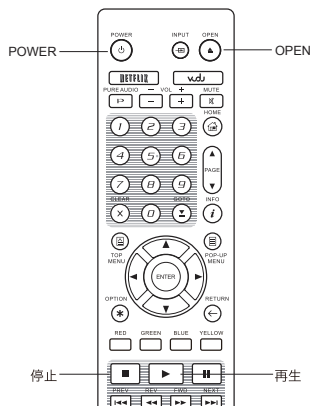
2. **ディスク時間検索**：指定した時間に移動します。
  - オンスクリーン情報が表示されている時に、**PAGE UP**や**PAGE DOWN**ボタンを使ってディスク時間の表示モードに切り替えます。**数字**または**矢印**ボタンを押して、希望の時間、分、秒を入力したら**ENTER**ボタンを押します。



3. **トラックを選択**：指定したトラックに移動します。
  - カーソルがトラック番号表示に移動するまで**GOTO**ボタンを繰り返し押します。**数字**または**矢印**ボタンを押して、希望のトラックを選択したら**ENTER**ボタンを押します。



## メモリー、自動続き再生

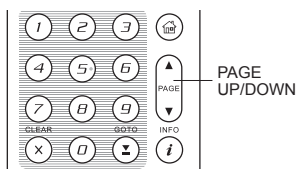


1. **STOP**、**OPEN**、**POWER**操作で再生が中断されると、プレーヤーは自動的にその箇所を記録します。
2. 電源が切られたりディスクが交換されたりしても、記録された箇所の情報は保持されます。
3. 中断箇所が記録されたディスクがセットされると、プレーヤーはその箇所からの再生を開始します。自動続き再生を中止して最初から再生を開始したい場合には、その旨入力が求められたときに**STOP**ボタンを押します。
4. プレーヤーは最大5枚までの再生箇所を記録します。6枚目の中断箇所が記録されると、1枚目の箇所記録は消去されます。

### 注

- ブルーレイディスクの中には続き再生に対応せず、常に最初から再生開始するものもあります。

## DVDオーディオディスクの画像表示

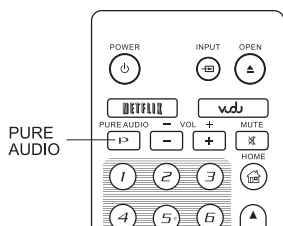


DVD-オーディオディスクの中には、バンドの写真やアルバムの解説といった静止画を収録したものがあります。DVDオーディオのトラック再生中に**PAGE UP**ボタンを使って映像を先送りしたり、**PAGE DOWN**ボタンで戻したりすることができます。

### 注

- 静止画を収録していないDVDオーディオディスクもあります。

## ピュアオーディオモード



ビデオ処理と出力を止めることでより高音質のオーディオを楽しむことができます。このピュアオーディオモードはビデオ、オーディオ信号間の干渉を軽減します。

1. リモコンの**PURE AUDIO**ボタンを押すと、ビデオ出力を中止して**ピュアオーディオモード**に切り替わります。ビデオ出力を停止し、電源ライトが暗くなり、前面表示窓も表示されなくなります。
2. もう一度**PURE AUDIO**ボタンを押すと、ビデオ出力が再開されて**ピュアオーディオ**を終了します。

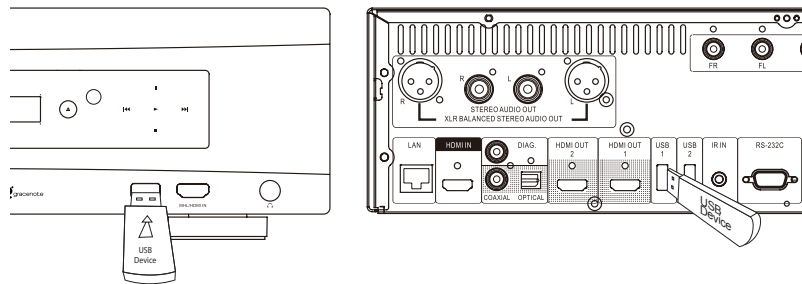
### 注

- プレーヤーの電源を切ったり再生を停止したりすると、**ピュアオーディオモード**は自動的に停止します。
- HDMI では、オーディオとビデオの両方の信号が伝送されますので、HDMI のビデオ信号を完全に停止することはできません。代わりに黒い画面が送信されて、信号間の干渉リスクを最小にします。

## メディアファイルの再生

ブルーレイ、DVD、CD、SACD等の標準ディスクフォーマット以外にも、BDP-105DJはメディアファイルが再生可能で、(記録用CD、DVD、ブルーレイといった) データディスクや外付けのUSBドライブに記録されたデジタル音楽、ムービー、写真を楽しむことができます。使用されるメディア、エンコード用ソフトウェアや技術の多様性から、すべてのユーザーファイルやダウンロードファイルの再生は保証できません。これらのコンテンツのサポートはベストエフォートとご理解ください。

### USBフラッシュドライブからの再生

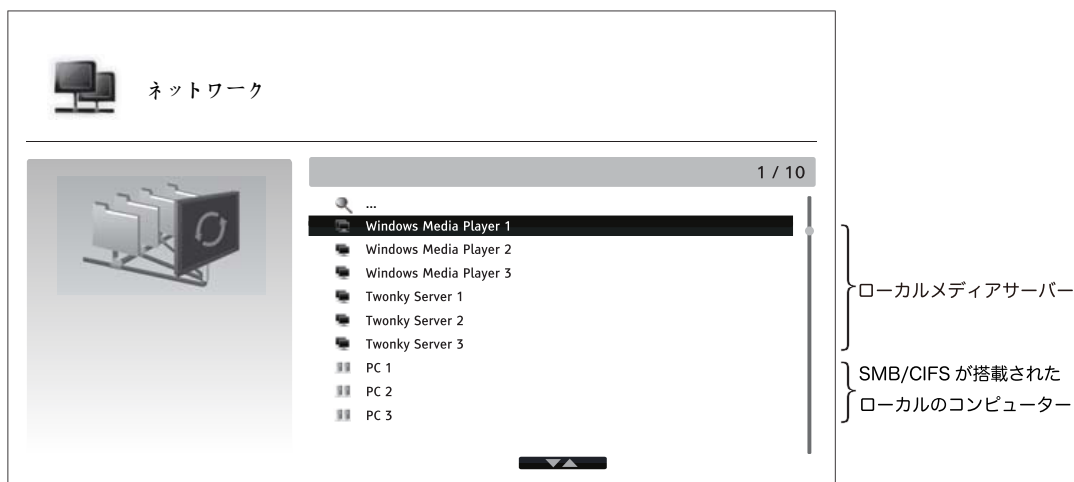


本製品は前面に1つ、背面に2つのUSBポートがあり、このポートにUSBドライブを接続することができます。

USBポートは最大5Vで1000mAの電力をUSBドライブに供給することができます。この電力はUSBフラッシュドライブやメモリーカードには十分ですが、USBハードディスクには不十分な場合があります。ドライブのメーカーに連絡して必要な電力を確認するか、外付け電源を使用するようにしてください。

- このプレーヤーは「USB Mass Storage Class Bulk-Only Transport (USBマストレージクラスかつバルクオンリー転送対応)」のデバイスのみをサポートします。ほとんどのフラッシュドライブやポータブルディスクはこのクラスに準拠していますが、MP3プレーヤー、デジカメ、携帯電話の中には準拠していないものもあります。
- サポートされているUSBドライブは、FAT (File Allocation Table)、FAT32、NTFS (New Technology File System) のファイルシステムとしてフォーマットが可能です。
- 互換性のないUSBデバイスを使用すると、プレーヤーの応答がなくなってしまうことがあります。このような場合には、プレーヤーの電源を切ってUSBデバイスを取り外してから、再度プレーヤーの電源を入れるようにしてください。
- メディアファイル検索中の反応を改善するために、プレーヤーがUSBドライブの一部メディア情報をキャッシュすることがあります(詳細は79ページ)。このようなプレーヤーのUSBドライブへの書き込みを禁止するには、セットアップの「キャッシュメディア情報」オプションを無効に設定しますが、問題がない限りこの設定を有効にしてキャッシュされたメディアデータが削除されないようにすることをお勧めします。

## 家庭内ネットワークのメディア共有



BDP-105DJPは、同じホームネットワークに接続しているメディアデバイスに保存された音楽、写真、ビデオのファイルをリモート再生することができます。この機能を利用するには、PCやNAS (Network Attached Storage) を準備して、DLNAやSMB/CIFS (ネットワーク共有プロトコル) クライアントと同等機能を持つソフトウェアをインストール、設定する必要があります。**セットアップメニュー**(79ページ) で **ローカルネットワークをオン** に設定し、リモコンの**HOME**ボタンを押して**Homeメニュー**を立ち上げ、**ネットワーク**のアイコンを選択して**ENTER**ボタンを押すと、利用可能なサーバーのリストが表示されます。BDP-105DJPからサーバーが見えるようにするため、ファイアウォールを無効に設定する必要がある場合があります。

BDP-105DJPは次の3種類のいずれかの方法でネットワーク共有を実行します。

- デジタルメディアプレーヤー (DMP) として: プレーヤーは、DLNA 同等の機能を持つローカルのメディアサーバーからコンテンツを検索、アクセス、引き出す (プルする) ことができます。
- デジタルメディアレンダラー (DMR) として: プレーヤーはデジタルメディアコントローラー (DMC) から受け取った (プッシュされた) コンテンツを再生します。DMC機能を持つメディアサーバーが必要です。設定および操作方法は、サーバーのユーザーマニュアルを参照してください。
- SMB/CIFSクライアントへのアクセスによって: 外部USB/ハードディスクを使用しているときに、SMB/CIFSクライアントを通してプレーヤーはネットワークで直接共有ファイルにアクセスすることができます。ほとんどのWindowsがインストールされたPCではすでにSMBクライアントが組み込まれています。SMB/CIFSの共有ファイル/フォルダーの設定方法はOSのマニュアルを参照してください。

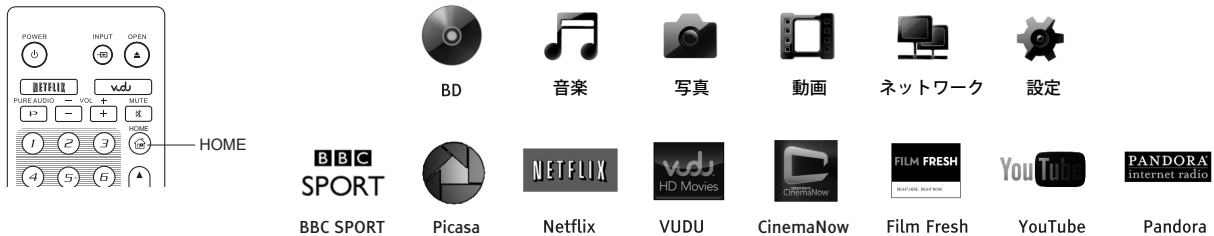
### 注

- NASはファイルベースのデータストレージサービスを提供するネットワーク機器で、製品として購入することができます。
- SMB (Server Message Block)やCIFS (Common Internet File System) は、一般的にはMicrosoftのWindowsネットワークとして知られており、メディアサーバーを別途準備する必要はありません。また、メディアフォーマット間のトランスコードの必要もないため、処理負荷を軽減したり元のコンテンツの品質を保持したりすることができます。
- NAS機器やメディアサーバーの性能差や設定の違いにより、ローカルネットワーク共有用ハードウェア/ソフトウェアの互換性はベストエフォートとご理解ください。



## HOMEメニューのインターネットストリーミング

BDP-105DJPのHomeメニューは、光ディスク、USBフラッシュドライブ、外部ハードディスク、共有ホームネットワーク、インターネットストリーミングでメディアファイルを検索、再生するための機能を提供します。メディアファイルにアクセスするためのスタートポイントとしてHomeメニューをご利用ください。



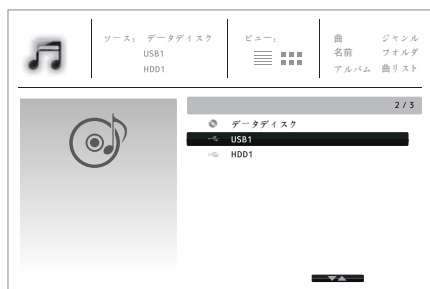
リモコンのHOMEボタンでHomeメニューを立ち上げます。次の17種類の選択が可能です。

- **Disc**を選択すると、セットされた光ディスクの再生を開始します。
- **音楽、動画、写真**は接続されたUSBドライブまたはセットされたデータディスクから、音楽、ムービー、写真のメディアファイルにアクセスします。
- **ネットワーク**はホームネットワーク上のメディアサーバーからオーディオ、ビデオ、写真をストリーム再生します。対応ハードウェアやソフトウェアが必要になる場合があります。
- **設定**は、リモコンのSETUPボタンを押した時と同じくプレーヤーの**セットアップメニュー**を立ち上げます。
- **Netflix**は、ご使用のNetflixアカウントに接続してオンラインのムービーストリーミング機能を提供します。
- **VUDU**は、ご使用のVUDU HDムービーアカウントに接続してオンラインのムービーやテレビ番組のレンタル、購入、ストリーミング機能を提供します。
- **CinemaNow**は、ご使用のCinemaNowムービーアカウントに接続してオンラインのムービーやテレビ番組のレンタル、購入、ストリーミング機能を提供します。
- **Film Fresh**は、ご使用のアカウントに接続してオンラインのムービーやテレビ番組のレンタル、購入、ストリーミング機能を提供します。
- **YouTube**は、YouTubeから通常のテレビ視聴と同等のスムーズなHDビデオストリーミングを提供します。
- **Pandora**は、ご使用のPandoraアカウントに接続してカスタマイズされたインターネットラジオのサービス機能を提供します。
- **Rhapsody**は、ご使用のRhapsodyアカウントに接続してカスタマイズされたインターネット音楽のサービス機能を提供します。
- **Picasa**は、ご使用のPicasaアカウントに接続してオンラインの写真表示と共有機能を提供します。

### 注

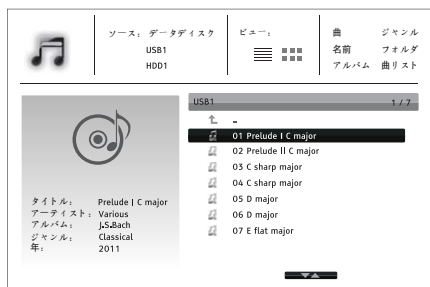
- ハードウェアとソフトウェア設定の多様性により、**ネットワーク**機能は正式サポートの対象ではありません。このため、OPPOではこの機能に関する電子メールや電話での技術サポートを提供していません。
- インターネットストリーミングのアプリケーションにより BDP-105DJPリモコンのボタンに割り当てられる機能が異なっている場合があります。NetflixやYoutubeを終了するにはHOMEボタンを押しますが、VUDU、Film Fresh、Picasaを終了するにはHOMEボタンを押すかHomeメニューが表示されるまでRETURNボタンを繰り返し押します。また、Pandoraを終了するにはHOMEボタンを押すかPandoraのメニュー選択で**パンドラを終了**を選びます。サポートが必要な場合には、OPPOのカスタマーサポートまでご連絡ください。
- 日本国内でサービスがご利用いただけない場合があります。

## 音楽ファイルの再生



光ディスクやUSBドライブに記録されたデジタル音楽を再生するには、**Home**メニューで**音楽**を選択します。表示されるファイルブラウザでファイルやフォルダーを検索することができます。

まず最初に音楽ファイルが収録されたデータディスクやUSBデバイスを選択します。プレーヤーはメディアを読み込んで、数秒後にフォルダーと音楽ファイルを一覧表示します。



音楽のブラウザーでは次の操作を実行することができます:

- **上下矢印**や**PAGE UP/DOWN**ボタンによるカーソル移動と音楽ファイルの選択。
- **OPTION**ボタンによる音楽情報へのアクセス機能 (27ページ)。

- **TOP MENU**ボタンで、画面一番上のカテゴリーメニューに移動します。このメニューでは次の選択が可能です。
  - **ソース** - 接続されている別のストレージデバイスに切り替えることができます。
  - **ビュー** - 一覧とフォルダーのビューを切り替えることができます。
  - **並び替え** - 音楽ファイル/フォルダーを、曲名、アーティスト、アルバム、ジャンル等のカテゴリーにしたがって一覧表示します。
- 音楽ファイルがカーソルでハイライト表示されているときに**ENTER**や**PLAY**ボタンを押すと再生を開始します。

### 注

- データディスクやUSBドライブがセットされると、プレーヤーは自動的にファイルのインデックス作成によるデータベースの構築をバックグラウンド処理で開始します。ファイルの数やサイズによってはこの処理に数分を要することがあります。データベースの構築後にカテゴリーのリスト (アーティスト、アルバム、ジャンル) へのアクセスが可能となります。構築中にカテゴリーリストにアクセスしようとすると、警告メッセージが表示されます。

音楽ファイルの再生が開始されてからその他の操作を行わない場合、数秒後に再生中の表示に切り替わります。**OPTION**ボタンを押して再生中を選択することによってもこの表示に切り替えることが可能です。この画面には以下の情報が表示されます。

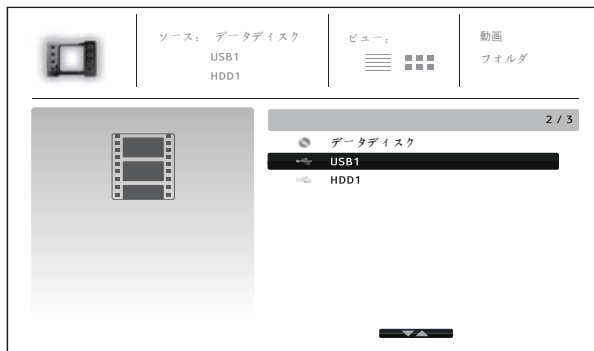
- 再生状態表示: 再生、停止、一時停止、トラック、時間情報。
- 再生モードの表示と変更: シャッフル/ランダム、再生中のファイルの繰り返し/すべてのファイルの繰り返し。
- 音楽情報: ファイルに記録されているか、Gracenoteオンラインデータベースによるアルバムアートやタグ等の情報。



再生中画面の表示中には次の操作を実行することができません。

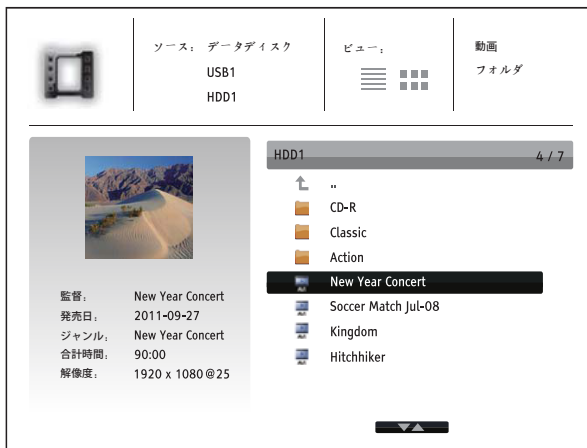
- 標準の再生コントロール: **PLAY**、**STOP**、**PAUSE**、**PREV/NEXT**、**REV**、**FWD**
- 特別な再生モード: **REPEAT**、シャッフル/ランダム (**BLUE**ボタン)
- **OPTION**ボタンを押すと**オプションメニュー**が表示されます (27ページ)。
- 音楽再生を中止しないでブラウザーに戻る: **RETURN**
- 再生を中止してブラウザーに戻る: **STOP**

## ムービーファイルの再生



光ディスクやUSBドライブに記録されたデジタル音楽を再生するには、**Homeメニュー**で**動画**を選択します。表示されるファイルブラウザーでファイルやフォルダーを検索することができます。

まず最初にムービーファイルが収録されたデータディスクやUSBデバイスを選択します。プレーヤーはメディアを読み込んで数秒後にフォルダーとムービーファイルを一覧表示します。



ムービーのブラウザーでは次の操作を実行することができます。

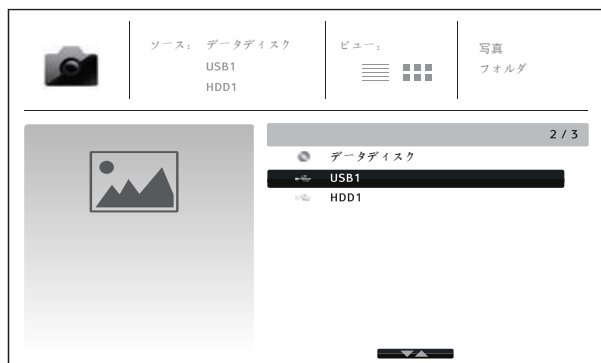
- **上下矢印**や**PAGE UP/DOWN**ボタンによるカーソル移動とムービーファイルの選択。
- **OPTION**ボタンによるビデオ情報等へのアクセス機能 (27ページ)。
- **TOP MENU**ボタンで、画面一番上のカテゴリーメニューに移動します。このメニューの機能は**音楽ファイルの再生** (46ページ) の説明と同じです。

- ムービーファイルがカーソルでハイライト表示されているときに**ENTER**や**再生**ボタンを押すと再生が開始します。

ムービーファイルの再生が開始されると、通常の再生コントロールを使用することができるようになります:

- ムービーの再生を中止してファイルブラウザーに戻るには**STOP**ボタンを押します。また、**HOME**ボタンを押すといつでも再生を中止して**Homeメニュー**に戻ることができます。
- **OPTION**ボタンを押すと、動画情報、字幕調整、3D設定、ピクチャーズーム等の機能が使用できます。詳細は27ページにあります。

## 写真ファイルの再生

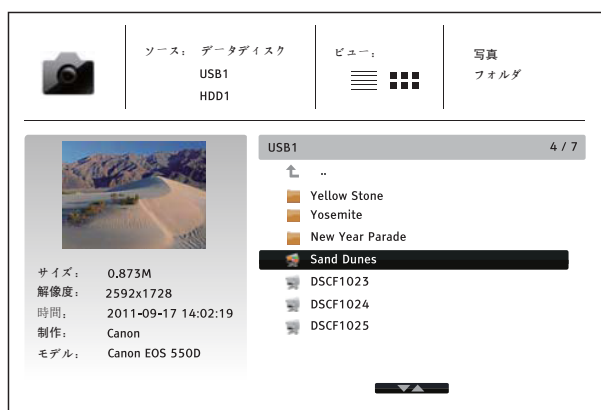


光ディスクやUSBドライブに記録されたデジタルの写真ファイルを再生するには、**Homeメニュー**で**写真**を選択します。表示されるファイルブラウザでファイルやフォルダを検索することができます。

まず最初に写真ファイルが収録されたデータディスクやUSBデバイスを選択します。プレーヤーはメディアを読み込んで、数秒後にフォルダと写真ファイルを一覧表示します。

写真のブラウザでは次の操作を実行することができます。

- **上下矢印**や**PAGE UP/DOWN**ボタンによるカーソル移動と写真ファイルの選択。
- **TOP MENU**ボタンで、画面一番上のカテゴリーメニューに移動します。
- 写真ファイルがカーソルでハイライト表示されているときに**ENTER**や**PLAY**ボタンを押すと、フルスクリーンのスライドショーで写真の再生が開始されます。



写真のスライドショー再生中には次の操作を実行することができます。

- ヘルプスクリーンの表示: **INFO**
- 標準の再生コントロール: **PLAY**、**STOP**、**PAUSE**、**PREV/NEXT**
- スライドショーの速度調節: **REV**、**FWD**
- 拡大: **ZOOM** - 拡大表示後は**矢印**ボタンを使用して写真をパン移動することができます。
- 反映 (写真を水平方向に反転して倒置します): **上矢印**
- 鏡映 (写真を垂直方向に反転して鏡像にします): **下矢印**
- 左方向回転 (反時計回り): **左矢印**
- 右方向回転 (時計回り): **右矢印**
- 繰り返し: **REPEAT**
- 概要モードの写真表示: **RED**ボタン - 概要モードでは、画面に写真のサムネイルが表示されて写真間の移動、選択を簡単に実行することができます。
- EXIF情報の表示: **GREEN**ボタン
- ランダムな順序での再生: **BLUE**ボタン
- スライドショーの画面転換効果の変更: **YELLOW**ボタン
- **OPTION**ボタンを押すと、イメージの拡大、回転等の機能にアクセスすることができます (27ページ)。

## バックグラウンドミュージックの再生

写真のスライドショーでバックグラウンドミュージックを再生することができます。このためにデジタルの音楽ファイルを準備します。この音楽ファイルの保存先は写真と同じディスクでも別のUSBでも構いません。**Homeメニュー**で**音楽**を選択して音楽の再生を開始したら、**HOME**ボタンで**Homeメニュー**に戻り、続いて**写真**を選択してスライドショーを開始します。

# セットアップメニューのオプション

BDP-105DJPのセットアップメニューには多様な設定、構成オプションがありますが、出荷時の設定から変更する必要のない場合がほとんどです。もしホームシアターの設定やお好みの視聴環境に完璧に合うようにプレーヤーを調整する必要がある場合には、この後の説明で詳細を参照してください。

## セットアップメニューシステムの使用

このユーザーガイドの他の項目でも説明されているように、プレーヤーのセットアップメニューでは特定のオーディオ/ビデオの構成に合致するように調節を実行することができます。メニューを使って調節を行うとき、目的の機能へ到達するためのメニュー手順を示すために以下のような表記を使用します：

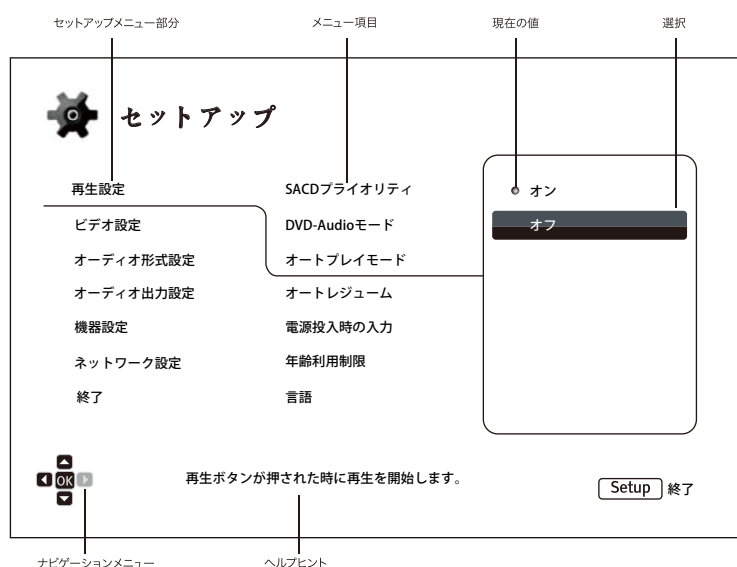
### セットアップメニュー部分 > メニュー項目 > 選択

セットアップメニュー部分は、セットアップメニュー階層最上位のレベルです。BDP-105DJPではセットアップメニューは次の6つの部分に分割されています：**再生設定**、**ビデオ設定**、**オーディオ形式設定**、**オーディオ出力設定**、**機器設定**、**ネットワーク設定**。

メニュー項目は中央の列に表示される調節パラメーターです。セットアップメニュー部分で選択した部分に進むと、メニュー項目のリストと現在の設定値が枠に囲まれて一覧表示されます。

選択が、選択されたパラメーターに加えられようとしている実際の値や内容を表し、対応するメニュー項目の右側に表示されます。

メニュー項目や選択が画面に収まりきらない場合は、スクロールマークがメニューの上や下に表示されます。上下矢印ボタンで表示をスクロールして、表示外の項目にアクセスすることができます。



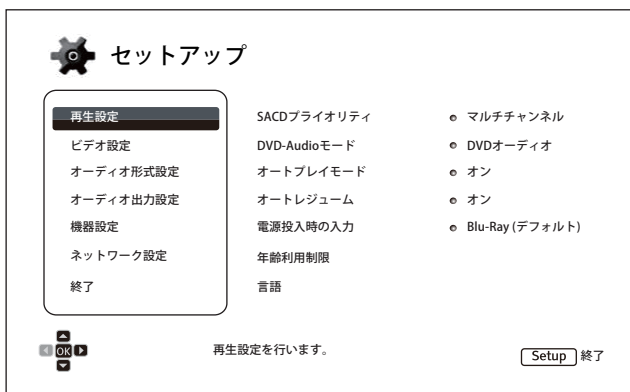
上の図には、これまで説明してきたメニュー要素とその関係がわかりやすく示されています。この画面を例に取れば、再生設定部分のオートプレイモードのパラメーターをオフに設定する方法が示されています。どのようにしてこの項目にアクセスしたかを示すために次のような表記を行います：**再生設定> オートプレイモードオフ**。

**注**

一部の設定項目が灰色表示されてアクセスできないことがあります。再生中のディスクや相互関連する項目の変更に起因している場合があります。このようなときには設定項目を変更する前に再生を中止してディスクを取り出してみてください。それでも設定項目にアクセスできない場合には、構成に矛盾がないか確認してください。たとえば、**ビデオ設定 > 3D出力がオフ**に設定されていると、**3D設定**のメニューは灰色表示になってしまいますが、**3D出力設定を強制(または自動)**に設定すると**3D設定**メニューにアクセスできるようになります。

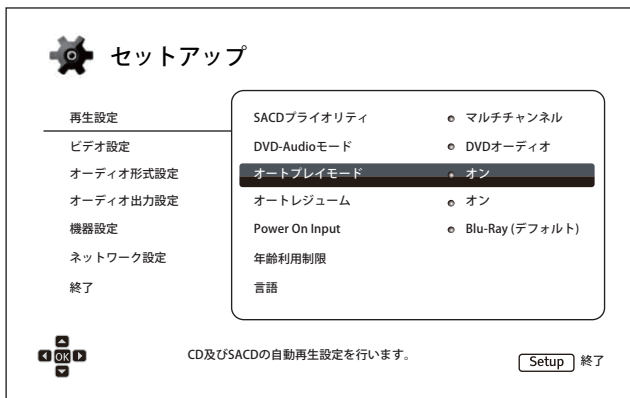
プレーヤーの**セットアップメニュー**にアクセスするには、リモコンの**SETUP**ボタンを押します。ディスクの再生中は**セットアップメニューオプションの一部がアクセスできなくなる**ことがありますので、再生が完全に停止した状態か、プレーヤーにディスクがセットされていない状態で、**セットアップメニュー**の操作を行うようにしてください。

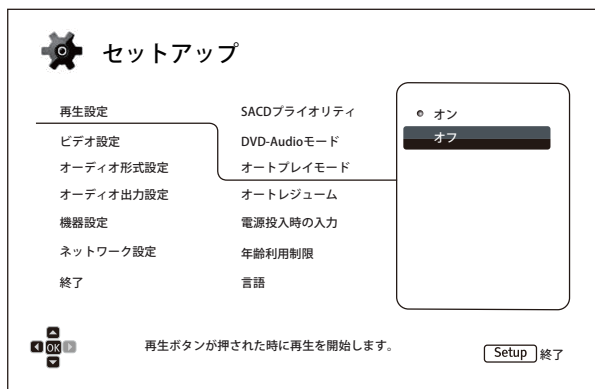
1. リモコンの**SETUP**ボタンを押して、テレビ画面に次のメニューを表示します:



2. **上下矢印**ボタンで希望の部分を選択し、**ENTER**ボタンか**右矢印**ボタンで選択した部分に進みます。
3. **上下矢印**ボタンで変更する設定項目を選択したら、**ENTER**か**右矢印**ボタンで設定を変更します。**セットアップメニュー**の上下部分にスクロールアイコンが表示された場合には、**上下矢印**ボタンでスクロールすることによってアクセスが可能な表示されている以外のメニュー項目があることを表します。

たとえば、**再生設定**部分で**上下矢印**ボタンを使って**オートプレイモード**設定項目を選択し、**ENTER**ボタンを押して**オートプレイモード**の設定を変更します。





4. 設定可能な値をリストから選択するには、**上下矢印**ボタンで値を選択してから**ENTER**ボタンで確定します。

たとえば、**オートプレイモード**に**オフ**を選択するには、**上下矢印**ボタンを使って**オフ**をハイライト表示して、**ENTER**ボタンを押します。

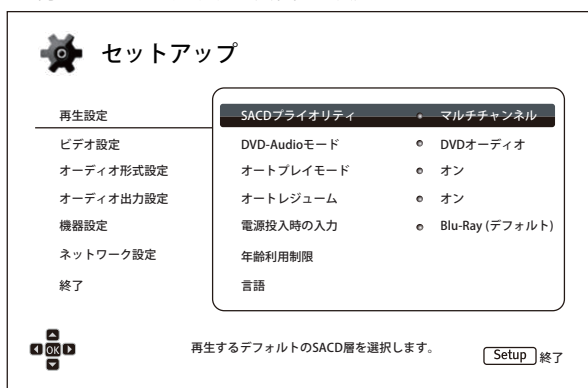
5. リモコンの**SETUP**ボタンを押すか**セットアップ**部分で**終了**を選択すると、いつでも**セットアップ**を終了することができます。

プレーヤー前面またはリモコンの電源ボタンでプレーヤーの電源が切られた場合には設定が記録されますが、プレーヤーがスタンバイモードになる前にAC電源が切断されてしまうと設定は保存されません。設定が正しく保存されるようにするには、**セットアップ**のオプションに大きな変更を加えた後に一旦プレーヤーの電源を落としてから再度電源を投入してください。



## 再生設定

再生設定部分では再生の設定を行います。次の項目を設定することができます。



- SACDプライオリティ:** SACD (スーパーオーディオCD) でどのオーディオレイヤーを再生するか選択します。
  - **マルチチャンネル** – 高解像度のマルチチャンネルサラウンドオーディオレイヤーを再生します。
  - **ステレオ** – 高解像度の2チャンネルステレオオーディオレイヤーを再生します。
  - **CDモード** – ハイブリッドSACDディスクのCDレイヤーを再生します。
- DVD-Audioモード:** DVDオーディオのどの部分を再生するか選択します。
  - **DVDオーディオ** – 高解像度オーディオディスクのDVDオーディオ部分を再生します。
  - **DVDビデオ** – Dolbyデジタル、DTSオーディオディスクのDVDビデオ部分を再生します。
- オートプレイモード:** プレーヤーがCD、SACD、DVD、Blu-rayを自動再生開始するかどうかを選択します。
  - **オン** – ディスクがプレーヤーにセットされると、自動的に再生を開始します。
  - **オフ** – ユーザーがPLAYボタンで再生開始するのを待ちます。
- オートレジューム:** 記憶させた箇所から再生を再開するかどうかを選択します。この設定は、CD、SACD、DVD、および一部のブルーレイディスクに適用されます。
  - **オン** – 記憶させた箇所から再生を自動的に再開します。
  - **オフ** – ディスクの最初から再生を開始します。
- 電源投入時の入力:** 電源投入時に選択される入力ソースを設定することができます。特定のプレーヤーを専用のプロセッサあるいはプリアンプとして使う場合にのみこのオプションを設定するようにしてください。
  - **Blu-Ray (デフォルト)** - 起動時に通常のBlu-Rayのホームメニューが表示されます。通常の使用にはこの設定をお勧めします。
  - **最後の入力** - 起動時に直前に使用していた入力を選択されます。入力機器の状態によっては何も表示されなかったり、「No signal (無信号)」の警告メッセージが表示されたりするかも知れません。
- 年齢利用制限:** 若年者が不適切なコンテンツを見ないように視聴制限レベルを設定することができます。この機能を利用するには、ディスクが適切な制限年齢を使用してエンコードされている必要があります。
  - **ENTER**ボタンで制限年齢の選択メニューを立ち上げます。
  - 視聴制限用のパスワードを入力してから、視聴制限設定を調節します。視聴制限用のパスワードが未設定の場合、工場出荷時のパスワード「0000」を使用してください。
  - **年齢利用制限メニュー**では以下の項目が設定できます。
    - **BDレーティング** – 上下矢印ボタンでブルーレイディスクの年齢制限を設定します。**オフ**に設定すると、年齢制限が解除されてすべてのディスクが再生可能になります。1から21までの数字は制限年齢に対応します。設定した年齢以下の制限年齢でディスクがエンコードされていれば再生が可能になりますが、ディスクが設定された年齢を超える年齢制限を持つ場合には再生することはできなくなります。
    - **DVDレーティング** – 上下矢印ボタンでDVDの年齢制限を設定します。Kid、G、PG、PG-13、PGR、R、NC-17、Adult、オフの中から選択が可能です。設定された年齢以下のディスクは再生可能になりますが、設定年齢を超えるディスクの再生はブロックされます。**オフ**に設定するとすべてのディスクが再生可能になります。

- **エリアコード** – ブルーレイディスクの中には、地域ごとに異なる視聴制限のレベルが設定されているものがありますが、現時点でこのプレーヤーは米国での視聴制限レベルのみに対応しています。
- **パスワード変更** – 視聴制限用のパスワードを変更します。4桁の数字を入力して新しいパスワードを設定してください。確認のため同じパスワードを再入力します。パスワードに間違いがないことが確認されると、視聴制限用の新しいパスワードが有効となります。

7. **言語**: 優先言語を設定します。以下の項目が設定可能です。

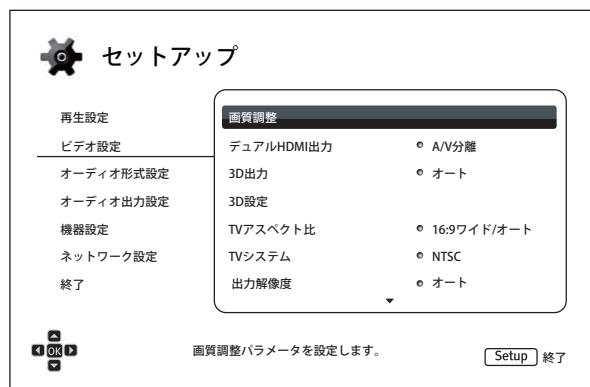
- **本機の言語** – セットアップメニューやオンスクリーン表示で使用される言語を選択します。現時点では日文のみに対応しています。プレーヤーは現在10カ国語に対応しています。
- **ディスクメニュー言語** – DVDやブルーレイのディスクメニュー表示で使用する優先言語が選択できません。指定した言語のディスクメニューが収録されている場合には、デフォルトのディスクメニューではなく、指定した言語でメニューが表示されます。
- **オーディオ言語** – DVD、ブルーレイディスクで、優先言語を選択します。選択された言語のオーディオトラックがディスクに存在する場合には、その言語でオーディオが再生されます。
- **字幕言語** – DVDの優先字幕言語を選択します。指定した言語の字幕が存在する場合には、その言語が字幕に使用されます。Autoが指定されると、字幕表示はディスクの設定により決定されます。

**注**

優先指定したい言語がオーディオ、字幕、ディスクメニューのオプションの言語一覧に存在しない場合には、「その他」を選択して86ページの言語コードを直接入力してください。

## ビデオ設定

セットアップのビデオ設定部分ではビデオ出力オプションの設定をすることができます。



1. **画質調整:** 映像の制御設定を調節することができます。BDP-105DJPでは、広範囲の映像制御が可能です。個々の制御の詳細は**画質調整**の部分 (58ページ) を参照してください。
2. **デュアルHDMI出力:** HDMI出力ポートが両方とも使用されている場合の出力モードを選択します。HDMIポートが1つしか使用されていない場合には、ここでの設定は適用されません。
  - **A/V分離** (推奨設定) – **HDMI 1 OUT**をビデオ専用出力ポート、**HDMI 2 OUT**をオーディオ専用出力ポートとして使用します。この設定では、最高画質の映像と最高のオーディオ解像度を得ることができます。
  - **2画面表示** – デジタルのオーディオとビデオ信号を両方のHDMI出力に同時送信します。この設定では、サラウンドサウンドのオーディオがステレオにダウンミックスされて元のオーディオ品質が失われてしまう可能性があるため、本当に2つのHDMI表示が必要な場合以外にはお薦めできません。

### 注

- 接続されたテレビとレシーバーが対応している必要がありますが、このプレーヤーにはデジタルオーディオとビデオ信号の解像度を自動調整する機能があります。
  - **ソースダイレクト**を選択しない限り、HDMI 1出力には専用のDarbee Visual PresenceおよびSilicon Image VRS ClearViewビデオプロセッサが使用されます。
  - **A/V分離** モードではHDMI 1 OUTはビデオのみでオーディオ信号はありませんが、HDMI 2 OUTではオーディオ信号と場合によってはビデオ信号が出力されます。HDMIはビデオのデータにオーディオを埋め込むため、オーディオを送信するためには、たとえ無表示画面であってもビデオ信号が必要となるためです。
3. **3D出力:** 3Dコンテンツのビデオ出力モードを選択します。
    - **オート** (出荷時設定) – ディスクコンテンツとディスプレイの両方が対応している場合に3D出力します。プレーヤーは、ディスクの3Dコンテンツの有無とテレビやプロジェクターの3D互換性を自動的に確認し、両方の確認が取れた場合にHDMI出力端子から3Dビデオを送信します。これ以外の場合には2Dビデオが出力されます。3Dムービーを鑑賞するには、アクティブシャッター型の3Dメガネ (OPPOからは販売されていません) が必要になります。
    - **オフ** – ディスクに3Dのコンテンツがあっても、常に2Dビデオフォーマットで出力します。ご使用のテレビが3D対応でない場合や3Dメガネがない場合等のビデオ品質が保証されます。
    - **強制する** – 3Dのブルーレイディスクで常に3Dのビデオフォーマット出力を行います。お使いのテレビが3D対応でない場合には、(ビデオ出力のない) 黒い画面が表示されることがあります。
  4. **3D設定:** 3Dの視聴品質を向上するために再生の設定を調節します。
    - **ブランクHDMI 2** (はい/いいえ) – HDMI 1 OUTで3Dビデオの出力時に、HDMI 2 OUTが2Dのブランクスクリーンを出力するように強制的に設定することができます。3Dムービー再生時にHDMI 1が3Dディスプレイに接続され、HDMI 2が同じ3Dディスプレイに非対応のレシーバー経由で接続されていると、レシーバーからオーディオが出力されないことがあります。この設定を「はい」に設定することで問題を解決することができます。

- **2D->3D変換** – 2Dから3Dへの変換（「Simulated 3D」とも呼ばれます）を実行する場合の3D方向の奥行き感覚を調節します。出荷時の設定値は8です。
  - **3D TVサイズ** – 3D HDTVの対角画面サイズを入力します。この設定は3Dモードのみに適用されます。リモコンの数字ボタンを使用してテレビ画面の対角サイズを入力し、**ENTER**ボタンで確定します。出荷時の設定は46インチです。
5. **TVアスペクト比**: プレーヤー出力画像の横縦比を設定します。
- **16:9ワイド** – ディスプレイが16:9のワイドスクリーンのときに選択します。イティブな横縦比で表示され、4:3のソースは水平方向に拡大表示されます。16:9のソースはそのままネ
  - **16:9ワイド/オート (推奨設定)** – ディスプレイが16:9のワイドスクリーンのときに選択します。ースはそのままネイティブな横縦比で表示され、4:3のソースは左右両端に黒いブロックが表示されて元の横縦比を維持します。

適切なテレビの横縦比を選択するには、本マニュアルの**表示の横縦比決定**(26ページ) を参照してください。

6. **TVシステム**: テレビの種類と一致するように出力ビデオシステムや放送フォーマット (PAL/NTSC) を選択します。
- **NTSC (出荷時設定)** – NTSCでエンコードされたディスクの再生時にはシステムの変換は実行されません。PALでエンコードされたコンテンツはNTSC出力に変換されます。また、24Hzのフレームレートでエンコードされたブルーレイディスクは、出力解像度で1080p24もソースダイレクトも設定されていない場合には60Hzに変換されます。
  - **PAL** – PALでエンコードされたディスクの再生時にはシステムの変換は実行されません。NTSCでエンコードされたコンテンツはPAL出力に変更されます。また、24Hzのフレームレートでエンコードされたブルーレイディスクは、出力解像度で1080p24もソースダイレクトも設定されていない場合には50Hzに変換されます。
  - **マルチシステム** – システムの変換は実行されません。出力ビデオのシステムはディスクがエンコードされたシステムとなります。24Hzのフレームレートでエンコードされたブルーレイディスクは、出力解像度で1080p24もソースダイレクトも設定されていない場合には60Hzに変換されます。NTSC、PAL両方のシステムに対応したテレビが必要となります。

#### 注

お持ちのテレビがNTSCとPALの両方に対応していない場合には、**マルチシステム**は選択しないでください。テレビがサポートしていないシステムでエンコードされたディスクをセットすると、テレビ画面に何も表示されなくなってしまうことがあります。このような場合には、**OPEN**ボタンを押してディスクを取り出し、**セットアップ**で正しく**TVシステム**を設定し直してください。

7. **出力解像度**: お使いのテレビのネイティブな解像度に一番適合する出力解像度を選択します。適切な出力解像度の選択方法に関する詳しい説明は、本マニュアルの**最適な出力解像度の選択**(25ページ) を参照してください。
8. **1080p24出力**: 1080p 24Hzの出力オプションを設定します。このオプションは1080p解像度のHDMI出力にのみ適用されます。劇場映画のブルーレイディスクの多くは、元のフィルムと同じく24Hzのフレームレートでエンコードされています。テレビが1080p 24Hzに適切に対応している場合には、**1080p24出力**を有効に設定することで、これらのディスクでより滑らかな動きを得ることができます。このオプションは、HDMI出力解像度が1080pの場合にのみ適用されます。設定可能なオプションは次の通りです:
- **オート (出荷時設定)** – 24Hzのフレームレートでエンコードされたビデオは、テレビが1080p24信号に対応しているとプレーヤーが認識した場合、1080p 24Hzで出力されます。
  - **強制する** – 24Hzのフレームレートでエンコードされたビデオは、テレビが1080p24信号に対応しているかどうかに関わらず1080p24Hzで出力されます。この設定はテレビが実際は1080p24に対応しているにも関わらず、プレーヤーに認識させることができない場合に有効です。テレビが1080p24対応でない場合、このオプションを選択すると何も表示されなくなってしまう。

- オフ – 24Hzのフレームレートでエンコードされたビデオは、60Hz (NTSC) か50Hz (PAL) に変更されません。
9. **DVD 24p変換:** DVDで24Hzのフレームレート変換を有効にします。**1080p24出力**が (オートまたは強制する)に設定された場合にのみこのオプションが有効になります。劇場映画から作られたDVDの多くは「3:2テレシネ」という方法で毎秒24フレームから60Hzのビデオ信号に変換されてエンコードされます。プレーヤーは60Hz ビデオ信号を毎秒24フレームのフィルムに逆変換し、1080P/24Hzとして出力することができます。このオプションを設定すると、テレビとDVDディスクの両方が上記の変換条件を満たしている場合には、より滑らかな動きを得ることができます。このオプションは、**1080p24出力**が有効となっている場合にのみ設定可能です。次のオプションから選択します:
- オン – 可能な場合にはDVDを24Hzのフレームレートに変換します。DVDがこの変換に適していない場合にはエラーが発生する場合があります。
  - オフ – DVDを24Hzのフレームレートに変換しません。
10. **4Kx2K出力:** 4Kx2K解像度オプションが設定できます。このオプションは4Kx2K解像度のHDMI出力にのみ適用されます。
- オート (出荷時設定) – ディスプレイが4K対応でコンテンツが4Kアップスケーリングに適している場合に4Kx2Kを出力します。プレーヤーは自動的にTVやプロジェクターの4K互換性を確認します。ディスプレイが4K互換性を持ち、再生中のコンテンツが24Hz(正確には23.976Hz)のフレームレートである場合、プレーヤーはHDMI出力端子から4Kx2Kビデオを送信します。条件を満たさない場合には、HDMIビデオはディスプレイが対応している1080pの解像度以下で送信されます。
  - 強制する – テレビやプロジェクターの対応状況や再生中のコンテンツが4Kのアップスケーリングに適しているかどうかとは無関係に、常に4Kx2Kビデオ形式で出力を行います。ディスプレイが4K対応でない場合には(ビデオ出力がない)ブラックスクリーン表示になることがあります。50Hzや60Hz (59.95Hz)のフレームレートのコンテンツの場合には、出力は25Hzや30Hz (29.97Hz)の4Kx2Kとなり、フレームレート変換のために最適なビデオ品質ではなくなってしまいます。
11. **HDMIオプション:** HDMI出力にのみ適用されるビデオオプションを設定します。選択すると、各種オプションを設定するサブメニューが表示されます。各オプションの詳細は**HDMIオプション** (ページ62) を参照してください。
12. **ディスプレイオプション:** オンスクリーン情報を表示するためのオプションを設定します。
- **字幕移動** – 字幕の表示位置を設定します。

**字幕移動**が0 (出荷時設定) に設定されると、ディスクに指定されている位置に字幕が表示されます。1から10の間の値が指定されると、字幕は上方向に移動します。また、-1から-10の間に設定されると、字幕は下方向に移動します。この機能は、2.35:1の「Constant Image Height」ビデオ投影システムを使用している場合に有効で、字幕が欠けて表示されないように、アクティブなビデオ領域内に上下移動させることができます。**SUBTITLE**ボタンを3秒間長押しすることによってもこの設定を行うことができます。
  - **OSD位置** – オンスクリーン表示 (OSD) の位置を設定します。

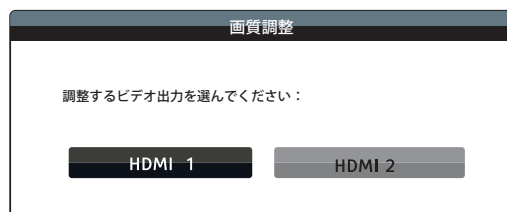
**OSD位置**の設定が0の場合、OSDはビデオ画面の上端と下端に表示されます。1から5の間の値に設定されると、OSDはビデオ画面の中央方向に移動します。

上記の字幕移動設定と同様に、**OSD位置**機能は2.35:1の「Constant Image Height」ビデオ投影システムを使用している場合に有効です。
  - **OSDモード** – (PAUSE、STOP、SKIP等) のような再生操作アイコン等のオンスクリーン表示 (OSD) 情報をどのくらいの時間テレビ画面に表示しておくかを選択します。
    - **標準** – ユーザーがキャンセルするまでOSD情報はテレビ画面に表示されます。
    - **最小** – OSD情報は数秒間だけテレビ画面に表示された後消去されます。前面表示窓には選択された表示情報が保持されます。
    - **残り時間** – OSD情報はユーザーがキャンセルするまでテレビ画面に表示されますが、経過時間ではなく残り時間が表示されます。
    - **オフ** – **INFO**ボタンが押されたとき以外はテレビ画面のOSD情報表示を行いません。通常はこの設定をお勧めします。

- **アングルマーク (オン/オフ)** – 複数アングルの映像が記録されているDVD、ブルーレイディスクでアングルのアイコン表示有無を切り替えます。アングルマークを非表示にすると映画視聴に集中できるようになります。
- **スクリーンセーバー** – スクリーンセーバー機能の使用/非使用を切り替えます。スクリーンセーバーは、プラズマやブラウン管ディスプレイ機器が焼き付く危険性を軽減するためのものです。
  - **オン (推奨設定)** – 3分程度何も操作しないと、黒い背景でOPPOのロゴが動き回るスクリーンセーバーが表示されます。画面の大半が休止状態となると同時に画面全体が均等に更新されるようになります。
  - **オフ** – スクリーンセーバーは使われません。テレビが焼き付く心配がない場合にのみこの設定を使用します。
  - **省エネ** – 何も操作しないと3分後にビデオ出力を中止します。プロジェクターや液晶テレビの多くは、スタンバイやスリープモードになり投影ランプやバックライトを消灯し、エネルギーの削減やライト寿命の延長に努めます。OPPOリモコンやプレーヤー前面のボタンのどれかを押し、スクリーンセーバーが終了してビデオ出力が再開されます。テレビがスタンバイやスリープモードになっている場合には、テレビのリモコンを操作して復帰させる必要がある場合があります。

## 画質調整

画質調整は**ビデオ設定**メニュー中の特別な部分で、映像品質を最適化するために各種映像制御パラメーターを微調整することができます。画質調整メニューを使用するには、リモコンの**SETUP**ボタンを押して**セットアップ**を立ち上げ、**ビデオ設定**> **画質調整**で調節するビデオ出力を選択します:



左右矢印でビデオ出力を選択し、**ENTER**ボタンで**画質調整**メニューを立ち上げます。選択されたビデオ出力によって**画質調整**メニューの内容は少し異なります。

		HDMI 1			
画像モード		Mode 1			
	輝度	0	-16		+16
	コントラスト	0	-16		+16
	色相	0	-16		+16
	彩度	0	-16		+16
	ノイズリダクション	0	0		+3
	Darbeeモード	オフ			
	Darbeeレベル	0%	0		120%
	デモモード	オフ			
	ディティール拡張	0	-16		+16
	輪郭拡張	0	-16		+16
	ビデオスムージング	0	0		+4
	デモモード	オフ			
終了					

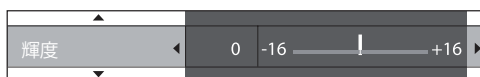
HDMI 1 出力の 画質調整メニュー

HDMI 2		
画像モード	Mode 1	
輝度	0	-16 _____   _____ +16
コントラスト	0	-16 _____   _____ +16
色相	0	-16 _____   _____ +16
彩度	0	-16 _____   _____ +16
シャープネス	0	0 _____   _____ +2
ノイズリダクション	0	0 _____   _____ +3
終了		

HDMI 2の画質調整メニュー

画質調整のパラメーターを変更するには、上下矢印ボタンを使用してパラメーターを選択し、さらに左右矢印ボタンで値を変更します。

映像制御パラメーターの調節を容易にするため、左右矢印ボタンを押すと画質調整のメニューは調節中のパラメーターのみを表示するようになります(ただし、画像モードは例外で、モード名をMode 1、2、3と切り替えると、その他のパラメーターは自動的に保存されている値に調節されます)。縮小メニューは画面下部に表示されます。



左右矢印ボタンで選択したパラメーターの調節を続けることができます。他のパラメーターを選択するには、上下矢印ボタンを使用します。また、ENTERボタンを押すと画質調整メインメニューに戻ります。

画質調整メニューを終了してセットアップに戻るには、このメニューで終了を選択するかRETURNボタンを押します。

HDMI 1、2ともに、次の映像調節制御を行うことができます：

1. **画像モード**: ユーザーが保存したカスタムな映像モードを選択します。BDP-105DJPでは最大3つのカスタムモードが保存できます。左右矢印ボタンでモードを切り替えると、すべてのパラメーターは保存された値に自動的に調節されます。このメニューで変更されたパラメーターの値は、画質調整画面を終了したときか別の画像モードに切り替えたときに自動的に保存されます。
2. **輝度**: ビデオ出力の明るさ (黒レベル) を調節します。
3. **コントラスト**: ビデオ出力のコントラスト (白レベル) を調節します。

#### 注

高品質のビデオ出力には、適切な明るさとコントラストの設定が必要です。黒および白のレベルが適正ではないと、映像が色落ちしたようになり暗いシーンで細部が不明瞭になることがあります。テレビでもブライトネス (黒レベル) やコントラスト (白レベル) の制御が可能ですが、最適な結果を得るにはプレーヤーとテレビの両方の調節が必要になる場合があります。Spears & Munsil™社のHigh Definition Benchmark Blu-ray EditionやDigital Video Essentials HD Basicsのような較正用のディスクを調整用の補助として使うことをお勧めします。まず、テレビの映像が最適になるように調整してから、さらに良い結果が得られるようにプレーヤーの設定を調節するようにしてください。

4. **色相**: ビデオ出力の色相 (色合い) を調節します。
5. **彩度**: ビデオ出力の彩度 (色明度レベル、色の濃さ) を調節します。
6. **ノイズリダクション**: プレーヤーがビデオノイズ軽減処理を適用するかどうかを選択することができます。出荷時設定はレベル0なのでノイズ軽減は実行されません。

レベルを上げると、プレーヤーはビデオノイズ軽減を適用して画像品質を調節します。レベルを上げるほど強力なノイズ軽減機能が使われるようになります。過度のノイズ軽減は細部情報の喪失となる点に注意してください。エンコードや圧縮に問題があり、明らかに人工的なノイズが見られる場合にのみノイズ軽減機能を使うことをお勧めします。ノイズ軽減はビデオデコーダーで処理されるため、設定はHDMI 1とHDMI 2出力の両方で有効となります。このため、ここでの設定はHDMI 2にも反映されます。

以下の画質調節制御はHDMI 1のビデオ出力でのみ設定が可能です:

7. **Darbeeモード**: 適切なDarbee Visual Presenceの表示モードを選択します。ビデオのコンテンツに応じて、次のオプションが設定可能です:
  - **Hi-Def** – このモードは、Blu-rayやその他の高画質ビデオソース(720p、1080i、1080p)に対して有効で、元のビデオの概要はそのままに、驚異的な明瞭度や深みを付け加え、よりリアルな優美で洗練された印象をビデオに与えます。
  - **Gaming** – このモードは、ビデオゲームやムービーやその他のクリーンなビデオソース用のコンピューター生成イメージ(Computer-Generated Imagery、CGI)に対して有効で、ビデオゲームのファンに有用な強めの深み、分離度、明瞭度を付加します。このモードは、プレーヤーのHDMI入力経由でゲームコンソールを接続しているときに使用をお勧めします。
  - **Full Pop** – このモードは低解像度、低画質のビデオソースに有効で、最大強度の深みとリアルさの感覚を付加しますが、テキスト表示で人工的なノイズが見られる場合があります。
  - **オフ** (出荷時設定) – Darbee Visual Presenceは完全にバイパスされ入力ビデオは処理されません。このモードでは、**Darbeeレベル**や**デモモード** (Darbee)は調節できません。
8. **Darbeeレベル**: お好みに応じてお使いのテレビと視聴条件に最適となるようDarbee Visual Presence処理レベルの調節を行います。リモコンの**左右矢印**ボタンでレベルの増減を行います。レベルは0から120%の間で1%間隔の調節が可能です。レベル0は処理のバイパスを表し、**Darbeeモード**を「**オフ**」に設定することと同等です。
9. **デモモード(Darbee Visual Presence)**: Darbee Visual Presenceのビデオ処理技術をデモするための特別な分割画面モードを起動しますが、**Darbeeモード**と**Darbeeレベル**の画像調節の設定に利用することもできます。通常のムービー視聴には使わないようにしてください。設定可能なオプションは以下の通りです。
  - **スプリットスクリーン** – ビデオ画面は2分割され、画面左側はDarbee Visual Presenceビデオ処理あり、右側はなしとなります。
  - **スワイプスクリーン** – このモードはスプリットスクリーンモードと似ていますが、帯状の表示が左から右に移動して、ビデオ処理されている部分が分かるようになっています。
  - **オフ** (出荷時設定) – 通常の視聴モードです。

**注**

- リモコンの**DARBEE**ボタンは**Darbee調整メニュー**を直接起動することができます。このメニューでは**上下矢印**ボタンで**Darbeeモード**を選択して**左右矢印**ボタンで**Darbeeレベル**を調節します。さらに、色ボタン(**RED**、**GREEN**、**BLUE**)でDarbee **デモモード**が切り替えられます。

10. **ディティール拡張**: ビデオ出力のシャープネスレベル(General Sharpeningとも呼ばれます)を設定します。エンハンスレベルは-16から+16の間で設定できますが、出荷時の設定はエンハンスをしない0となっています。負の設定値はシャープネスを強調しすぎたビデオの効果を軽減するために使われますが、画質がソフトになってしまうことがあります。正の値に設定すると細部が強調され、高いレベルに設定するほどビデオの細部がはっきりしますが、シャープネスレベルを高く設定しすぎると、物体の周りに白線のエッチング効果が現れることがあります。**ディティール拡張**と**輪郭拡張**を併用して最適な結果を得ることができます。
11. **輪郭拡張**: ビデオ中の物体の輪郭線のシャープネスを設定します(Edge-Qualified Sharpeningとも呼ばれます)。エンハンスレベルは-16から+16の間で設定できますが、出荷時の設定は輪郭エンハンスをしない0となっています。負のレベルは強調されすぎた輪郭を軽減したり打ち消したりします。正のレベルは輪郭を強調します。**輪郭拡張**と**ディティール拡張**を併用して最適な結果を得ることができます。



注

- **ディティール拡張**と**輪郭拡張**は類似した結果をもたらしますがわずかな差があります。ソースが「クリーン」でノイズがない場合には**ディティール拡張**が最適ですが、ソースがそれほどクリーンでない場合には、ノイズを目立たせずにシャープネスを改善する**輪郭拡張**が効果的です。
- **ディティール拡張**と**輪郭拡張**の方式は加算的效果を持ちますので、両方のシャープ化方式を合わせた結果となります。一例として、一般的なシャープ化方式を使って画像全体の細部を強調した結果、輪郭が強調されすぎたような場合に、負のエッジ補正シャープネスを適用して輪郭の過度の強調を軽減するようなケースがあります。ノイズの多い画像に一般的なシャープネスが適用されると、不快なレベルにまでノイズが増えることがあります。このような場合、ノイズのレベルを上げずに物体の輪郭を強調する正のエッジ補正シャープネスを適用するようにします。
- ソースのコンテンツが適切に制作されている場合には、これらの制御は0に設定することをお勧めします。

12. **ビデオスムージング**: 「階段効果」と呼ばれる斜め線に見られる階段状の表示のような、スクリーン上の画像の粗い輪郭を除去します。VRS ClearViewビデオプロセッサーにより提供されるこのスムージング技術は、画像全体をソフトにすることなく高解像度画像効果を得ることができます。ビデオのスムージングレベルは0と+4の間で設定が可能で、出荷時設定はビデオスムージングを行わない0となっています。
13. **デモモード(VRS ClearView)**: VRS ClearViewのビデオ処理技術をデモするための特別な分割画面モードを起動しますが、**ディティール拡張**、**輪郭拡張**、**ビデオスムージング**、**ノイズリダクション**の画像調節の設定に利用することもできます。通常のムービー視聴には使わないようにしてください。設定可能なオプションは以下の通りです:
  - **オン** – ビデオ画面は2分割され、画面左側はVRS Clear Viewビデオ処理あり、右側はなしとなります。
  - **オフ** (出荷時設定) – 通常の視聴モードです。

以下の画質調節制御はHDMI 2ビデオ出力でのみ設定が可能です。

14. **シャープネス**: ビデオ出力のシャープネスレベルを設定します。**シャープネス**は、画像のシャープネスを制御するビデオ処理機能ですが、同時に望ましくない人工ノイズを発生することがあります。HDMI 2出力ではシャープネスのレベルは0と+2の間で設定が可能ですが、出荷時設定は0となります。レベルが高くなるほど、ビデオの細部がシャープに表示されるようになりますが、シャープネスレベルを上げすぎると、物体の周りに白線やハロー状の効果が現れてしまうことがあります。

## HDMIオプション

HDMIオプションはビデオ設定メニューのサブメニューで、HDMI出力固有のビデオの設定を行うことができます。このサブメニューを立ち上げるには、ビデオ設定メニューでHDMIオプションを選択します。RETURNボタンか左矢印キーを押すとこのサブメニューを終了します。次のHDMIオプションが設定可能です。

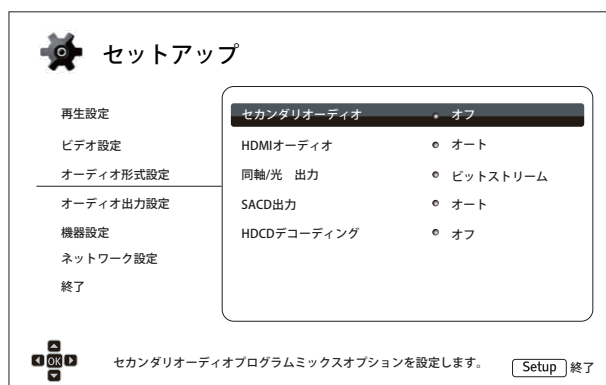
1. **Color Space (HDMI 1)** – HDMI 1出力の色空間を選択します。設定可能なオプションは次の通りです：
  - **オート (推奨)** – プレーヤーが表示デバイスをチェックして自動的に使用する色空間を決定します。表示デバイスがYCbCr 4:4:4に対応している場合には、余計な色空間変換が不要になるよう、YCbCr 4:4:4が使用されます。
  - **RGB Video Level** – HDMI出力は、ビデオ表示に適切なRGBの色空間と通常の信号範囲を使用します。
  - **RGB PC Level** – HDMIはRGB色空間を使用して信号範囲を拡大します。拡大信号範囲はパソコン(PC) の表示に適しています。テレビの中にはPCモニターとしての使用を前提としたものがあり、DVI入力を選択されたときには拡張RGB範囲の信号に対応しています。このようなディスプレイでは、ビデオ信号が通常のRGB範囲の場合には白黒のコントラストが下げられてしまいます。プレーヤーでRGB PC Levelの出力を使用するよう設定すれば、適切なコントラストを使うようにすることができます。
  - **YCbCr 4:4:4** – HDMI出力がYCbCr 4:4:4の色空間を使用します。
  - **YCbCr 4:2:2** – HDMI出力がYCbCr 4:2:2の色空間を使用します。ディスクでエンコードされている色空間に最も近い設定です。(すべてのディスクはYCbCr 4:2:0色空間でエンコードされ、ビデオデコーダーがYCbCr 4:2:2に戻します。)
2. **Color Space (HDMI 2)** – HDMI 2出力の色空間を選択します。設定可能なオプションはColor Space (HDMI 1)と同じです。
3. **Deep Color (HDMI 1)** – HDMI 1出力にDeep Colorモードを選択します。Deep Colorは、HDMI v1.3以降の入力に対応する一部のテレビやプロジェクターのためのオプションです。ビデオ映像の各ピクセルは、通常 (R、G、BあるいはY、Cb、Crのチャンネルごとに8ビットの) 24ビットデータを使用して伝送されますが、Deep Colorに対応している場合には、ビデオ映像の各ピクセルは30ビット (各チャンネル10ビット) あるいは36ビット (各チャンネル12ビット) データを使用した伝送が可能になります。ビット深度の拡大で色遷移がよりスムーズになりグラデーションもきれいに表現されます。
  - **36 Bits** – ピクセルあたり36ビットのDeep Colorモードを使用。
  - **30 Bits (Dithered)** – ディザリング技術を併用したピクセルあたり30ビットのDeep Colorモードを使用。
  - **30 Bits** – ピクセルあたり30ビットのDeep Colorモードを使用。
  - **Off (Dithered)** – Deep Colorを使用せずにディザリング技術のみ使用。
  - **オフ (出荷時設定)** – Deep Colorを使用しない。
4. **Deep Color (HDMI 2)** – HDMI 2出力にDeep Colorモードを選択します。設定可能なオプションはHDMI Deep Color (HDMI 1) と同じです。
5. **デインターレース** – DVDやBlu-rayディスクのインターレースビデオをプログレッシブ出力変換する際にプレーヤーが使用するアルゴリズムを選択します。適切なデインターレースモードを選択することによって、デインターレースに起因するノイズを発生させずに出力ビデオを元のコンテンツと一致させることができます。選択可能なオプションは以下の通りです：
  - **オート (出荷時設定)** – ビデオの種類に応じてデインターレースのモードを自動選択します。各種の信号種類に応じて最適な処理ができるようにプレーヤーが設定されるため、この設定をお勧めします。
  - **フィルム** – フィルム用のカメラで撮影されたビデオをデインターレースします。このモードを使用すると、フィルムモード検出精度が改善する場合があります。
  - **ビデオ** – ビデオカメラで撮影されたビデオをデインターレースします。フィルム用のカメラで撮影されていないことが確実な場合のみ使用するようになっています。

### 注

- Deep Color機能はオプションであるため対応していないテレビがあります。この機能に対応していないテレビに対してDeep Colorを設定すると、効果がなかったりビデオが映らなくなったりすることがあります。
- **ディザリング**とは限られた色階調での映像の色深度を改善するための技術です。
- 現時点ではDeep Colorでエンコードされているディスクはありません。このため、Deep Colorを有効に設定しても色再現が劇的に向上することはありませんが、ビデオ処理や画像調整の結果を最大限忠実に再生するために有用です。

## オーディオ形式設定

セットアップのオーディオ形式設定の部分では、オーディオ出力フォーマットの選択を設定することができます。



- セカンダリオーディオ:** 副音声プログラムのミキシングオプションを設定します。ブルーレイディスクの中には、監督のコメントのような副音声やビデオプログラムを収録したものがあります。また、ブルーレイディスクにはメニューを選択すると特別な音響効果を使うものもあります。この**セットアップ**の項目では、副音声プログラムやメニューの音響を主音声にミックスするかどうかを選択します。
  - オン** – 副音声プログラムやメニュー音響が主音声にミックスされます。この結果、通常は主音声の音量が少し下げられます。
  - オフ** (出荷時設定) – 副音声のオーディオプログラムやメニュー効果音が主音声のオーディオにミックス出力されて聞こえることがないようにします。主音声のオーディオで最高品質の音質を保持することができるこの設定をお勧めします。
- HDMIオーディオ:** HDMIポートのオーディオ出力フォーマットを選択します。次のオプションが選択可能です。
  - オート** (出荷時設定) – プレーヤーがHDMI出力先のデバイスをチェックして自動的に使用するオーディオのフォーマットを決定します。
  - リニアPCM** – HDMI経由のデジタルオーディオ出力は、マルチチャンネルのリニアPCMフォーマットとなります。このオプションが選択されると、圧縮されたオーディオビットストリームはプレーヤーによってデコードされます。高度なオーディオのデコード機能を持たないテレビやレシーバーにHDMI出力を直接接続している時にこの設定をお勧めします。
  - ビットストリーム** – HDMI経由のデジタルオーディオ出力はビットストリームフォーマットになります。Dolby TrueHDやDTS-HD Master Audio等の高度なオーディオデコーディングに対応したA/VレシーバーやプロセッサにHDMI出力が接続されている場合にこのオプションをお勧めします。
  - オフ** – HDMI経由でのデジタルオーディオ信号の出力をしません。

### 注

HDMIを使用してオーディオ出力をHDMI A/Vレシーバーやオーディオプロセッサに接続している場合には、高解像度のオーディオのコンテンツ (DVDオーディオ、SACD、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio) を再生するときに720p以上のHDMI出力解像度を選択することが重要となります。HDMIの仕様では、オーディオが使用することができるバンド幅はビデオが使用する全体のバンド幅に比例しますので、480p/576pの解像度でHDMIの仕様は (192kHzまでの) 高サンプルレートを使用すると2チャンネルのオーディオ、(48kHzまでの) 標準サンプルレートでは8チャンネルのオーディオしかサポートしていません。このため、高解像度オーディオのコンテンツを480p/576pの解像度で再生すると、オーディオの解像度が下がったり、オーディオチャンネル数が不足したり、オーディオ/ビデオ出力が行えない場合があります。

720p以上の高解像度出力を選択することによって、すべての高サンプルレートのオーディオチャンネルに十分な帯域を確保することができます。

3. **同軸/光 出力:** オーディオフォーマットとサンプルレート上限を同軸/光学 (S/PDIF) デジタル出力用に設定します。サンプルレート上限はプレーヤーがオーディオのダウンサンプルを実行するかどうかを決定します (プレーヤーは、オーディオをより高いサンプルレートにアップサンプルしません)。
- **48k リニアPCM** – 強制的にダウンミックスされた2チャンネルのリニアPCM (LPCM) デジタルオーディオフォーマットを使用して最大サンプルレートを48kHzへ設定します。この設定はほとんどのレシーバー/アンプで対応しています。
  - **96k リニアPCM** – 強制的にダウンミックスされた2チャンネルのリニアPCM (LPCM) デジタルオーディオフォーマットを使用して最大サンプルレートを96kHzへ設定します。オーディオ品質が向上しますが、レシーバー/アンプの対応を確認してください。
  - **192k リニアPCM** – 強制的にダウンミックスされた2チャンネルのリニアPCM (LPCM) デジタルオーディオフォーマットを使用して最大サンプルレートを192kHzへ設定します。オーディオ品質が向上しますが、事前にレシーバー/アンプが対応しているかを確認してください。
  - **ビットストリーム (出荷時設定)** – オーディオ信号を圧縮ビットストリームフォーマットでレシーバー/アンプに伝送します。お使いのレシーバー/アンプにDolby DigitalやDTSのデコード機能がある場合は、この設定を選択してください。

**注**

著作権による制約とバンド幅の限界により、SACDのオーディオ信号は同軸/光デジタル出力では伝送できません。なお、DVDオーディオやブルーレイディスクの高解像度オーディオ信号は低解像度で伝送されます。詳細は19ページを参照してください。

4. **SACD出力:** SACD再生の出力フォーマットが選択できます。
- **PCM** – SACDデータは、マルチチャンネルの高解像度PCMデータに変換され、変換されたPCMデータはHDMI経由か、アナログオーディオ出力ポート用の内蔵DAC (デジタル-アナログ変換器) 経由で出力されます。お使いのレシーバーがSACD再生用にHDMI v1.1に対応している場合には、このオプションを設定してください。また、DSD-PCM変換音質の方がお好みの場合にもこのオプションを選択してください。
  - **DSD** – SACD Direct Stream Digital (DSD) のデータがHDMI経由で変換されずに出力されます。オーディオ出力は、DSDデータが内蔵DACにより直接アナログ信号に変換されます。お使いのレシーバーがHDMI経由のDSDをサポートするHDMI v1.2aに対応している場合や、DSDから直接アナログに変換した音質がお好みの場合にこのオプションを選択してください。
  - **オート (出荷時設定):** SACD再生で使用するオーディオのフォーマット (DSDまたはPCM)を自動決定するために、プレーヤーがHDMI出力に接続されている機器をチェックします。
5. **HDCDデコーディング:** HDCD (High Definition Compatible Digital) ディスクのオーディオデコードオプションを設定します。
- **オン** – HDCDはプレーヤーでデコードされます。より大きなダイナミックレンジと改善されたオーディオ解像度をお楽しみください。
  - **オフ (出荷時設定)** – HDCDが通常のCDとして扱われます。プレーヤーがHDCD対応のA/Vレシーバーとデジタルの出力リンク (同軸、光、HDMI) で接続されており、A/VレシーバーがHDCDのデコードを行う場合に有効です。

**注**

レシーバーにHDCDデコード機能がある場合、HDCDのデコードが2回実行されないように、BDP-105DJPの**HDCDデコーディングをオフ**に設定するようお勧めします。HDCDが2度デコードされると、ポップノイズやクラックルノイズが発生する場合があります。

## オーディオ信号参照表

Blu-rayディスクには、Dolby TrueHDやDTS-HD Master Audioといったハイレゾのフォーマットをはじめとして多種のオーディオ信号フォーマットを含むものがあります。また、Blu-rayディスクには副音声のオーディオプログラムやメニューのクリック音といった多種のオーディオクリップも含まれています。プレーヤーの**オーディオ形式設定**メニューでは、お好みに応じてオーディオ出力を設定することができます。次の表は、設定に応じてどのようなオーディオ信号が出力されるかを示したものです。

### セカンダリオーディオがオフに設定されているとき

出力ポート ソース フォーマット	HDMI 出力		同軸/光出力		アナログ マルチチャンネル 出力	
	設定	ビットストリーム	リニアPCM	ビットストリーム		リニアPCM
LPCM 2ch		LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	2ch
LPCM 5.1ch		LPCM 5.1ch	LPCM 5.1ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	5.1ch
LPCM 7.1ch		LPCM 7.1ch	LPCM 7.1ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	7.1ch
Dolby Digital		Dolby Digital	LPCM 5.1ch	Dolby Digital	LPCM 2ch	5.1ch
Dolby Digital Plus		Dolby Digital Plus	7.1ch までの LPCM	Dolby Digital	LPCM 2ch	7.1ch まで
Dolby TrueHD		Dolby TrueHD	192kHz 24-bit 7.1ch までの LPCM	Dolby Digital	LPCM 2ch	7.1ch まで
DTS		DTS	7.1ch までの LPCM	DTS	LPCM 2ch	7.1ch まで
DTS-HD High Resolution		DTS-HD High Resolution	7.1ch までの LPCM	DTS (core)	LPCM 2ch	7.1ch まで
DTS-HD Master Audio		DTS-HD Master Audio	96kHz 24-bit 7.1ch または 192kHz 24-bit 2ch までの LPCM	DTS (core)	LPCM 2ch	7.1ch まで

### セカンダリオーディオがオンに設定されて、副音声トラックやメニューで選択できる音声が収録されたディスクがセットされたとき

出力ポート ソース フォーマット	HDMI 出力		同軸/光出力		アナログ マルチチャンネル 出力	
	設定	ビットストリーム	リニアPCM	ビットストリーム		リニアPCM
LPCM 2ch		LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	2ch
LPCM 5.1ch		LPCM 5.1ch	LPCM 5.1ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	5.1ch
LPCM 7.1ch		LPCM 7.1ch	LPCM 7.1ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	7.1ch
Dolby Digital		Dolby Digital*	5.1ch までの LPCM	Dolby Digital*	LPCM 2ch	5.1ch
Dolby Digital Plus		Dolby Digital*	7.1ch までの LPCM	Dolby Digital*	LPCM 2ch	7.1ch まで
Dolby TrueHD		Dolby Digital*	192kHz 24-bit 7.1ch までの LPCM	Dolby Digital*	LPCM 2ch	7.1ch まで
DTS		DTS*	7.1ch までの LPCM	DTS*	LPCM 2ch	7.1ch まで
DTS-HD High Resolution		DTS*	7.1ch までの LPCM	DTS*	LPCM 2ch	7.1ch まで
DTS-HD Master Audio		DTS*	7.1ch までの LPCM	DTS*	LPCM 2ch	7.1ch まで

注: すべてのオーディオ出力信号は主音声、副音声、メニュー効果音とミックスされます。「Dolby Digital\*」と「DTS\*」は、ミックスされたオーディオが元のビットストリームオーディオに再エンコードされることを表します。

## 推奨のオーディオ形式オプション

お使いのオーディオ/ビデオ接続方法に応じて、BDP-105DJPのオーディオ形式のオプションの調節が必要になる場合があります。本マニュアルの前の部分に説明のあるビデオとオーディオ接続方法やこの後のオーディオ設定指針を参照してください。

### テレビへの直接オーディオ接続

プレーヤーがHDMI経由で直接 (13ページ)、またはDVIとアナログL/R オーディオケーブル経由 (15ページ) でテレビに接続されている場合には、次のオーディオ形式オプションの使用をお勧めします。

- セカンダリオーディオ:           オン
- HDMIオーディオ:               リニアPCM
- SACD出力:                       PCM
- HDCDデコーディング:           オン
- 同軸/光 出力:                   (任意 - 非使用)

### HDMI経由でのレシーバーへのマルチチャンネルのデジタルオーディオ

プレーヤーがHDMI入力を持つA/Vレシーバーやプロセッサに接続されている場合 (11ページ)、使用されているすべてのオーディオフォーマットを純粋なデジタルの形でレシーバーに伝送することができます。HDMI経由で最高音質のオーディオを伝送するには、プレーヤーの**オーディオ形式**の設定メニューで次のオプションを設定します。

- お使いのレシーバーが、Dolby TrueHD and DTS-HD Master Audioのような高解像度のロスレスオーディオフォーマットのデコード機能を有するHDMI v1.3に対応している場合、次のオーディオ形式オプションを使用します。
  - セカンダリオーディオ:           オフ (副音声が必要な場合のみオフ)
  - HDMIオーディオ:               ビットストリーム
  - SACD出力:                       PCM (レシーバーがHDMI経由のDSD対応時はDSD)
  - HDCDデコーディング:           オン (レシーバーがHDCDをデコードできる場合にはオフ)
  - 同軸/光 出力:                   (任意 - 非使用)
- お使いのレシーバーが HDMI v1.1/1.2のマルチチャンネルPCMオーディオ対応で、Dolby TrueHD and DTS-HD Master Audioのような高解像度のロスレスオーディオフォーマットには未対応の場合、次のオーディオ形式オプションを使用します。
  - セカンダリオーディオ:           オフ (副音声が必要な場合のみオン)
  - HDMIオーディオ:               リニアPCM
  - SACD出力:                       PCM (レシーバーがHDMI経由のDSD対応時はDSD)
  - HDCDデコーディング:           オン (レシーバーがHDCDをデコードできる場合にはオフ)
  - 同軸/光 出力:                   (任意 - 非使用)

### レシーバーへのマルチチャンネルアナログオーディオ

プレーヤーが、8本か6本のRCAケーブルで7.1chや5.1chのアナログオーディオジャックからA/Vレシーバーに接続されているとき(18ページ)、お持ちのA/Vレシーバーとサラウンドシステムを使ってすべての対応オーディオ形式を再生することができます。 次のオーディオ形式設定オプションを推奨します。

- セカンダリオーディオ:           オフ (副音声が必要な場合のみオフ)
- HDMIオーディオ:               オフ
- SACD出力:                       PCMまたはDSD(お好みに応じて)
- HDCDデコーディング:           オン
- 同軸/光 出力:                   (任意 - 非使用)

オーディオ出力設定メニューのスピーカー設定で:

- **ダウンミックスを7.1Chか5.1Chに設定します。**
- **スピーカーのサイズとサブウーファーを実際に使用しているオーディオのハードウェアに対応して設定します (71ページ)。**
- **お使いのレシーバーのマルチチャンネルのアナログ入力を有効にするか選択します。**

**レシーバーへの同軸、光デジタルオーディオ**

同軸/光入力でプレーヤーがA/Vレシーバーに接続されて (19ページ)、A/VレシーバーがDolby DigitalとDTSに対応している場合、次のオーディオフォーマット設定オプションを推奨します:

- **セカンダリオーディオ:**           **オフ** (副音声が必要な場合のみオン)
- **HDMIオーディオ:**               **オフ**
- **SACD出力:**                       **(任意 - 光/同軸出力ではSACDは利用不可)**
- **HDCDデコーディング:**       **オン** (レシーバーがHDCDをデコードできる場合にはオフ)
- **同軸/光出力:**                   **ビットストリーム**

**レシーバーへのステレオアナログオーディオ**

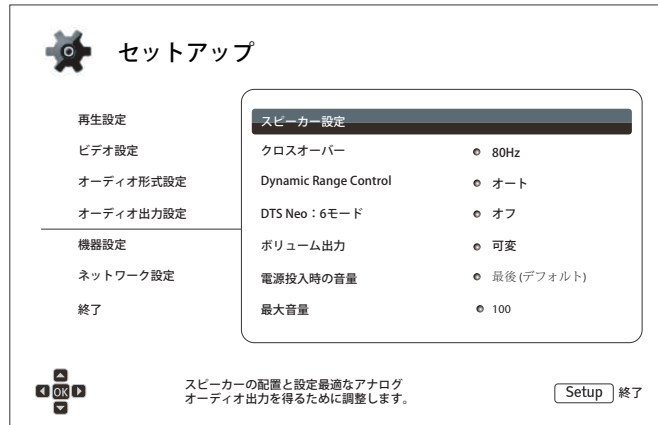
主にステレオのコンテンツを聴くか、レシーバーがステレオのオーディオ接続にしか対応していない場合、RCAケーブルを使用してお使いのレシーバーと専用STEREO AUDIO OUTを接続するか、XLR3ケーブルを使ってプレーヤーのBALANCED STEREO AUDIO OUTとお使いのレシーバーを接続してください (16ページ)。次のオーディオ形式オプションをお勧めします:

- **セカンダリオーディオ:**           **オフ** (副音声が必要な場合のみオン)
- **HDMIオーディオ:**               **オフ**
- **SACD出力:**                       **PCMまたはDSD (お好みに応じて)**
- **HDCDデコーディング:**       **オン**
- **同軸/光出力:**                   **(任意 - 192k リニアPCMに設定することで最善のアナログオーディオ品質を得ることができる場合があります。)**



## オーディオ出力設定

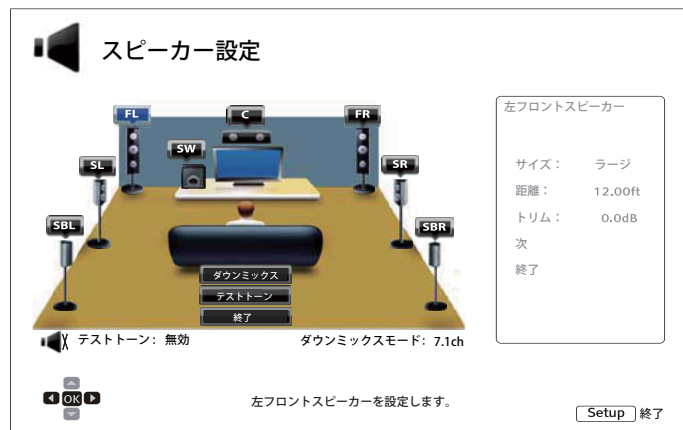
Setup (設定)メニューのAudio Processing (オーディオ出力設定)部分で、プレーヤーがオーディオ信号を出力する前に実行する処理を設定することができます。ここでの設定は、以下の「Note(注)」に説明があるものを除きアナログのオーディオ出力にのみ有効となります。



## スピーカー設定

スピーカー設定メニューでは、ダウンミックスのモード、スピーカー数、スピーカー間の距離、サイズやトリムレベル等のスピーカーの設定を実行します。スピーカー設定メニューでは、スピーカーの配置がイラスト表示されますので、スピーカーを適切に設定することができます。

このメニューを立ち上げると、カーソルはフロント左のスピーカーに移動しますが、**左右矢印**ボタンでカーソルを移動することができます。**右矢印**ボタンではカーソルが時計回りに移動し、**左矢印**ボタンでは反時計回りに移動します。カーソルが**ダウンミックス**、**テストトーン**、**終了**の位置に来たら、**上下矢印**ボタンでこれらのオプション中でカーソルを移動させることができます。



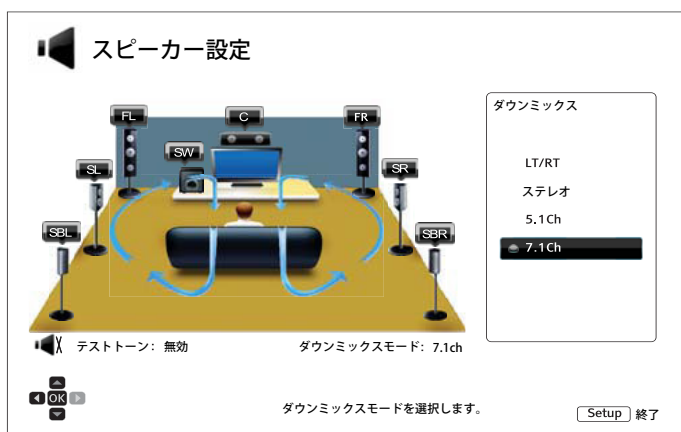
### 注

- ダイナミックレンジ制御(DRC)とA/V Sync (同期)はHDMI、同軸、光出力にも影響を及ぼします。
- Speaker Configuration(スピーカー設定)は、主にマルチチャンネルのアナログオーディオ出力に適用されるものですが、Coaxial/Optical Output (同軸/光出力)がリニアPCMに設定されている場合には、マルチチャンネルがダウンミックスされたステレオ音声信号となり、マルチチャンネルのアナログオーディオ出力に送信されます。その結果、同軸や光出力からのリニアPCM信号はSpeaker Configuration (スピーカー設定)での設定の影響を受けるようになります。
- HDMIはSpeaker Configuration (スピーカー設定)での設定の影響を受けませんし、Coaxial/Optical Output (同軸/光出力)がBitstream (ビットストリーム)に設定されている場合には同軸と光出力も影響を受けません。

## ダウンミックスモード

ダウンミックスはマルチチャンネル オーディオのチャンネル数を減らすための手順で、5.1chのソースをステレオに変換したり、7.1chのソースを5.1chに変換したりするような例が挙げられます。ダウンミックスによって、プレーヤーからのオーディオ出力をホームシアターで使われているスピーカーの数に適切に合わせるすることができます。

ダウンミックスの現在の設定は、スピーカー配置のイラスト画面の右下部分に表示されます。オーディオのダウンミックス設定を変更するには、カーソルを**ダウンミックス**オプションに移動して**ENTER**ボタンを押します。次のダウンミックスモードが設定可能です：



- LT/RT** – 左合計/右合計を表し、センターとサラウンドチャンネルは、LT/RT配置に従ってフロントの2つのチャンネルにミックスされます。Dolby Pro Logic対応のレシーバーは、2チャンネルのオーディオをサラウンドにデコードします。
- ステレオ** – このモードでは、マルチチャンネルオーディオは2チャンネルのステレオにダウンミックスされます。元がステレオのコンテンツは出力で何も変更されません。元がマルチチャンネルのコンテンツであれば、サラウンドとセンターのチャンネルは左右のフロントチャンネルにミックスされます。テレビセットやステレオのレシーバー/アンプを使用している場合に推奨されるオプションです。
- 5.1Ch** – このモードでは5.1chにデコードされたオーディオが出力されますが、実際の出力チャンネル数はディスクにより異なります。ソースコンテンツのチャンネル数の方が多い場合には、サラウンドのリアチャンネルはサラウンドチャンネルにミックスされます。
- 7.1Ch** – このモードでは7.1chにデコードされたオーディオが出力されますが、実際の出力チャンネル数はディスクにより異なります。6.1chのコンテンツでは、サラウンドの左と右のリアスピーカーには両方ともサラウンドのリアオーディオチャンネルが出力されます。

## テストトーン

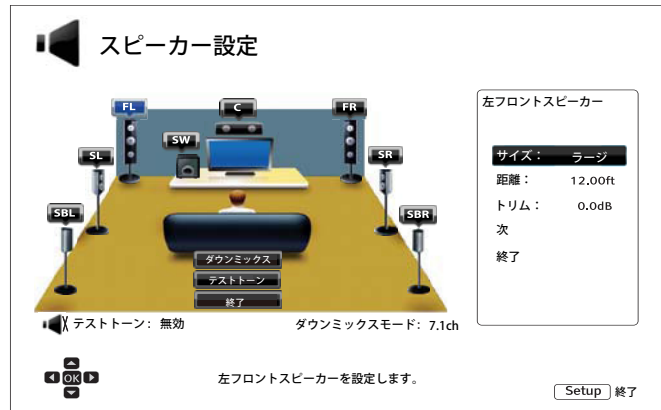
テスト音はオーディオのスピーカーシステムをテストして結線に問題がないかを確認するための人工音です。出荷時には**テストトーンは無効**に設定されていますが、設定状態は画面左下の部分に表示されます。

テストを開始するには、**矢印**ボタンを使って**Test Tone**(テストトーン)オプションをハイライト表示してテストトーンの状態を有効に変更します。さらに、**矢印**ボタンでスピーカーを選択するとテスト音が聞こえるようになります。テストを終了するには、**矢印**ボタンで**Test Tone**(テストトーン)オプションをハイライト表示し、**Enter**ボタンを押して状態を無効に戻します。

テストトーンはマルチチャンネルのアナログオーディオ出力でのみ再生可能で、チャンネルを識別するためにのみ使用するものです。スピーカーの総合的な設定には、プロ用のオーディオ較正ディスクに収録されているような専用のテストトーンを使用するようにしてください。

## スピーカー設定

左右矢印ボタンでスピーカーをハイライト表示にしENTERボタンを押して、各スピーカーのサイズ、距離、トリムレベルを設定することができます。画面右側の**スピーカー設定**メニューが設定可能な状態になります。**スピーカー設定**で上下矢印ボタンを使ってパラメーターを選択し、ENTERボタンを押して変更します。**スピーカー設定**メニューを終了して**スピーカー設定**のイラストに戻るには、**左矢印**ボタンを押すか、**終了**オプションを選択します。次オプションを選択すると、続けて次のスピーカーを設定することができます。



次のスピーカーのパラメーターが設定可能です。

1. **サイズ:** 以下のスピーカーサイズのパラメーターでスピーカーの低音のフィルタリングを制御します。
  - **ラージ** - オーディオコンテンツのすべてが伝送されます。
  - **スモール** - 低周波数成分を除いたすべてのオーディオコンテンツがスピーカーに伝送されます。低周波成分のフィルタリングはひずみの予防のためです。サブウーファーがある場合には、低周波数成分はサブウーファーに伝送されますが、ない場合には破棄されます。低周波数の上限は、**セットアップ**の**クロスオーバー周波数**で選択します (73ページ)。
  - **オフ** - 対応する場所にスピーカーが存在しないときに指定します。存在しないスピーカーへのオーディオは、他のスピーカーに振り分けられますが、振り分けが不可能な場合には破棄されます。
  - **オン (for Subwoofer only)** - サブウーファーがある場合に指定します。

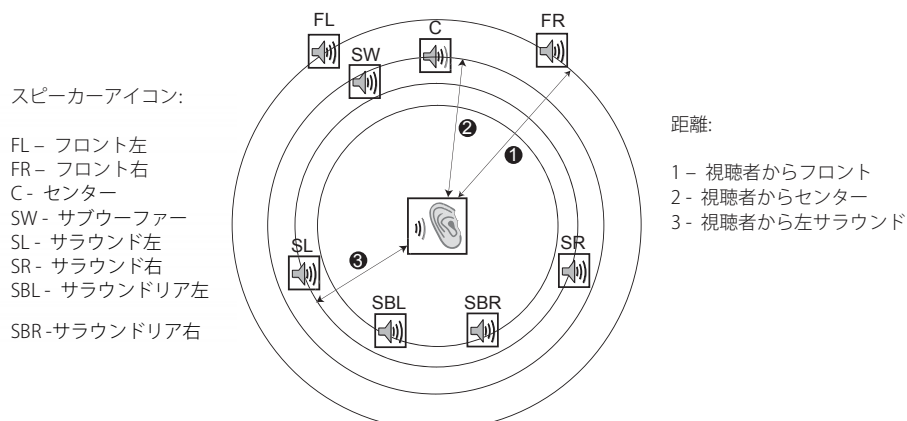
### 注

フロント、サラウンド、サラウンドリアスピーカーの**サイズ**は対で設定されます。片側のスピーカーでサイズを変更すると、自動的にもう一方の設定も変更されます。

2. **距離:** スピーカーへの距離は、対応するオーディオチャンネルの遅延制御に使用されます。遅延は、スピーカーの配置に起因するオーディオ伝搬時間の差を補正するためのものです。

スピーカーの距離による補正は、AVレシーバーがチャンネル遅延を調節してスピーカーへの距離差を補正する機能を持っている場合には不要です。お使いのレシーバーにそのような機能がない場合 (マルチチャンネルのアナログ入力に対しての補正機能を持つレシーバーはほとんどありません)、プレーヤー側での調節を行うことができます。スピーカー距離遅延は、マルチチャンネル オーディオのデコード時にのみ適用されます。ビットストリームのオーディオ出力をAVレシーバーに使用している場合、ビットストリームオーディオではスピーカー距離遅延の調節は行われません。

典型的な7.1-チャンネルのスピーカーレイアウトと距離は以下のように表示されます:



上の図で、リスニングポジションからフロント右、または左スピーカーまでの距離を (フィート単位で) 測り、**スピーカー設定メニュー**でフロントスピーカーの距離 (上図の①) を入力します。

次に、センタースピーカー (②) からリスニングポジションまでの距離を (フィート単位で) 測り、**チャンネルディレイ設定ページ**でカーソルを移動してセンタースピーカーをハイライト表示し、距離をフィートで (できるだけ正確に) 入力します。これをシステムのすべてのスピーカー (センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドリア左、サラウンドリア右、サブウーファー) で繰り返します。リスニングポジションにすべてのスピーカーからの音波が同時に到達するように、プレーヤーは適切に信号を遅延させます。

すべてのスピーカーに個別に距離を設定することもできます。その場合、スピーカーへの距離は実際の空間距離に設定します。

チャンネル遅延設定がお使いのスピーカー構成に合わない場合には、すべての距離を同じに指定して、お持ちのレシーバー/アンプでチャンネル遅延を設定してください。

3. **トリム**:スピーカーのトリムレベルパラメーターで、個別チャンネルの各々に音量を設定します。ほとんどのAVレシーバーでは、チャンネルトリムを調節してスピーカーの感度差を補正する機能を持ちますので、通常はこのチャンネルトリム機能を使う必要はありませんが、お使いのレシーバーにこのような機能がない場合 (多くのレシーバーはアナログのマルチチャンネル入力に対してのチャンネルトリム機能に対応していません)、プレーヤーの方でチャンネルトリムの調節を行うことができます。正確な結果を得るために、*Digital Video Essentials HD Basics* のような較正用ディスクのテストトーンとSPL (Sound Pressure Level) メーターの使用をお勧めします。トリムレベルは $\pm 10\text{dB}$ の範囲で $0.5\text{dB}$ 刻みで設定することができます。

**注**

- $0\text{dB}$ を超える**トリムレベル**を使用すると、すでに高いオーディオレベルのソースではひずみが発生してしまうことがあり、波形がクリップしてひずみが耳に聞こえる状態になってしまいます。このような状況では、ひずみがなくなるまで**トリムレベル**を下げる必要があります。スピーカーに**トリムレベル**を使う場合には、最も感度の低いスピーカーの**トリムレベル**を $0\text{dB}$ に設定し、その他のスピーカーの**トリムレベル**には負の値を指定することをお勧めします。
- **テストトーン**をプレーヤーのトリム制御に利用することができます。また、各スピーカーには個別にトリムレベルを設定することができ、対のスピーカーの設定がリンクされているようなこともありません。

## その他のオーディオ出力設定

スピーカー設定以外にも、クロスオーバー周波数とDynamic Range Controlのオーディオ出力設定を行うことができます:

1. **クロスオーバー:** すべてのスピーカーでベースマネージメントが動作し始める周波数を設定します。スピーカーのサイズが**スピーカー設定**(71ページ) で**スモール**に設定されていると、ひずみを回避するために設定された周波数以下の低音情報はスピーカーに伝送されません。サブウーファーがある場合には、低周波数成分はサブウーファーに伝送されます。スピーカーのサイズがすべて**ラージ**に設定されているとベースマネージメントは適用されません。
  - **40Hz / 50Hz / 60Hz / 70Hz / 80Hz / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 130Hz / 140Hz / 150Hz / 160Hz / 200Hz / 250Hz** – 設定が可能なクロスオーバー周波数で、**上下矢印ボタン**と**ENTER**ボタンを押して選択することができます。このオプションは (センター、フロント、サラウンド、サラウンドリア)のすべてのスピーカーに適用されます。クロスオーバー周波数の出荷時設定は**80Hz**です。
2. **Dynamic Range Control:** Dynamic Range Compression (DRC) を設定します。DRCは、ワイドレンジのデジタルオーディオに共通な音圧の山と谷を平滑化します。DRCを設定すると、低音量で再生中の小音量のオーディオが聞き取りやすくなります。DRCの使用を中止すると、元の録音に収録された音のエネルギーに戻ります。
  - **オート** – ディスクで指定されたダイナミックレンジで再生します。DRC指定がDolby TrueHDオーディオトラックにエンコードされた、一部のブルーレイディスクにのみ適用されます。
  - **オン** – DRCをすべてのDolbyやDTSオーディオフォーマットに適用します。このオプションはすべてのDVDとブルーレイディスクに適用されます。
  - **オフ** – DRCを無効に設定します。

### 注

オーディオフォーマットが**PCM**に設定されると、**Dynamic Range Control**がアナログオーディオ出力 (ステレオおよびマルチチャンネル) とデジタルオーディオ出力 (HDMI、同軸、光) に適用されます。

3. **DTS Neo:6モード:** DTS Neo:6のオーディオ出力を有効に設定して、リスニングモードを選択します。DTS Neo:6はデジタルの信号処理で、元のステレオのソースを (L、R、C、L<sub>s</sub>、R<sub>s</sub>、L<sub>R</sub>、R<sub>R</sub>)の7.0や7.1 (ベースマネージメント付き) 7.1のサラウンドに拡張します。
  - **音楽** – ステレオの音楽ソースに対してDTS Neo:6 オーディオ出力を有効に設定します。
  - **シネマ** – デジタルのテレビSTBやステレオのムービーソースに対してDTS Neo:6 オーディオ出力を有効に設定します。
  - **オフ (出荷時設定)** – DTS Neo:6を無効に設定して元のオーディオ品質を保持します。
4. **ボリューム出力:** アナログの音量調節 (可変オーディオ) を有効/無効に設定します。指定可能なオプションは。
  - **可変** – アナログの音量調節を有効に設定します。リモコンの**VOL+/-**ボタンでアナログオーディオ出力レベルを上げたり下げたりします (最大は100です)。
  - **固定** – アナログの音量調節を無効に設定します。リモコンの**VOL+/-**ボタンでアナログのオーディオ出力は調節できなくなり、音量レベルは100に固定されます。
5. **電源投入時の音量:** 電源投入時の初期オーディオ音量を設定します。このオプションは7.1とStereoのオーディオ出力に適用されます。
  - **最後 (デフォルト)** – 前回プレーヤーの電源が落とされた時の音量に設定します。通常はこの設定をお勧めします。
  - **40 (Custom)** – 電源投入時の音量をお好きなレベルに設定します。リモコンの左右矢印キーを使用して音量レベルを調節します。最初は40に設定されています。

6. **最大音量:** 最大音量レベルを設定します。このオプションは7.1とStereo のオーディオ出力に適用されます。リモコンの左右矢印キーを使用して音量レベルを調節します。最初は100に設定されています。
7. **A/V Sync:** オーディオがビデオと同期するように、微小な遅延を付け加えることができます。リモコンの**左右矢印**ボタンでオーディオ遅延の増減が可能です。遅延は-100msから+200msの範囲で10ms単位で調節することができます。設定した遅延時間は、HDMIの1および2、同軸、光7.1、ステレオ出力等の出力端子に適用されます。

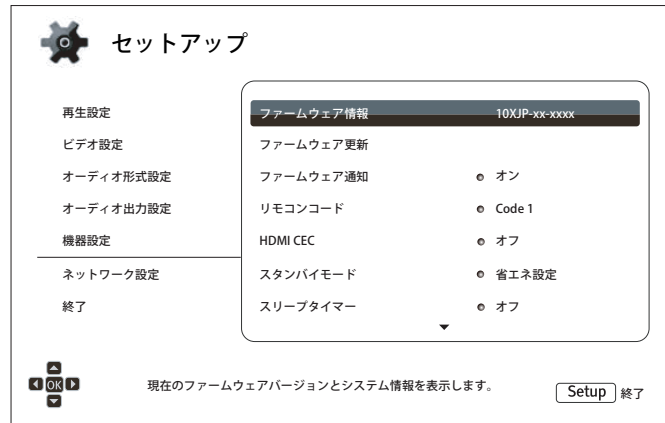
**注**

- 出力ごとに使われているオーディオ出力のアルゴリズムや信号経路が異なるため、出力端子ごとに実際のオーディオ遅延効果が異なることがあります。このため、実際に使用する出力端子に応じて設定を調節するようにします。
- オーディオ遅延を打ち消すために、プレーヤーは負の調節値を自動的に適用します。ビデオの入力ソースやビデオ処理に必要な時間に応じて、メインのデコーダーチップはオーディオとビデオの同期が最適となるように自動的にオーディオ遅延を適用します。負の値は自動オーディオ遅延を軽減し、正の値は遅延を付加します。負の値をプレーヤーの自動遅延を超えて設定すると、自動遅延が完全にキャンセルされた状態となります。たとえば、視聴中のビデオソースに対してプレーヤーが70msの自動遅延を適用しているときに「A/V Sync」の値を-100msに設定したような場合、70msのオーディオ遅延は完全にキャンセルされてオーディオの遅延は全くなくなってしまいます。この設定を使用してオーディオをビデオより先に再生させることはできません。
- HDMI INで送信されるコンテンツに対して「A/V Sync」調節では正の値のみが有効となります。

8. **ヘッドホン音量:** ヘッドホン出力のデフォルト音量を入力します。音量を調節するには、**ENTER**ボタンを押して音量設定バーを表示し、**左右矢印**または**VOL+/-**ボタンで値を変更します。出荷時には75に設定されています。
9. **XLR端子極性:** BDP-105DJPのBALANCED STEREO AUDIO OUT端子極性を設定します。BDP-105DJP端子の「ホット」(正)と「コールド」(負)ピン位置(17ページ)と、お使いのオーディオシステムのピンを比べて設定してください。次のオプションが設定可能です。
  - **標準** – お使いのオーディオシステムのXLRピン位置がBDP-105DJP端子の位置と一致している場合。
  - **反転** – お使いのオーディオシステムの「ホット」(正)と「コールド」(負)ピン位置が、BDP-105DJP端子のピン位置と逆の場合。
10. **ステレオ信号:** STEREOとXLR BALANCED STEREO オーディオ端子経由で処理、送信されるオーディオソースを選択します。次のオプションから選択が可能です。
  - **ダウンミックス** – ステレオまたはダウンミックスされたステレオ信号が処理されて、ステレオ出力専用端子から出力されます。
  - **フロント左/右** – フロント左 (FL) とフロント右 (FR) の信号が、ステレオ出力専用端子に出力されます。このオプションは、ステレオ専用出力用の高性能DACハードウェアを、ステレオ専用出力やゾーン2出力が必要ない場合に、マルチチャンネルで利用するためのものです。このオプションの選択時には、7.1ch / 5.1ch / Stereo Audioグループのフロント出力としてステレオ出力専用ポートを使い、FL/FRのRCA端子には接続しないようにします。

## 機器設定

セットアップシステムの**機器設定**部分では、その他のハードウェアや制御機能に関するプレーヤーのオプションを設定します。



1. **ファームウェア情報:** 現在インストールされているファームウェアのバージョンを表示します。
2. **ファームウェア更新:** プレーヤーのファームウェアをアップグレードします。再生が完全に停止しているか、ディスクがセットされていない場合にのみ操作が可能です。プレーヤーのファームウェアは3種類の方法でアップグレードすることができます。

ファームウェアは、プレーヤーの機能を制御するシステムソフトウェアです。ブルーレイディスクの仕様は新しく発展中であるため、プレーヤーの製造後に策定されたブルーレイディスク仕様の新機能が使われる可能性があります。最善の視聴環境を保証するためにはプレーヤーのファームウェアを適宜アップデートする必要があります。[www.oppodigital.jp](http://www.oppodigital.jp)で最新のファームウェアアップデートとアップデートのインストール方法を確認してください。

プレーヤーのファームウェアをアップデートするには次の3種類の方法があります。

- **USBメディアから** – [www.oppodigital.jp](http://www.oppodigital.jp)からUSBドライブにファームウェアのファイルをダウンロードして、そのUSBドライブを使用してプレーヤーのアップグレードを行います。ファームウェアダウンロードのウェブページにある指示に従ってください。
  - **ディスクから** – ディスクイメージを[www.oppodigital.jp](http://www.oppodigital.jp)のウェブサイトからダウンロードしてアップグレードディスクを焼くこともできます。アップグレードディスクに添付されている指示に従ってください。
  - **ネットワークから** – プレーヤーがインターネットに接続されているとき (22ページ、79ページ)、インターネット経由でプレーヤーをアップグレードすることができます。テレビ画面に表示される指示に従ってください。
3. **ファームウェア通知:** プレーヤーがインターネットサーバー上にあるファームウェアを自動的に確認して、新しいファームウェアが見つかった場合に通知するかどうかを設定します。
    - **オン** – ファームウェアのアップデートを自動的に確認して、新しいファームウェアが見つかった場合に通知します。ネットワーク接続されている必要があります。
    - **オフ** – ファームウェアのアップデートを自動的に確認しません。
  4. **リモコンコード:** BDP-105DJPは4種類のリモコンコードのいずれかに応答することができます。出荷時の設定は「Code 1」です。BDP-105DJPの近くで他のOPPO製品を使う場合には、他の製品がBDP-105DJPのリモコンに反応してしまう場合があります。このような状況を防ぐために別のリモコンコードを選択することができます。選択可能なコードは次の通りです。

- **Code 1** – OPPOディスクプレーヤーのリモートコードは1に設定されます。出荷時に設定されているリモートコードです。
- **Code 2** – OPPOディスクプレーヤーのリモートコードは2に設定されます。BDP-105DJPのそばに別のOPPO製品が設置されている場合に使います。
- **Code 3** – OPPOディスクプレーヤーのリモートコードは3に設定されます。BDP-105DJPのそばに別のOPPO製品が設置されている場合に使います。
- **Alt. Code** – 代替リモートコードです。代替のリモコンコードで、テレビ、プロジェクター、AVレシーバーに付属のユニバーサルリモコンがOPPOプレーヤーに使えるようにすることができます。ユニバーサルリモコンにDVDプレーヤーの制御機能がある場合、東芝、Philips、Magnavox、Marantz、ZenithのDVDプレーヤーのコードを使用してリモコンをプログラムしてみてください。これらのブランドのリモコンにも数種類のコードがありますので、うまく動作するコードが見つかるまで何回か異なるコードを試さなければならない場合があります。

新しいリモートコードを選択したら、リモコンも同じコードを使用するように変更しなければなりません。詳細は10ページの**リモートコードの変更**をご覧ください。**Alt. Code**を選択した場合には、付属のリモコンではプレーヤーを操作することはできなくなってしまいます。代わりに、適切なコードセットが設定されたユニバーサルリモコンを使用するようにしてください。

5. **HDMI CEC:** HDMI Consumer Electronics Control (CEC) モードを設定します。CECはHDMIのオプション機能で、HDMI接続を利用して便利なリモコン機能とコンシューマーエレクトロニクス機器の自動設定を提供します。このリモコン機能では、HDMI接続された複数の機器が1種類のリモコンで制御できるようになります。たとえば、テレビのリモコンを使ってブルーレイディスクプレーヤーの再生を制御することができます。また自動設定機能では、ブルーレイディスクプレーヤーがディスクの再生を開始すると、自動的にテレビの電源を入れて適切な入力に切り替えることができます。さらに、プレーヤーの電源を切るとテレビの電源も自動的に切れるようになります。この機能の実装方法と互換性は機器メーカーにより異なり、一部の機能のみを実装したり、独自の機能を追加したりすることがあります。メーカー固有のHDMI CEC機能の実装は、往々にして「...Link」や「...Sync」といった固有名称で呼ばれます。BDP-105DJPはHDMI出力それぞれで3種類のHDMI CEC機能モードに対応しています:
- **HDMI 1** – HDMI CECがHDMI 1出力で有効になります。他の機器がプレーヤーと互換性がある場合に使用します。
  - **HDMI 1 (Limited)** – HDMI CECがHDMI 1出力で有効になりますが、BDP-105DJPは再生コマンドにのみ反応して、電源のオン/オフや入力選択のコマンドを送信したり反応したりしません。自動設定機能で機器のオン/オフを行いたくない場合にこのモードを使用します。
  - **HDMI 2** – **HDMI 1**と同様に、HDMI CECがHDMI 2出力で有効になります。
  - **HDMI 2 (Limited)** – **HDMI 1 (Limited)**と同様に、HDMI CECがHDMI 2出力で有効になりますが、BDP-105DJPは再生コマンドにのみ反応します。
  - **オフ (出荷時設定)** – HDMI CEC機能は両方のHDMI出力端子で無効に設定されます。プレーヤーは他の機器からのHDMI CECコマンドに反応しません。また、他の機器の自動設定も行いません。
6. **スタンバイモード:** 2種類のスタンバイモードから選択します。**省エネ設定**モードでは、プレーヤーの消費電力は最小となりますが、電源投入から操作準備が整うまでの時間がかかるようになります。**クイックスタート**モードでは、プレーヤーの起動は非常に速くなりますが、スタンバイ時の消費電力が増大します。
- **省エネ設定 (出荷時設定)** – プレーヤーの起動に若干時間がかかるようになりますが、スタンバイモードでの消費電力が少なくなります。通常の使用にはこのモードをお勧めします。
  - **クイックスタート** – プレーヤーの起動時間は短くなりますが、スタンバイ時の消費電力が増大します。プレーヤーの使用頻度が高い場合や、プレーヤーのMHLポートに接続している機器にプレーヤーのスタンバイ時にも電力を供給しなければいけない場合にこのモードをお勧めします。
7. **スリープタイマー:** プレーヤーが自動的に電源を切断するまでの時間を指定することができます。
- **オフ (出荷時設定)** – プレーヤーは自動的に電源を切断しません。



- **30/45/60/90/120分** – 自動電源切断までの時間を（分単位）この中から選択することができます。上下矢印ボタンで希望の時間を選択し、**ENTER**ボタンで確定します。設定後には分単位の残り時間が「スリープタイム」オプション右側に表示されます。
- 8. **フロントパネル輝度:** 前面のVFD表示窓や、トレイの**OPEN/CLOSE**ボタンバックライトの表示明度を制御します。ビデオ鑑賞中に表示が邪魔になると感じた場合、表示を暗くしたり消したりすることができます。
  - **標準** (出荷時設定) – VFD表示窓とトレイの**OPEN/CLOSE**ボタンのバックライトは最大輝度となります。
  - **輝度低下** – VFD表示窓とトレイの**OPEN/CLOSE**ボタンのバックライトが暗くなります。
  - **オフ** – VFD表示窓とトレイの**OPEN/CLOSE**ボタンのバックライト照明が消灯されます。このモードでは、ユーザーが何か操作をすると、表示とバックライトが一瞬だけ点灯されます。
- 9. **キャッシュメディア情報:** オンラインメディアファイル情報のキャッシュオプションを設定します。このオプションを設定すると、接続されたUSBドライブのルートディレクトリーに作成される「OPPO\_Media\_Info」フォルダーに、メディア情報の一部をキャッシュすることによって、メディアのブラウズをより快適に行うことができるようになります。
  - **オン** (推奨設定) – ダウンロードされたメディア情報は、同じUSB/ハードディスク/メモリーに保存されてブラウズをより速く実行することができるようになります。
  - **オフ** – ダウンロードされたメディア情報は保存されません。インターネットからメディア情報を取得するには時間がかかることがあり、メディアファイルのブラウズが遅くなる危険性があります。
- 10. **ストレージ:** BD-Videoコンテンツの常用ストレージを管理します。常用ストレージは、*BonusView*や*BD-Live*機能の追加コンテンツを収容するためのデータの保存領域です。データはプレーヤーの電源が切断されてもそのまま保存されます。次の常用ストレージ管理機能を設定することができます。
  - **ストレージ機器** – 常用ストレージとして使用するストレージ機器を選択します。BDP-105DJは内部フラッシュメモリーのうち1GB程度を常用ストレージとして割り当てます。プレーヤーには常用ストレージとして使用可能なUSBドライブを接続することのできるUSBポートが3つ装備されています。次の中から選択します。
    - **内蔵フラッシュ** – 内部フラッシュメモリーを常用ストレージとして使用します。BDP-105DJは内蔵フラッシュメモリー1GBを常用ストレージ用に割り当てています。
    - **USBドライブ** – USBドライブを常用ストレージとして使用します。BD-Liveの仕様に適合するには、1GB以上のフラッシュドライブが必要です。USBのハードディスクは推奨されません。

## 注

新たに設定したストレージ機器の選択は、プレーヤー再起動されるまで有効になりません。**ストレージ機器**オプション変更後には、必ずプレーヤーの電源を切ってから再起動するようにしてください。

- **スペースを使用** – 常用ドライブの使用スペースを表示します。使用スペースが大きくなり使用可能なスペースが非常に少なくなると、ブルーレイディスクの中には正常動作しなくなるものがあります。
  - **ストレージを消去します** – 常用ストレージからBD-Videoデータを消去したり、常用ストレージとして使用するためにUSBドライブを初期化したりします。
- 11. **Netflix:** Netflixアカウントの認証を解除します。
  - **Netflix ESN** – プレーヤーのNetflix ESN (Electronic Serial Number、電子シリアル番号) を表示します。
  - **Netflix認証解除** – プレーヤーのNetflixアカウントで認証を解除します。一旦解除すると、Netflixをプレーヤーからまたアクセスできるようにするには、**Home**メニューで**Netflix**を選択して認証プロセスを再度実行する必要があります。
- 12. **VUDU:** VUDU HDムービーアカウントの認証を解除します。

13. **設定の管理:** プレーヤーの各種設定情報をバックアップしたり、復旧したりすることができます。このオプションの適用範囲はSetup (セットアップ)メニュー関連の項目です。Wi-Fiのパスワード、インターネットアプリケーションのアクティベーションコード、アカウント情報といった個人情報はエクスポートやインポートされません。
- **バックアップの設定** – プレーヤーの設定を最初に検出されるUSBストレージ機器にバックアップします。プレーヤーは「BDP105D.cfg」のような「[プレーヤーモデル名].cfg」という名称の構成ファイルを作成しますが、保存されるバイナリー形式の情報はOPPOの技術サポートにしか解読することができません。
  - **リストアの設定** – 外部USBストレージからプレーヤーの設定を復旧します。プレーヤーは最初に検出されるUSBストレージ機器で構成ファイルを検索します。不要な混乱を回避するために、復旧時には関係のない他のUSBストレージ機器を接続しないようにします。
14. **自動電源オフ:** プレーヤーが未稼働で30分を経過したとき、電源を自動で切ることが可能になります。これは消費電力の削減とプレーヤー寿命の向上に役立ちます。
- **オン** – 自動電源オフを有効にします。
  - **オフ (デフォルト)** – 自動電源オフを無効にします。
15. **出荷時の状態にリセット:** 出荷時の設定に戻します。この操作で、**BD-Live Network Access**も**オフ** (79ページ)となり、**ストレージを消去します** (77ページ) も実行されてしまいます。ただし、リモコンのコード、視聴制限用パスワードと制限年齢はリセットされません。再生が完全に停止した状態か、ディスクがセットされていない状態でないと、この操作を実行することはできません。
- **アカウントと設定を消去します** (出荷時設定) – すべての設定を工場出荷時の状態に戻し、アプリケーションの認証や、Netflix、VUDU等のアカウント情報も削除します。
  - **設定の消去します** – すべての設定を工場出荷時の状態に戻しますが、アプリケーションの認証やアカウント情報は保持されます。

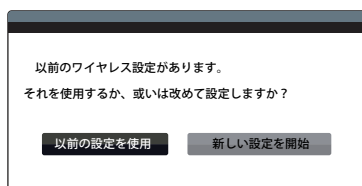
## ネットワーク設定

セットアップシステムのネットワーク設定部分では、プレーヤーのネットワーク接続設定、接続テスト、BD-Liveアクセスの許可/不許可の設定を行うことができます。

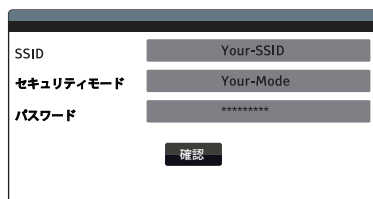


1. **接続情報:** 接続種類、IPアドレス、イーサネットMACアドレス、無線MACアドレス等のインターネットへの現在の接続情報を表示します。
2. **プレーヤー名:** ローカルネットワーク共有製品で表示されるプレーヤーの識別名を入力、表示します。名称を変更するには、**ENTER**ボタンを押してソフトキーボードを起動します。名称にはスペースを含む最大12文字までが指定可能です。
3. **BD-Liveネットワーク:** BD-Liveコンテンツへのアクセスを許可、制限します。
  - **オン** – BD-Liveへのアクセスは許可されます。
  - **限定** – BD-Liveへのアクセスは、コンテンツのオーナー証明が有効な場合のみ許可されます。証明がない場合には、BD-Liveコンテンツへのインターネットアクセスは許可されません。このオプションを設定することによって、信頼できるコンテンツにのみアクセスができるようになりますが、マイナーなインディペンデントコンテンツプロバイダーへのアクセスが遮断される可能性があります。
  - **オフ (推奨設定)** – BD-Liveへのアクセスは禁止されます。
4. **ローカルネットワーク:** ローカルネットワーク (家庭内メディア共有) のクライアント設定を行います。ローカルネットワークは、オーディオ、ビデオ、写真を家庭内ネットワークにあるメディアサーバーから、プレーヤーがストリーム配信できるようにします。
  - **オン (出荷時設定)** – ネットワークストリーミングを有効にします。ブロードバンドのインターネット接続 (22ページ) と、ハードウェア/ソフトウェアの特別な設定 (ページの家庭内ネットワークのメディア共有: 44ページ) が必要となります。**HOMEメニューのネットワークオプション (45ページ)** に一覧表示されるメディアサーバーを使用することができます。
  - **オフ** – ローカルネットワークのストリーミングを無効に設定します。**ネットワークメニュー**にメディアサーバーは表示されず、**ネットワークメニュー**を立ち上げようとすると警告メッセージが表示されます。
5. **Gracenote検索:** ディスクのタイトル、ジャンル、発売 (制作) 年、アルバムのアーティスト、カバーアート等の追加情報を提供するGracenoteオンラインデータベースへのアクセスを許可します。
  - **オン (出荷時設定)** – Gracenoteのサービスを有効に設定してプレーヤーがメディア情報やカバーアートを検索できるようにします。ブロードバンドのインターネット接続が必要です (22ページ)。
  - **オフ** – Gracenoteのサービスを無効に設定します。
6. **インターネット接続:** インターネット接続の種類を選択します。

- **イーサネット**(出荷時設定) – イーサネットケーブル経由でインターネットに接続します。22ページの接続方法を参照してください。このオプションを選択すると、**ワイヤレス設定**のオプションは灰色表示されて選択ができなくなります。
  - **ワイヤレス** – 日本ではWireless機能は利用できません。
  - **オフ** – インターネットアクセスが禁止されます。**ネットワーク設定**画面の残りのオプションがすべて灰色表示になり選択することができなくなります。
7. **ワイヤレス設定** – **ワイヤレス設定アシスタント**を立ち上げます。**ワイヤレス設定**オプションの選択や、**インターネット接続メニュー**で**ワイヤレス**を選択することによっても **ワイヤレス設定アシスタント**を起動することができます。その後の手順は次の通りです:
- プレーヤーは正常動作した一番最近の無線設定を検索します。検索に成功した場合には、その旨メッセージが表示されます。

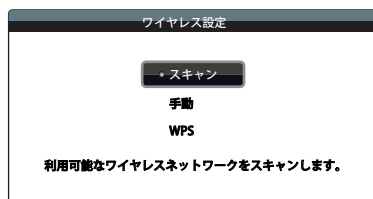


- **以前の設定を使用** – 正常動作した一番最近の無線設定を使用します。SSID (ネットワーク名)、セキュリティーモード、セキュリティーキー (パスワード) 等の以前に使用した無線設定の概要が表示されます。



以前の設定の確認後に、プレーヤーは接続のテストを実行しその結果を表示します。

- **新しい設定を開始** – 無線接続の構成を新規作成します。BDP-105DJPは次の3種類の無線設定方法に対応しています。



- ✧ **スキャン** – 利用可能な無線ネットワークをスキャンします。利用可能な無線ネットワークを自動的にスキャンして検索結果をウィンドウ表示します。**上下矢印**ボタンでネットワークをハイライト表示し、**ENTER**ボタンで選択します。ネットワークが保護されている場合には、リモコンを使用してセキュリティーキーを入力する必要があります。このあと、プレーヤーは接続テストを実行してその結果を表示します。
- ✧ **手動** – 無線ネットワークの情報を手動で入力します。リモコンを使ってSSIDを入力し、セキュリティーモードを選択してセキュリティーキーを入力します。このあと、プレーヤーは接続テストを実行してその結果を表示します。
- ✧ **WPS** – Wi-Fi Protectedの設定を始めます。BDP-105DJPはWPSの標準に対応し家庭内ネットワークの安全かつ簡便な構築を行うことができます。次の設定オプションが選択できます。



- ✓ **PIN** – Personal Identification Number (PIN) を使用してWPSを構成します。BDP-105DJPがPINコードを生成しますので、お使いの無線ルーターまたはアクセスポイントのソフトウェア制御パネルで入力します。オンスクリーンの指示に従ってください。
- ✓ **PBC** – プッシュボタン制御でWPSを構築します。無線ルーターまたはアクセスポイントのPBCボタンを押して、無線接続を開始します。オンスクリーンの指示に従ってください。

#### 注

- **SSID**は、Service Set Identifierの頭文字で、無線ルーターやアクセスポイントの識別子を表し、**network name**とも呼ばれます。
- **WPS**は、Wi-Fi Protected Setup (WPS) の頭文字で、家庭内無線ネットワーク構成のための安全かつ簡便な最新標準で、**Wi-Fi Simple Config**とも呼ばれます。WPSを使用するには、WPSに対応したルーターかアクセスポイントが必要です。

#### 8. IP設定: プレーヤーのIPアドレス取得方法を決定します。

- **自動 (DHCP)** – プレーヤーは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用してIPアドレス情報を自動的に取得します。出荷時の設定ですが、ほとんどの場合にこの自動IP設定をお勧めします。
- **手動** – IPアドレスの数字を直接入力します。ルーターがDHCPサーバー機能を持っていない場合や、機能が無効に設定されている場合にのみ、手動でIP構成をするようにしてください。インターネット接続の手動構成方法や設定値に関する詳細は、お使いのブロードバンドルーター/モデムのマニュアルを参照するか、インターネットのプロバイダーに連絡してください。
  - **インターネット接続:** インターネット接続 の設定状態により、「ワイヤレス」または「イーサネット」が表示されます。
  - **IPアドレス:** プレーヤーのInternet Protocolアドレスを指定します。IP設定が**自動 (DHCP)**に設定されると、DHCPから取得される値が表示されて変更することができなくなります。
  - **サブネットマスク:** IPアドレスのそれぞれにはサブネットマスクが対応し、ネットワークトラフィック通信をルーター経由で行うか、同じネット上の別の機器プレーヤーに直接アクセスするかを決定するために使われます。IP設定が**自動 (DHCP)**に設定されている場合には、DHCPから取得される値が表示されて変更することができなくなります。
  - **ゲートウェイ:** ルーターのIPアドレスで、「デフォルトゲートウェイ」または「デフォルトルーター」とも呼ばれます。IP設定が**自動 (DHCP)**に設定されている場合には、DHCPから取得される値が表示されて変更することができなくなります。
  - **DNS 1:** プライマリーDNS (Domain Name System) サーバーのIPアドレスを指定します。DNSは (www.oppodigital.jpのような) 人間が認識可能なアドレスを数字のIPアドレスに変換するための仕組みで、IP設定が**自動 (DHCP)**に設定されている場合には、DHCPから取得される値が表示されて変更することができなくなります。

- **DNS 2** セカンダリーDNSサーバーのIPアドレスで、**IP設定が自動 (DHCP)**に設定されている場合には、DHCPから取得される値が表示されて変更することができなくなります。
9. **プロキシ設定:** プロキシサーバーの設定を行います。プロキシサーバーは、クライアント、サーバー間ネットワーク通信の中継を行い、セキュリティー、匿名性、地域制約の回避等のメリットを提供することができます。
- **オン** – インターネットにプロキシサーバー経由でアクセスします。
    - **プロキシホスト:** リモコンを使用してプロキシのホスト名を入力します。
    - **プロキシポート:** リモコンを使用してプロキシのポート名を入力します。
  - **オフ** (デフォルト) – プロキシサーバーを使用しません。
- すでに動作中のプロキシのホストがあり、プロキシサーバー経由でないとインターネットにアクセスできない場合を除き、**プロキシ設定** は**オフ**のまま使用することをお勧めします。
10. **接続テスト:** インターネット接続をテストします。初めてプレーヤーをインターネットに繋いだり、**接続方法**、**ワイヤレス設定**、**IP設定**やその他のネットワークパラメーターを変更したりした場合に、このテストを実行することをお勧めします。

# 参考情報

## ご注意

- プレーヤーの寿命を延ばすために、電源切断後30秒以上待ってから電源を再投入するようにしてください。
- 操作が終了したらディスクを取り出して電源を切ります。
- プレーヤー機能の一部が使用できないディスクもあります。
- プレーヤーは一部ディスクのすべての機能に対応していませんが、これは故障ではありません。
- プレーヤーの動作に不安を感じた場合には、いったん電源を切って30秒間待ってから再度電源を入れてください。問題が解決しない場合には、以下の問題解決のための手順を試してみるか、または、お買い求めの販売店までご連絡ください。

## 困ったときには

操作に関する一般的な問題の解決にはこの表を参考にしてください。問題が解決しない場合には、お買い求めの販売店までご連絡ください。

症状	考えられる原因	解決法	参照ページ
音が出ない	オーディオケーブルがきちんと接続されていない	オーディオケーブルをチェックして、必要なら接続し直す。	11 - 21
	ミュート状態になっている	MUTE ボタンを押してミュートをキャンセルする。	31
	音量が低すぎる	VOL +ボタンで音量を 100 まで上げてみる。	30
	SACD 再生でオーディオ接続に同軸/光デジタルオーディオが使われている	SACD の著作権制約により非サポート。アナログや HDMI オーディオ出力を使用する。代わりに SACD Priority を CD モードに設定して、プレーヤーが CD レイヤーを再生するようにする。	19、53
	DVD オーディオ再生でオーディオ接続に同軸/光デジタルオーディオが使われている	DVD の著作権保護により非サポート。アナログや HDMI オーディオ出力を使用する。代わりに DVD ビデオ再生モードに切り替える。	19、53
映像が出力されない	ビデオケーブルがきちんと接続されていない	ビデオケーブルをチェックして、必要なら接続し直す。	11 - 15
	テレビ入力がきちんと選択されていない	プレーヤーが接続されている入力を選択する。	
	「ピュアオーディオ」モードになっている	PURE ボタンを押してこのモードを解除する。	41
	ビデオ出力フォーマットにテレビが対応していない	テレビが対応している出力解像度を選択する。	34
	テレビがビデオシステムに対応していない	再生が完全に終了したら、Setup Menu で正しい TV System に設定する。	56
色が表示されない	テレビがビデオシステムに対応していない	再生が完全に終了したら、Setup Menu で正しい TV System に設定する。	56
	彩度設定が低すぎる	テレビとプレーヤーの彩度設定を確認する。	59
	ビデオ出力ポートが間違っている	「DIAG」出力使用時には、ケーブルがコンポーネントビデオジャックに間違えて接続されていないか確認する。	13

参考情報

色が正しくない	間違った色空間設定	ビデオ出力に HDMI を使用している場合、テレビとプレーヤーの色空間設定を確認する。	62
映像が流れたり割れたりする	テレビがビデオシステムに対応していない	再生が完全に終了したら、Setup Menu で正しい TV System に設定する。	56
「No Disc」や「Unknown Disc」エラーが表示される	ディスクがセットされていないか、非対応のディスクがセットされている	ディスクを取り出して確認する。	27
	ディスクの記録面が汚れている	ディスクを取り出して、汚れや指紋を拭き取る。	4
	ディスクがきちんとセットされていない	ディスクを取り出して、ラベル側が上向き、記録面が下向きでセットされていることを確認する。	27
	レーザーのピックアップヘッドが結露している	プレーヤーの電源を入れてディスクを取り出し、1 時間ほど放置する。	2
リモコンが故障している	リモコンをプレーヤーの受光範囲外で使用している	リモコンを受光範囲内で使用する。	9
	電池の残量が少なくなっている	電池を交換する。	9
	リモコンコードが正しくない	ディスクトレイを開けてリモコンをプレーヤーに向け、リモコンの ENTER ボタンを 5 秒間押し続けてリモートコードを設定する。	10
一時的な機能障害	傷や破損のあるディスクを使っている	ディスクを交換する。	27
	再生中に使えない機能がある	再生を完全に停止して再度試してみる。	27
	他の機器との干渉	他の機器の電源を切って干渉源を特定し、原因となっている機器の場所を移動したり交換したりする。	2
Setup Menu の一部の項目が灰色表示される	ディスク再生中に変更不可の Setup オプションや、他の Setup オプションと相互排他的なものがある	再生を完全に停止してディスクを取り出し、Setup Menu オプションを再度変更してみる。	50
「Connection Test」に失敗する	インターネットに接続していない	ルーターがインターネットに接続していることを確認する。モデムとルーターの電源を一旦落として再起動してみる。可能なら直接インターネット接続してみる。	22、23、79
「Network」にサーバーが表示されない	ネットワーク接続されていない。メディアサーバーが適切に構成されていない。間違えたネットワークに接続している	他のネットワーク機能 (YouTube、Netflix 等) が動作しているか確認する。問題が「Network」機能で特定できたら、メディアサーバーの説明書を参照して適切な構成に訂正する。	22、44
インターネットのストリーミングに失敗する	無線信号が弱い、ネットワーク設定に問題がある	(Setup Menu > Network Setup > Connection Information) でプレーヤーとルーターが通信していることを確認する。DNS サーバーの情報を (Google Public DNS / OpenDNS) に変更してみる。無線接続の場合は接続強度が 50%以上か確認する。低い場合にはイーサネットに接続するか USB 延長ケーブルを使用して Wi-Fi アダプターをルーターの近くに移動してみる。	22、45



## 仕様

設計や仕様は予告なく変更されることがあります。

ディスクの種類*	BD ビデオ、ブルーレイ 3D、DVD ビデオ、DVD オーディオ、AVCHD、SACD、CD、HDCD、Kodak ピクチャーCD、CD-R/RW、DVD±R/RW、DVD±R DL、BD-R/RE
BD プロファイル	BD-ROM Version 2.5 Profile 5 (Profile 1 Version 1.0 および 1.1 と互換)
内部ストレージ	1GB (実際に利用可能な常用ストレージのスペースはシステムの使用状況により変化します)
出力	Analog オーディオ: 7.1ch、5.1ch、ステレオ ステレオアナログオーディオ専用: バランス XLR、シングルエンド RCA 同軸/光オーディオ: 2ch/192kHz までの PCM、Dolby Digital、DTS HDMI オーディオ: 7.1ch/192kHz までの PCM、5.1ch までの DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution および DTS-HD Master Audio HDMI ビデオ: 480i/480p/576i/576p/720p/1080i/1080p/1080p24/4Kx2K、3D フレームパッキング 720p/1080p24
入力	HDMI オーディオ: 5.1ch/192kHz までか 7.1ch/96kHz の PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS and AAC HDMI ビデオ: 480i/480p/576i/576p/720p/1080i/1080p/1080p24/1080p25/1080p30、3D フレームパッキング 720p/1080p24 MHL オーディオ: 5.1ch/192kHz までの PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS MHL ビデオ: 480i/480p/576i/576p/720p/1080i/1080p24/1080p25/1080p30、3D フレームパッキング 720p/1080p24 USB オーディオ: 2ch/192kHz までの PCM、2ch/2.8224MHz/5.6448MHz までの DSD。 同軸/光オーディオ: 2ch/96kHz までの PCM、Dolby Digital、DTS、AAC
アナログオーディオ特性**	周波数特性: (RCA) 20Hz – 20kHz: ±0.2dB、20Hz – 96kHz: -1.5dB (XLR) 20Hz – 20kHz: ±0.3dB、20Hz – 96kHz: -1.5dB SN 比: >130dB (A ウェイト、auto-mute)、>115dB (A ウェイト、非 auto-mute) THD+N: <0.0003%または-110dB (1kHz @ 48k/24b、0dBFS、20kHz LPF) <0.0017%または-96dB (1kHz @ 44.1k/16b、0dBFS、20kHz LPF) 出力レベル: 2.1Vrms (RCA)、4.2Vrms (XLR) @ 0dBFS ダイナミックレンジ: >110dB チャンネルセパレーション: >110dB
ヘッドホンオーディオ特性	周波数特性: 20Hz – 20kHz: ±0.3dB (300Ω) SN 比: >98dB (300Ω) (A ウェイト、非 auto-mute) THD+N: <0.001%または-100dB (1kHz @ 48k/24b、0dBFS、20kHz LPF) 出力電力: 17mW (600Ω)、34mW (300Ω)、63mW (150Ω)、77mW (120Ω)、120mW (60Ω)、187mW (32Ω) (1kHz @ 48k/24b、0dBFS、20kHz LPF、1 チャンネル) ダイナミックレンジ: >110dB チャンネルセパレーション: >90dB
その他の仕様	電源: AC ~100V/~230V、50/60Hz 消費電力: 55W (スタンバイ時: 0.5W、Energy Efficient モード) 寸法: 16.8 x 12.2 x 4.8 インチ (430mm x 311mm x 123mm) 重量: 17.3 lbs (7.9kg)
動作温度	41°F - 95°F 5°C - 35°C
動作湿度	15% - 75% 結露なきこと

\* ユーザーがエンコードしたコンテンツやユーザーが作成したディスクとの互換性は、使用されるメディア、ソフトウェア、技術の多様性のため、ベストエフォートでの対応となり保証はされません。

\*\*公称仕様

言語コード一覧

コード	言語名	コード	言語名	コード	言語名
6565	Afar	7285	Hungarian	8084	Portuguese
6566	Abkhazian	7289	Armenian	8185	Quechua
6570	Afrikaans	7365	Interlingua	8277	Rhaeto-Romance
6577	Amharic	7378	Indonesian	8279	Romanian
6582	Arabic	7383	Icelandic	8285	Russian
6583	Assamese	7384	Italian	8365	Sanskrit
6588	Aymara	7387	Hebrew	8368	Sindhi
6590	Azerbaijani	7465	Japanese	8372	Serbo-Croatian
6665	Bashkir	7473	Yiddish	8373	Singhalese
6669	Byelorussian	7487	Javanese	8375	Slovak
6671	Bulgarian	7565	Georgian	8376	Slovenian
6672	Bihari	7575	Kazakh	8377	Samoan
6678	Bengali, Bangla	7576	Greenlandic	8378	Shona
6679	Tibetan	7577	Cambodian	8379	Somali
6682	Breton	7578	Kannada	8381	Albanian
6765	Catalan	7579	Korean	8382	Serbian
6779	Corsican	7583	Kashmiri	8385	Sundanese
6783	Czech	7585	Kurdish	8386	Swedish
6789	Welsh	7589	Kirghiz	8387	Swahili
6865	Danish	7665	Latin	8465	Tamil
6869	German	7678	Lingala	8469	Telugu
6890	Bhutani	7679	Laothian	8471	Tajik
6976	Greek	7684	Lithuanian	8472	Thai
6978	English	7686	Latvian, Lettish	8473	Tigrinya
6979	Esperanto	7771	Malagasy	8475	Turkmen
6983	Spanish	7773	Maori	8476	Tagalog
6984	Estonian	7775	Macedonian	8479	Tonga
6985	Basque	7776	Malayalam	8482	Turkish
7065	Persian	7778	Mongolian	8484	Tatar
7073	Finnish	7779	Moldavian	8487	Twi
7074	Fijian	7782	Marathi	8575	Ukrainian
7079	Faroese	7783	Malay	8582	Urdu
7082	French	7784	Maltese	8590	Uzbek
7089	Frisian	7789	Burmese	8673	Vietnamese
7165	Irish	7865	Nauru	8679	Volapuk
7168	Scots Gaelic	7869	Nepali	8779	Wolof
7176	Galician	7876	Dutch	8872	Xhosa
7178	Guarani	7879	Norwegian	8979	Yoruba
7185	Gujarati	7982	Oriya	9072	Chinese
7265	Hausa	8065	Panjabi	9085	Zulu
7273	Hindi	8076	Polish		
7282	Croatian	8083	Pashto, Pushto		

## Gracenote Terms of Use

This application or device contains software from Gracenote, Inc. of Emeryville, California ("Gracenote"). The software from Gracenote (the "Gracenote Software") enables this application to do disc or file identification and obtain music-related information, including name, artist, track, and title information ("Gracenote Data") from online servers or embedded databases (collectively, "Gracenote Servers") and to perform other functions. You may use Gracenote Data only by means of the intended End-User functions of this application or device.

This application or device may contain content belonging to Gracenote's providers. If so, all of the restrictions set forth herein with respect to Gracenote Data shall also apply to such content and such content providers shall be entitled to all of the benefits and protections set forth herein that are available to Gracenote.

You agree that you will use Gracenote Data, the Gracenote Software, and Gracenote Servers for your own personal non-commercial use only. You agree not to assign, copy, transfer or transmit the Gracenote Software or any Gracenote Data to any third party. YOU AGREE NOT TO USE OR EXPLOIT GRACENOTE DATA, THE GRACENOTE SOFTWARE, OR GRACENOTE SERVERS, EXCEPT AS EXPRESSLY PERMITTED HEREIN.

You agree that your non-exclusive license to use the Gracenote Data, the Gracenote Software, and Gracenote Servers will terminate if you violate these restrictions. If your license terminates, you agree to cease any and all use of the Gracenote Data, the Gracenote Software, and Gracenote Servers. Gracenote reserves all rights in Gracenote Data, the Gracenote Software, and the Gracenote Servers, including all ownership rights. Under no circumstances will Gracenote become liable for any payment to you for any information that you provide. You agree that Gracenote may enforce its rights under this Agreement against you directly in its own name.

The Gracenote service uses a unique identifier to track queries for statistical purposes. The purpose of a randomly assigned numeric identifier is to allow the Gracenote service to count queries without knowing anything about who you are. For more information, see the web page for the Gracenote Privacy Policy for the Gracenote service.

The Gracenote Software and each item of Gracenote Data are licensed to you "AS IS." Gracenote makes no representations or warranties, express or implied, regarding the accuracy of any Gracenote Data. Gracenote reserves the right to delete data from the Gracenote Servers or to change data categories for any cause that Gracenote deems sufficient. No warranty is made that the Gracenote Software or Gracenote Servers are error-free or that functioning of Gracenote Software or Gracenote Servers will be uninterrupted. Gracenote is not obligated to provide you with new enhanced or additional data types or categories that Gracenote may provide in the future and is free to discontinue its services at any time.

GRACENOTE DISCLAIMS ALL WARRANTIES EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, TITLE, AND NON-INFRINGEMENT. GRACENOTE DOES NOT WARRANT THE RESULTS THAT WILL BE OBTAINED BY YOUR USE OF THE GRACENOTE SOFTWARE OR ANY GRACENOTE SERVER. IN NO CASE WILL GRACENOTE BE LIABLE FOR ANY CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES OR FOR ANY LOST PROFITS OR LOST REVENUES.

©2012. Gracenote, Inc. All Reserved

## **DARBEEVISION, INC. LICENSE AGREEMENT**

NOTICE -- READ THIS BEFORE USING THE DEVICE  
USING THE DEVICE ACCOMPANYING THIS LICENSE INDICATES YOUR ACCEPTANCE OF THESE TERMS AND CONDITIONS. READ ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS LICENSE AGREEMENT PRIOR TO INSTALLING OR USING THE DEVICE. IF YOU DO NOT ACCEPT THESE TERMS, YOU MUST RETURN THE DEVICE TO THE SELLER AND REFRAIN FROM USING IT.

THE DEVICE THAT YOU PURCHASED INCLUDES PROPRIETARY FIRMWARE (HEREINAFTER, THE "PROGRAM") INCORPORATED INTO INTEGRATED CIRCUITS. YOU MAY NOT COPY, MODIFY, REVERSE ENGINEER, CLONE OR TRANSFER THE PROGRAM OR THE PRODUCT'S DOCUMENTATION EXCEPT AS EXPRESSLY PROVIDED IN THIS AGREEMENT.

1. **License:** This Program and the accompanying Documentation are licensed, not sold, to you by Darbeevision, Inc. ("Licensor"). The term "Program" shall also include any updates of the Program licensed to you by Licensor. Subject to the terms of this agreement, you have a non-exclusive and nontransferable right to use the Program and Documentation for (e.g., not for resale or rental or the like), educational, evaluation or personal purposes only. You may use the Program only as incorporated into the integrated circuit that is part of the particular unit of the device that contains it. You agree to use your best efforts to prevent and protect the contents of the Program and Documentation from unauthorized disclosure or use. Licensor and its licensors reserve all rights not expressly granted to you. Licensor's licensees are the intended third party beneficiaries of this agreement and have the express right to rely upon and directly enforce the terms set forth here in.
2. **Limitation on Use:** You may not rent, lease, sell or otherwise transfer or distribute copies of the Program or Documentation to others. You may not modify or translate the Program or the Documentation without the prior written consent of Licensor. You may not reverse assemble, reverse compile or otherwise attempt to create the source code from the Program. You may not use Licensor's name or other trademarks or refer to Licensor or Licensor's products directly or indirectly in any papers, articles, advertisements, sales presentations, news releases or releases to any third party without the prior written approval of Licensor for each such use. You may not release the results of any performance or functional evaluation of any Program to any third party without prior written approval of Licensor for each such release. This product provides the ability to turn off DARBEE Visual Presence (DVP™) processing, because the DVP technology processing feature in this product is not intended for commercial broadcast or theatrical presentation applications. By using this product, you accept that the DVP technology ingredient is intended for personal or small network use and should be switched off if this video processor system is used to process video for commercial broadcast or commercial theatrical viewing applications. An additional commercial license is available from DarbeeVision, Inc. for larger video network, distribution, commercial applications.
3. **Copyright:** The Program and related Documentation are copyrighted by Licensor. You may not copy the Program (or this license). You may make one copy of the Documentation and print one copy of any on-line documentation or other materials provided to you in electronic form. Any and all other copies of the Program and any copy of the Documentation made by you are in violation of this license.

4. **Ownership**: You agree that the Program and Documentation belong to Licensor. You agree that you neither own nor hereby acquire any claim or right of ownership to the Program and Documentation or to any related patents, copyrights, trademarks or other intellectual property. Licensor retains all right, title and interest in and to the Documentation and all copies and the Program at all times, regardless of the form or media in or on which the original or other copies may subsequently exist. This license is not a sale of the original or any subsequent copy.
5. **Term and Termination**: This license is effective until terminated.
6. **DISCLAIMER OF WARRANTY**: LICENSOR PROVIDES THE PROGRAM, THE PROPRIETARY IC AND THE DOCUMENTATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND EITHER EXPRESS, IMPLIED OR STATUTORY, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. All risk of quality and performance of the Program, the device into which it is incorporated and the Documentation is with the Licensee. Should any of the foregoing prove defective, you and not Licensor assume the entire cost of any service and repair. This disclaimer of warranty constitutes an essential part of this agreement.
7. **LIMITATION OF REMEDIES**: IN NO EVENT WILL BE LIABLE FOR ANY INDIRECT DAMAGES OR OTHER RELIEF ARISING OUT OF YOUR USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM, THE DEVICE INTO WHICH IT IS INCORPORATED OR THE DOCUMENTATION, INCLUDING, BY WAY OF ILLUSTRATION AND NOT LIMITATION, LOST PROFITS, LOST BUSINESS OR LOST OPPORTUNITY, OR ANY INDIRECT, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL OR EXEMPLARY DAMAGES, INCLUDING LEGAL FEES, ARISING OUT OF SUCH USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM, EVEN IF LICENSOR OR AN AUTHORIZED LICENSOR DEALER, DISTRIBUTOR OR SUPPLIER HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES, OR FOR ANY CLAIM BY ANY OTHER PARTY.
8. **Applicable Law; Dispute Resolution**: This license will be governed by the laws of the State of California, without reference to conflicts of laws principles. The United Nations Convention on Contracts for the Sale of Goods does not apply to this license. All disputes hereunder shall be settled in the state or federal courts located in Orange County, California.
9. **Export Controls**: The Program and the underlying information and technology may not be downloaded or otherwise exported or reexported (i) into (or to a national or resident of) Cuba, North Korea, Iran, Syria, Sudan or any other country to which the U.S. has embargoed goods; or (ii) to anyone on the U.S. Treasury Department's list of Specially Designated Nationals or the U.S. Commerce Department's Table of Deny Orders. By downloading or using the Program, you are agreeing to the foregoing and you represent and warrant that you are not located in, under the control of, or a national or resident of any such country or on any such list.
10. **U.S. Government End Users**: Every sale, license, or other distribution of any Licensee Product to a customer which is a department, division, or agency of the United States Government shall contain the following provision, or a substantially equivalent provision: U.S. GOVERNMENT RESTRICTED RIGHTS LEGEND. Use, duplication, or disclosure of this software by the Government is subject to the conditions set forth in FAR 12.212 and DFARS 227.720 and/or in similar or successor clauses in the FAR or Supplements to it. Any and all use, duplication, transfer for any reason is restricted in accordance with the terms and conditions of the Licensor's standard commercial license agreement which is incorporated herein as though fully set forth. All other use, for any reason, is prohibited. Unpublished rights are reserved under the Copyright Laws of the United States.
11. **No Other Agreements**: This Agreement constitutes the entire agreement between the parties with respect to the Program and the Documentation, and supersedes any other written or oral agreement.

oppo®